秋田県文化財調査報告書第２７０集

遺跡詳細分布調査報告書

1997・3

秋田県教育委員会

遺跡詳細分布調査報告書

1997・3

秋田県教育委員会

序

秋田県には4,000箇所を数える遺跡が知られており、先人の足跡として多くの埋蔵文化財が受け継がれてきております。これらは大地に刻まれた歴史であり、損なうことなく未来へと受け継がれるべきものであります。

近年、高速交通体系や農業基盤の整備など、豊かで快適な生活を築くための地域開発が大規模に行われ、埋蔵文化財の保護との調和を図ることが急務となってきております。遺跡分布調査と遺跡範囲確認調査はそのための基礎となるものであります。

本報告書は、平成８年度に国庫補助事業として実施した琴丘能代道路建設事業・秋田空港アクセス道路整備事業などの遺跡分布調査と、森吉山ダム建設事業・日本海沿岸東北自動車道象潟秋田線建設事業などの遺跡範囲確認調査の結果をまとめたものであります。

最後になりましたが、これらの調査にご協力いただきました関係各機関に感謝申し上げるとともに、今後とも埋蔵文化財の保護につきましてご協力下さいますようお願い申し上げます。

平成９年３月

秋田県教育委員会

教育長　橋　本　顕　信

例　　言

1　本報告書は平成８年度に秋田県教育委員会が国庫補助を得て実施した遺跡分布調査と遺跡範囲確認調査の報告書である。ただし遺跡分布調査については、平成８年４月～平成９年１月までに実施した調査結果である。

2　本報告書に記載の遺跡分布調査・遺跡範囲確認調査は主に秋田県教育庁文化課・秋田県埋蔵文化財センターの職員が担当した。報文は遺跡分布調査については秋田県教育庁文化課、遺跡範囲確認調査については各調査担当者が作成したものを、秋田県埋蔵文化財センターが編集した。

3　遺跡分布調査のうち、新青年会館(仮称)整備事業・秋田･昭和線地方道改良事業・県立大学(仮称)秋田キャンパス整備事業は、調査の結果、事業区内に遺構・遺物が確認されなかったため本報告から除外した。

4　遺跡範囲確認調査のうち、秋田･昭和線地方道改良事業に係る大松沢Ⅱ遺跡は調査の結果、調査区内で遺構などが確認されなかったため本報告から除外した。また日本海沿岸東北自動車道象潟秋田線建設事業に係る井戸尻台Ⅱ遺跡は調査の結果、遺構が確認されず遺物がごく少量出土したのみであったため、本報告から除外した。

5　本報告書に使用した地図は、秋田県教育委員会発行の『秋田県遺跡地図』(県南版・中央版・県北版)、建設省国土地理院発行50,000分の１および25,000分の１地形図と、日本道路公団・建設省・秋田県土木部・秋田県農政部・秋田県商工労働部が作製した1,000分の１地形図である。

目　　次

序

例　　言

目　　次

第１章　はじめに ---------- 1

第２章　平成８年度遺跡分布調査

・遺跡範囲確認調査実施要項 ---------- 1

第１節　遺跡分布調査 ---------- 1

第２節　遺跡範囲確認調査 ---------- 3

第３章　調査の記録 ---------- 5

第１節　遺跡分布調査 ---------- 5

1　琴丘能代道路建設事業 ---------- 5

2　山本町豊岡バイパス建設事業 ---------- 5

3　県営ほ場整備事業金沢地区 ---------- 6

4　県営ほ場整備事業飯詰地区 ---------- 6

5　県営ほ場整備事業黒川地区 ---------- 6

6　県営ほ場整備事業琴丘北地区 ---------- 7

7　県営ほ場整備事業浜井川地区 ---------- 7

8　秋田空港アクセス道路整備事業 ---------- 8

9　日本海沿岸東北自動車道建設事業（河辺地区）- 8

10　鷹巣町湯車工区道路整備事業 ---------- 9

11　大館能代空港周辺道路整備事業 ---------- 9

12　県道木戸石鷹巣線関連事業 ---------- 9

13　大館西道路建設事業 ---------- 10

14　芋川河川改修事業 ---------- 10

15　日本海沿岸東北自動車道建設事業

（琴丘～昭和地区） ---------- 11

16　道路災害防除事業（本荘市諏訪山トンネル）---- 12

17　国道107号改築事業 ---------- 12

18　県営ほ場整備事業前山地区 ---------- 12

19　県営ほ場整備事業北阿気地区 ---------- 13

20　県営ほ場整備事業駒場北地区 ---------- 13

21　県営ほ場整備事業大砂川地区 ---------- 14

22　県営ほ場整備事業宿内地区 ---------- 14

23　県営ほ場整備事業福地地区 ---------- 14

24　県営ほ場整備事業黒倉堰地区 ---------- 15

25　県営ほ場整備事業寺沢地区 ---------- 15

26　県営ほ場整備事業高梨東部地区 ---------- 16

27　県営ほ場整備事業畑屋地区 ---------- 16

28　県営ほ場整備事業横堀地区 ---------- 17

29　県営ほ場整備事業館合地区 ---------- 17

30　入道崎寒風山線整備事業 ---------- 18

31　秋田中央地区広域営農団地農道整備事業 ------ 18

第２節　遺跡範囲確認調査 ---------- 19

1　森吉山ダム建設事業 ---------- 19

(1)　上悪戸Ａ遺跡・上悪戸Ｂ遺跡

・上悪戸Ｃ遺跡・上悪戸Ｄ遺跡 ---------- 20

(2)　桐内Ａ遺跡・桐内Ｂ遺跡 ---------- 33

(3)　姫ヶ岱Ａ遺跡・姫ヶ岱Ｂ遺跡

・姫ヶ岱Ｃ遺跡・姫ヶ岱Ｄ遺跡 ---------- 39

(4)　橋場岱Ａ遺跡・橋場岱Ｂ遺跡

・橋場岱Ｃ遺跡・橋場岱Ｄ遺跡

・橋場岱Ｅ遺跡・橋場岱Ｆ遺跡

・橋場岱Ｇ遺跡 ---------- 48

(5)　向様田Ａ遺跡・向様田Ｂ遺跡

・向様田Ｃ遺跡・向様田Ｄ遺跡

・向様田Ｅ遺跡・向様田Ｆ遺跡 ---------- 62

2　日本海沿岸東北自動車道象潟秋田線建設事業

(1)　上野遺跡 ---------- 76

(2)　井戸尻台Ⅰ遺跡 ---------- 77

3　大館西道路建設事業

根下戸道下遺跡 ---------- 87

4　県道比内大葛鹿角線建設事業

石鳥谷館跡 ---------- 96

5　田沢湖オートキャンプ場建設事業

潟前遺跡 ----------103

第１章　はじめに

国庫補助を得て実施した平成８年度の遺跡詳細分布調査は、琴丘能代道路建設事業・山本町豊岡バイパス建設事業・県営ほ場整備事業金沢地区・県営ほ場整備事業琴丘北地区・秋田空港アクセス道路整備事業・日本海沿岸東北自動車道象潟秋田線建設事業（河辺地区）・新青年会館（仮称）整備事業・鷹巣町湯車工区道路整備事業・大館西道路建設事業・秋田･昭和線地方道改良事業・大館能代空港周辺道路整備事業・日本海沿岸東北自動車道昭和琴丘線建設事業（昭和琴丘地区）・県道木戸石鷹巣線関連事業・道路災害防除事業（本荘市諏訪山トンネル）・芋川河川改修事業・県営ほ場整備事業前山地区・県営ほ場整備事業飯詰地区・県営ほ場整備事業北阿気地区・県営ほ場整備事業黒川地区・県営ほ場整備事業大砂川地区・県営ほ場整備事業宿内地区・県営ほ場整備事業福地地区・県営ほ場整備事業黒倉堰地区・県営ほ場整備事業高梨東部地区・県営ほ場整備事業寺沢地区・国道107号改築事業（石沢工区）・県営ほ場整備事業横堀地区・県営ほ場整備事業畑屋地区・県立大学（仮称）秋田キャンパス整備事業・入道崎寒風山線整備事業・県営ほ場整備事業館合地区・秋田中央地区広域営農団地農道整備事業の遺跡分布調査と、森吉山ダム建設事業・日本海沿岸東北自動車道象潟秋田線建設事業（河辺地区）・大館西道路建設事業・県道比内大葛鹿角線建設事業・秋田･昭和線地方道改良事業・田沢湖オートキャンプ場建設事業に係る遺跡範囲確認調査である。これらの調査はすでに策定してある調査要項に基づいて、秋田県教育庁文化課、秋田県埋蔵文化財センターの職員、それに大館市・男鹿市・秋田市・本荘市・横手市・琴丘町・仙北町の専門職員の協力を得て、平成８年４月から平成９年１月にかけて実施したものである。

第２章　平成８年度遺跡分布調査・遺跡範囲確認調査実施要項

第１節　遺跡分布調査

１　調査の目的

開発予定地内を踏査・試掘して遺跡の有無を確認し、遺跡の保護策を講ずる。

２　調査の方法

(1) 計画地域の範囲内で遺物の表面採集および試掘調査を実施して遺跡の所在を確認するとともに、遺跡の性格についても把握する。

(2) 確認された遺跡は地図に記入し、位置を記録する。

(3) 遺跡の現況、遠景を写真記録し、遺跡の概要も記録する。

３　事業主体者

秋田県教育委員会

4　調査担当者

秋田県教育庁	文化課	学芸主事	武藤祐浩、石郷岡千鶴子
秋田市教育委員会	文化課	主任	安田忠市
男鹿市教育委員会	生涯学習課	係長	泉　　明
本荘市教育委員会	社会教育課	主任	長谷川潤一
横手市教育委員会	社会教育課	主任	神谷裕子
琴丘町教育委員会	生涯学習課	主事	木村将来
仙北町教育委員会	主席主査兼払田柵跡環境整備係長		小西秀典

5　調査対象地域および事業名

No	事業名	調査期間	調査結果等	調査対応
1	琴丘能代道路建設事業	平成８年４月16日	事業地区内に周知の遺跡１ヵ所を確認	トレンチ調査
2	山本町豊岡バイパス建設事業	平成８年５月13日	事業地区内に周知の遺跡１ヵ所および新発見の遺跡１ヵ所を確認	踏査およびトレンチ・坪掘調査
3	県営ほ場整備事業金沢地区	平成８年４月18･19日	事業地区内に周知の遺跡３ヵ所および新発見の遺跡３ヵ所を確認	踏査およびトレンチ調査
4	県営ほ場整備事業飯詰地区	平成８年11月25日	事業地区内に周知の遺跡１ヵ所を確認	踏査およびトレンチ調査
5	県営ほ場整備事業黒川地区	平成８年11月28日	事業地区内に周知の遺跡２ヵ所を確認	踏査およびトレンチ調査
6	県営ほ場整備事業琴丘北地区	平成８年５月20日	事業地区内に周知の遺跡１ヵ所を確認	トレンチ調査
7	県営ほ場整備事業浜井川地区	平成８年11月19日・12月16日 平成９年１月13日	事業地区内に周知の遺跡１ヵ所を確認	踏査およびトレンチ・坪掘調査
8	秋田空港アクセス道路整備事業	平成８年６月５日・７月25･30･31日	事業地区内に新発見の遺跡３ヵ所を確認	踏査およびトレンチ調査
9	日本海沿岸東北自動車道象潟秋田線建設事業（河辺地区）	平成８年６月13日・６月26日～７月３日	事業地区内に周知の遺跡１ヵ所および新発見の遺跡７ヵ所を確認	踏査およびトレンチ・坪掘調査
10	鷹巣町湯車工区道路整備事業	平成８年７月16日	事業地区内に周知の遺跡１ヵ所を確認	踏査
11	大館能代空港周辺道路整備事業	平成８年８月22日・９月13日	事業地区内に周知の遺跡１ヵ所を確認	踏査およびトレンチ調査
12	県道木戸石鷹巣線関連事業	平成８年11月５～７日	事業地区内に周知の遺跡２ヵ所を確認	トレンチ・坪掘調査
13	大館西道路建設事業	平成８年７月18･19日・10月31日	事業地区内に周知の遺跡３ヵ所を確認	踏査およびトレンチ調査
14	芋川河川改修事業	平成８年11月15日	事業地区内に周知の遺跡１ヵ所を確認	踏査およびトレンチ調査
15	日本海沿岸東北自動車道昭和琴丘線建設事業（昭和～琴丘地区）	平成８年９月18･19日・12月17～19日	事業地区内に周知の遺跡３ヵ所および新発見の遺跡12ヵ所を確認	踏査およびトレンチ・坪掘調査
16	道路災害防除事業（本荘市諏訪山トンネル）	平成８年11月８日	事業地区内に周知の遺跡１ヵ所を確認	踏査
17	国道107号改築事業	平成８年12月６日	事業地区内に新発見の遺跡１ヵ所を確認	トレンチ調査
18	県営ほ場整備事業前山地区	平成８年11月22･26日・12月２・３・10日	事業地区内に新発見の遺跡２ヵ所を確認	踏査およびトレンチ調査
19	県営ほ場整備事業北阿気地区	平成８年11月25日	事業地区内に周知の遺跡３ヵ所を確認	踏査およびトレンチ調査
20	県営ほ場整備事業駒場北地区	平成８年11月27日	事業地区内に周知の遺跡２ヵ所および新発見の遺跡１ヵ所を確認	踏査およびトレンチ調査
21	県営ほ場整備事業大砂川地区	平成８年12月２日	事業地区内に周知の遺跡２ヵ所を確認	踏査およびトレンチ・坪掘調査
22	県営ほ場整備事業宿内地区	平成８年12月３日	事業地区内に新発見の遺跡１ヵ所を確認	踏査およびトレンチ調査
23	県営ほ場整備事業福地地区	平成８年12月４日	事業地区内に新発見の遺跡１ヵ所を確認	踏査およびトレンチ調査
24	県営ほ場整備事業黒倉堰地区	平成８年12月４日	事業地区内に周知の遺跡２ヵ所を確認	踏査およびトレンチ調査
25	県営ほ場整備事業寺沢地区	平成８年12月５日	事業地区内に周知の遺跡１ヵ所を確認	踏査およびトレンチ調査
26	県営ほ場整備事業高梨東部地区	平成８年12月５日	事業地区内に周知の遺跡３ヵ所を確認	踏査およびトレンチ調査
27	県営ほ場整備事業畑屋地区	平成８年12月９日	事業地区内に周知の遺跡２ヵ所および新発見の遺跡１ヵ所を確認	踏査およびトレンチ調査
28	県営ほ場整備事業横堀地区	平成８年12月６日	事業地区内に周知の遺跡１ヵ所を確認	踏査およびトレンチ調査
29	県営ほ場整備事業館合地区	平成８年12月13日	事業地区内に周知の遺跡１ヵ所を確認	踏査およびトレンチ調査
30	入道崎寒風山線整備事業	平成８年12月12日	事業地区内に周知の遺跡１ヵ所および新発見の遺跡１ヵ所を確認	踏査およびトレンチ調査
31	秋田中央地区広域営農団地農道整備事業	平成８年12月13日	事業地区内に周知の遺跡2ヵ所を確認	トレンチ･坪掘調査
32	新青年会館（仮称）整備事業	平成８年７月８日	周知の遺跡の隣接地を調査したが、事業地区内に遺跡は確認されなかった	坪掘調査
33	秋田・昭和線地方道改良事業	平成８年８月８日	周知の遺跡の隣接地を調査したが、事業地区内に遺跡は確認されなかった	踏査および坪掘調査
34	県立大学(仮称)秋田キャンパス整備事業	平成８年12月11日	周知の遺跡の近接地を調査したが、事業地区内に遺跡は確認されなかった	踏査およびトレンチ調査

第２節　遺跡範囲確認調査

１　調査の目的

開発事業計画に係る遺跡の範囲確認調査を実施して、埋蔵文化財の保護と保存を図る。

２　調査の方法

(1) 遺跡の広がり、埋没の度合、時代とその性格を知るために、当該地域で遺物の表面採集および小規模の発掘調査（遺構確認面までの掘り下げ）を行なう。

(2) 地形等を考慮し、できるかぎり面的に調査地域を広げて遺構の確認に努める。

(3) 現場で確認された遺構・遺物、堆積土の厚さ、遺物包含層などの記録を行なう。その際、遺跡の全景と発掘調査状況、確認された遺構・遺物などは写真撮影をする。

(4) 使用する地形図は開発部局で作製した一番大きな縮尺図面とする。

(5) 遺跡の立地条件などに即した適切な調査をする。

３　事業主体者

秋田県教育委員会

４　調査担当者

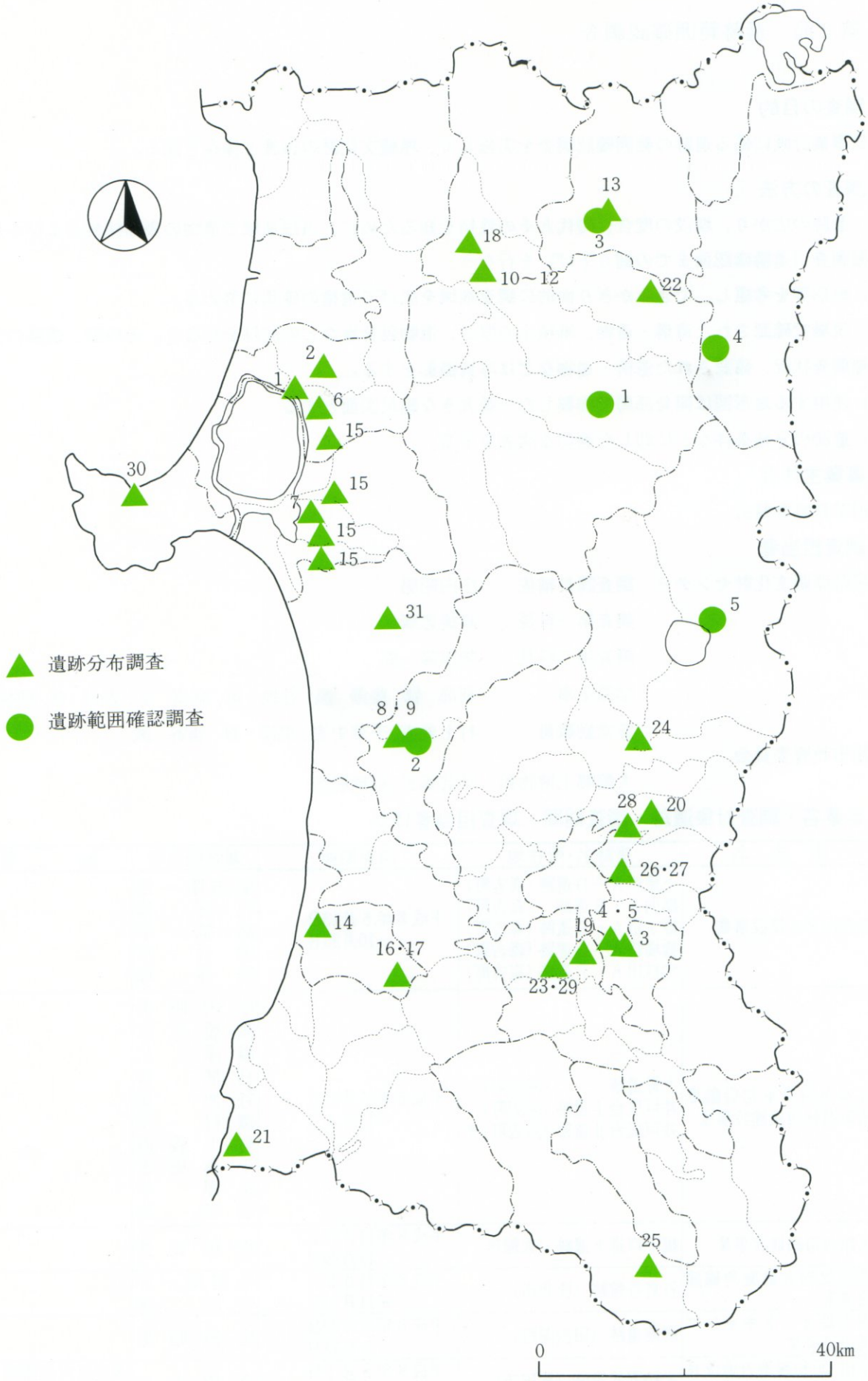
秋田県埋蔵文化財センター　調査課長補佐　庄内昭男
調査第一科長　高橋忠彦
調査第二科長　柴田陽一郎
学芸主事　利部　修、藤澤　昌、谷地　薫、高橋　学、吉川　孝、磯村　亨
非常勤職員　村上義直、千葉史宏、黒澤　尊、熊谷　誠

大館市教育委員会
大館郷土博物館　学芸係長　板橋範芳

５　事業名・調査対象遺跡・調査期間・調査担当者ほか

No	事　業　名	遺跡名･所在地	調査期間	調査担当者	摘　　要
1	森吉山ダム建設事業	上悪戸Ａ～Ｄ遺跡（森吉町） 桐内Ａ・Ｂ遺跡　（森吉町） 姫ヶ岱Ａ～Ｄ遺跡（森吉町） 橋場岱Ａ～Ｇ遺跡（森吉町） 向様田Ａ～Ｆ遺跡（森吉町）	平成８年５月13日 ～10月25日	柴田陽一郎 利部　修 高橋　学 磯村　亨 黒澤　尊	
2	日本海沿岸東北自動車道象潟秋田線建設事業	上野遺跡　（河辺町） 井戸尻台Ⅰ遺跡（河辺町） 井戸尻台Ⅱ遺跡（河辺町）＊	平成８年11月11日 ～12月４日	庄内昭男 高橋忠彦 藤澤　昌 利部　修 谷地　薫 磯村　亨 村上義直 千葉史宏 黒澤　尊 熊谷　誠	
3	大館西道路建設事業	根下戸道下遺跡（大館市）	平成８年11月11日 ～11月29日	板橋範芳	
4	県道比内大葛鹿角線建設事業	石鳥谷館跡（鹿角市）	平成８年11月５日 ～11月20日	柴田陽一郎 吉川　孝	
5	田沢湖オートキャンプ場建設事業	潟前遺跡（田沢湖町）	平成８年５月20日 ～５月31日	庄内昭男	
6	秋田･昭和線地方道改良事業	大松沢Ⅱ遺跡（秋田市）	平成８年８月１日 ～８月６日	高橋忠彦	調査区内は遺跡と認定できず

＊井戸尻台Ⅱ遺跡については、10,300㎡を対象として延べ861㎡のトレンチ調査を行った結果、縄文土器破片３点、石器類９点、陶磁器類７点が出土した。工事の際には立ち会い調査が必要であると思われる。



※図中の番号は、前記した遺跡分布調査・遺跡範囲確認調査の一覧表中の番号に対応する。

第1図　遺跡分布調査 遺跡範囲確認調査 位置図

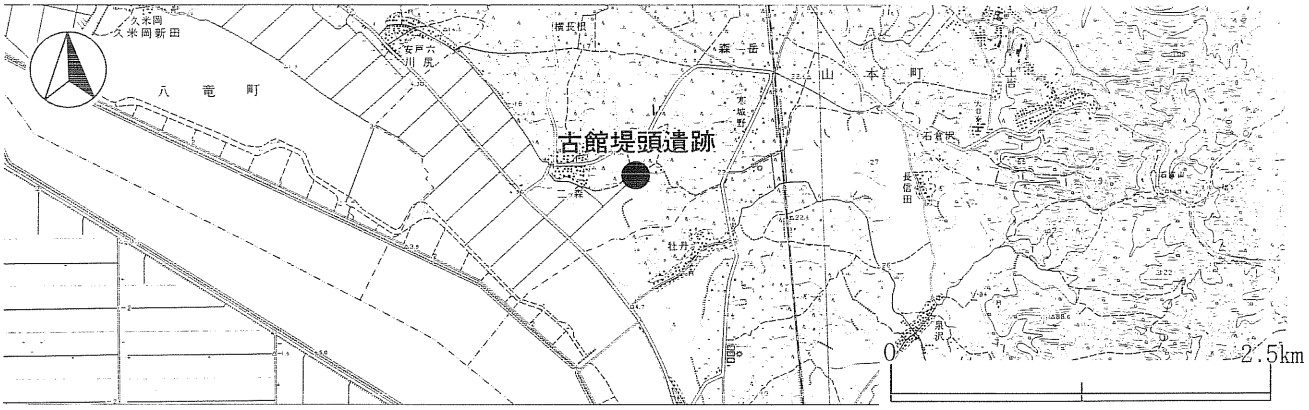
第３章　調査の記録

第１節　遺跡分布調査

１　琴丘能代道路建設事業

八竜町八幡台を始点に琴丘町鹿渡を終点とする延長12.9kmの計画道路で、山本町を通過する計画路線上の一部について試掘を実施した。調査の結果、周知の遺跡１ヵ所が路線に係わることを確認した。この遺跡については今後範囲確認調査が必要である。なお、本事業対象地域では、琴丘町部分の調査が残っている。

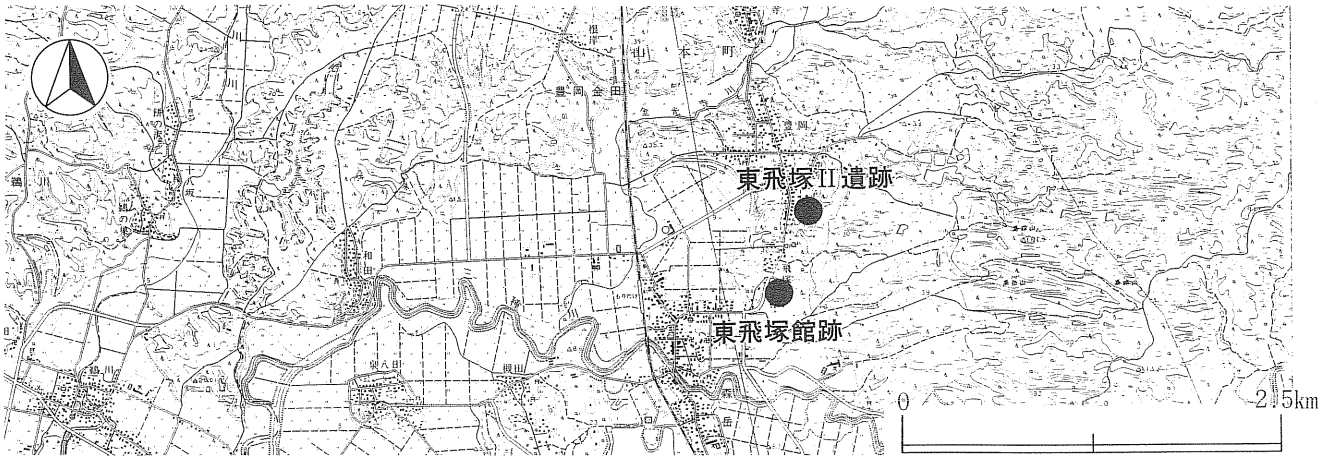
No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現　況	出土遺物・検出遺構	備　考
1	古館堤頭遺跡（ふるだてつつみかしら）	山本町森岳字古館堤頭	縄文時代	原　野	土器片	周知の遺跡



２　山本町豊岡バイパス建設事業

緊急地方道整備事業として、能代五城目線の通る山本町豊岡地区での事業である。整備予定の延長約２km の計画路線の内、当面の事業対象地区について試掘を実施した。調査の結果、周知の遺跡１ヵ所、新発見の遺跡１ヵ所が事業に係ることを確認した。但し、２ヵ所とも遺跡として内容が希薄な部分であるため、工事立会で対応可能なものと判断した。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現　況	出土遺物・検出遺構	備　考
1	東飛塚館跡（ひがしとびつかたて）	山本町森岳字東飛塚	中　世	山林・畑地	剝　片	周知の遺跡
2	東飛塚Ⅱ遺跡（ひがしとびつか）	山本町森岳字西飛塚	古　代	畑地	土　坑	新発見の遺跡



3　県営ほ場整備事業金沢地区

横手市金沢地区における事業で、計画面積は249ha。平成12年度まで5ヵ年計画の事業である。平成７年度から分布調査を開始しており、本年度も当面の事業対象区域について踏査及び試掘を行った。調査の結果、周知の遺跡３ヵ所、新発見の遺跡３ヵ所が事業に係わることを確認した。この内、平成８年度事業地区内のNo.４・５は遺跡として希薄であること、また平成９年度事業地区内のNo.１・２は試掘による遺構・遺物の確認が無かったことからいずれも工事立会とし、No.３・６については今後協議する予定である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	出土遺物・検出遺構	備考
1	中通西遺跡（なかどおりにし）	横手市安本字中通西	古代	水田	なし	周知の遺跡
2	本田下遺跡（ほんでんした）	横手市安本字本田下	古代	水田	なし	周知の遺跡
3	金沢柵木Ⅱ遺跡（かねざわさくぼく）	横手市金沢中野字西法寺	古代	水田	剝片	周知の遺跡
4	北野添Ａ遺跡（きたのぞえ）	横手市安本字北野添	縄文時代	水田	剝片	新発見の遺跡
5	北野添Ｂ遺跡（きたのぞえ）	横手市安本字北野添	古代	水田	土師器片	新発見の遺跡
6	下矢来沢Ｃ遺跡（しもやぎさわ）	横手市金沢中野字矢来沢	古代	水田	竪穴住居跡	新発見の遺跡

4　県営ほ場整備事業飯詰地区

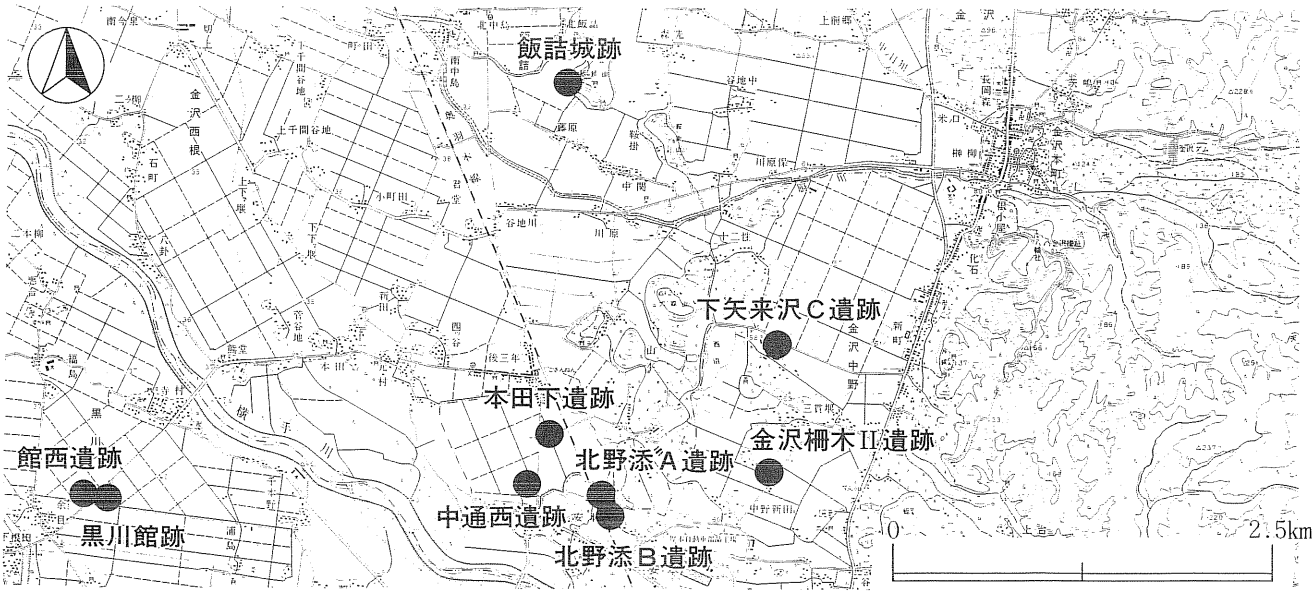
仙南村飯詰地区における事業で、計画面積は200ha。平成9年度まで3ヵ年計画の事業である。本年度は当面の事業対象区域について踏査及び試掘を行った。調査の結果、面工事ヵ所での埋蔵文化財との係わりはないこと、ただし水路工事で周知の遺跡１ヵ所が事業に係わることを確認した。対応については、今後協議する予定である。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	出土遺物・検出遺構	備考
1	飯詰城跡（いいづめじょう）	仙南村飯詰字北飯詰	中世	山林	堀跡	周知の遺跡

5　県営ほ場整備事業黒川地区

横手市黒川地区における事業で、計画面積は332ha。平成13年度まで5ヵ年計画の事業である。本年度は当面の事業対象区域について踏査及び試掘を行った。調査の結果、周知の遺跡２ヵ所が事業に係わることを確認した。対応については、今後協議する予定である。

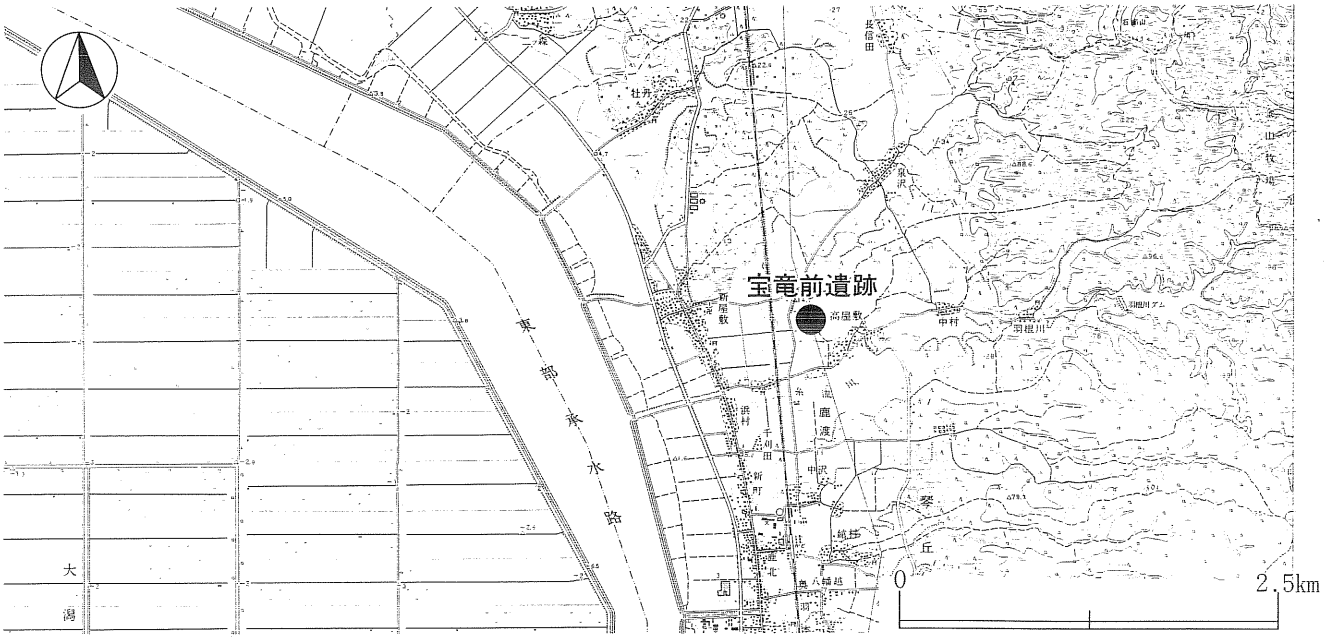
No.	遺跡名	所在地	時代	現況	出土遺物・検出遺構	備考
1	黒川館跡（くろかわたて）	横手市黒川字館西	中世	水田	柱穴、土師器･須恵器	周知の遺跡
2	館西遺跡（たてにし）	横手市黒川字館西	古代	水田	土坑	周知の遺跡



6　県営ほ場整備事業琴丘北地区

琴丘町琴丘北地区における事業で、計画面積は270ha。平成９年度まで６ヵ年計画の事業である。本年度は、平成８年度事業対象区域の内、周知の遺跡の隣接地について試掘を行った。調査の結果、周知の遺跡１ヵ所が事業地まで広がっていることを確認し、協議により水路部分について工事立会を行い、また一部分は工法変更による対応とした。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現　況	出土遺物・検出遺構	備　　考
1	宝竜前遺跡（ほうりゅうまえ）	琴丘町鹿渡字宝竜前	縄文時代中期	水田・畑地	土器捨て場・土坑	周知の遺跡



7　県営ほ場整備事業浜井川地区

井川町浜井川地区における事業で、計画面積は99.6ha。平成10年度まで3ヵ年を予定している事業である。本年度は、周知の遺跡を中心に事業対象区域について踏査及び試掘を行った。調査の結果、周知の遺跡１ヵ所が事業に係わることを確認した。対応については、今後協議する予定である。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現　況	出土遺物・検出遺構	備　　考
1	洲崎遺跡（すざき）	井川町浜井川字洲崎	中　世	水田・畑地	陶器片	周知の遺跡

8　秋田空港アクセス道路整備事業

秋田市上北手から秋田空港に向かう延長8.28km計画道路の予定路線について踏査、また当面の事業対象区域（河辺町部分）について試掘を実施した。調査の結果、新発見の遺跡３ヵ所が事業に係わることを確認し、また隣接する事業対象予定地域でも新たに遺跡(No. 3)を発見した。このうちNo. 1については遺跡としての遺存状況が希薄であることから工事立会の対応とし、No. 2については工事方法の検討も含め協議中である。

なお、秋田市部分および雄和町部分については今後の調査が必要である。

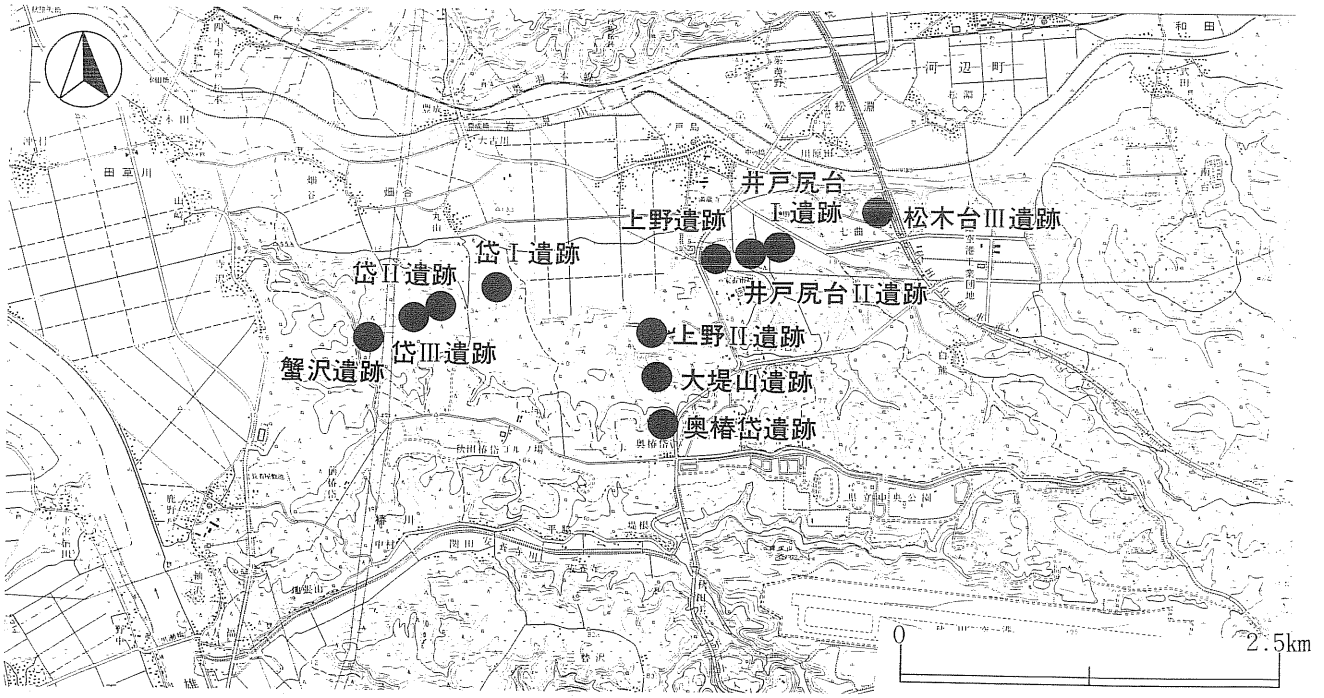
No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現　況	出土遺物・検出遺構	備　　考
1	上野（うえの）Ⅱ遺跡	河辺町戸島字上野32-1	縄文時代	山　　林	土坑、土器片	新発見の遺跡
2	大堤山（おおつつみやま）遺跡	河辺町戸島字大堤山27-2	古　　代	山　　林	溝跡、土器片	新発見の遺跡
3	奥椿岱（おくつばきたい）遺跡	雄和町椿川字奥椿岱	縄文時代	畑　　地	土器片	新発見の遺跡

9　日本海沿岸東北自動車道象潟秋田線建設事業（河辺地区）

河辺町七曲を始点に象潟町へ向かう計画道路の内、河辺町部分延長3.7kmについて踏査及び試掘を実施した。調査の結果、周知の遺跡１ヵ所、新発見の遺跡７ヵ所が事業に係わることを確認した。この内、No. 1～４については、緊急の対応が必要であり、No. 2～４は本年度範囲確認調査が実施された。

なお、河辺地区以南については、今後の調査が必要である。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現　況	出土遺物・検出遺構	備　　考
1	松木台（まつきだい）Ⅲ遺跡	河辺町松渕字松木台	旧石器時代・縄文時代	山林・畑地	石囲い炉、縄文中期土器片	周知の遺跡
2	井戸尻台（いどじりだい）Ⅰ遺跡	河辺町戸島字井戸尻台	古　　代	山林・畑地	土器片	新発見の遺跡
3	井戸尻台（いどじりだい）Ⅱ遺跡	河辺町戸島字井戸尻台	縄文時代	山林・畑地	石匙	新発見の遺跡
4	上野（うえの）遺跡	河辺町戸島字上野	縄文時代	山林・畑地	剝片	新発見の遺跡
5	岱（たい）Ⅰ遺跡	河辺町畑谷字岱	縄文時代	山　　林	縄文中期土器片	新発見の遺跡
6	岱（たい）Ⅱ遺跡	河辺町畑谷字岱	縄文時代	山　　林	ピット	新発見の遺跡
7	岱（たい）Ⅲ遺跡	河辺町畑谷字岱	縄文時代	山　　林	土器片	新発見の遺跡
8	蟹沢（かにさわ）遺跡	河辺町畑谷字蟹沢	縄文時代	山　　林	フレーク	新発見の遺跡



10　鷹巣町湯車工区道路整備事業

鷹巣町湯車工区における道路整備対象地の内、周知の遺跡周辺について踏査を実施した。調査の結果、周知の遺跡１ヵ所が事業に係わることを確認した。その後、原因者と工事内容等について確認し、工事立会対応とし、本年度中に対応を完了した。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現　況	出土遺物・検出遺構	備　　考
1	からむし岱Ⅳ遺跡	鷹巣町脇神字からむし岱	古　　代	山　　林	土坑、土器片	周知の遺跡

11　大館能代空港周辺道路整備事業

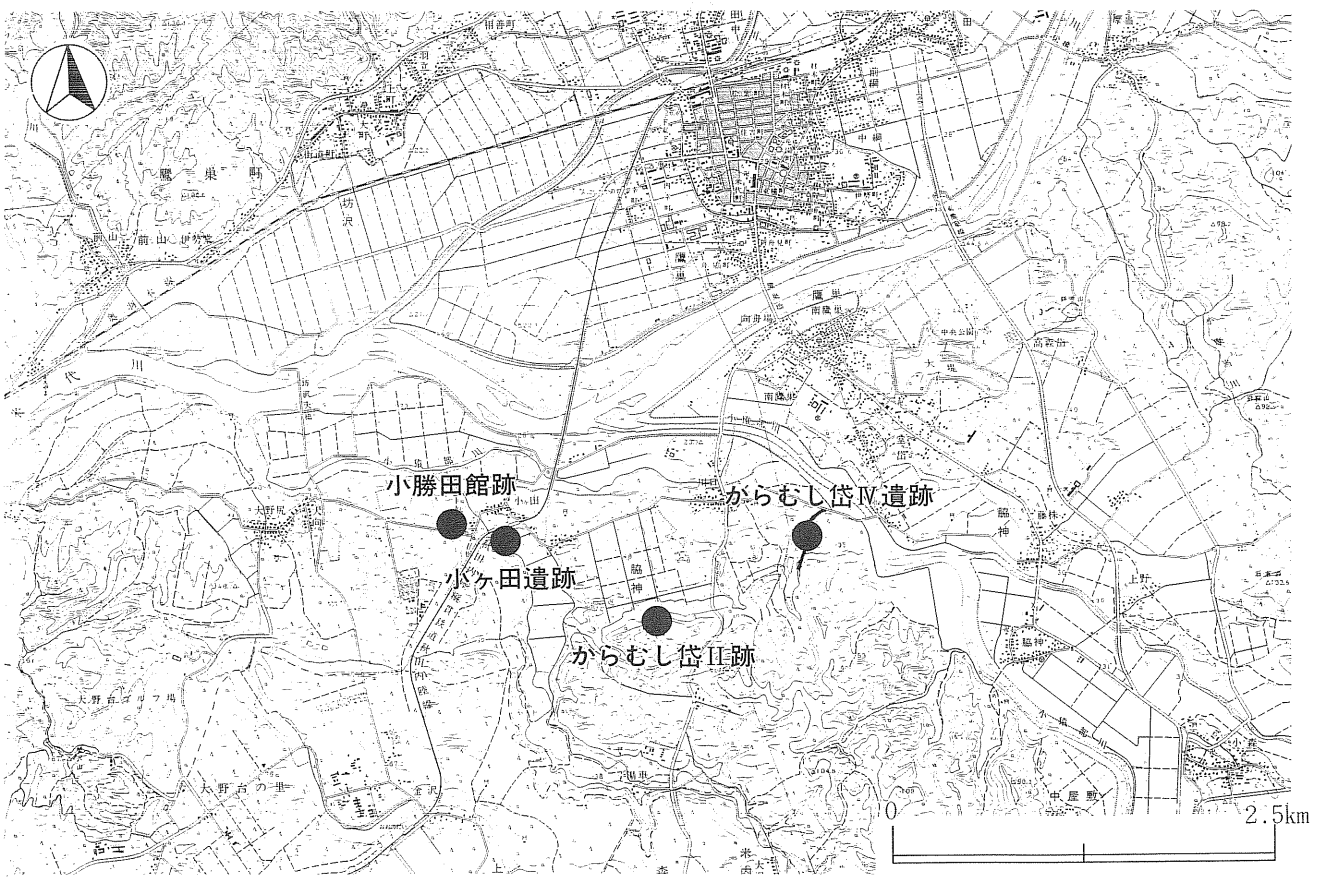
大館能代空港周辺の緩衝緑地の有効活用のために建設が予定されている施設整備事業予定地が、周知の遺跡に隣接していることから周辺の踏査及び試掘を実施した。調査の結果、周知の遺跡の一部に係ることを確認したが、工事内容についての協議を経て、工事立会で対応可能であるものと判断した。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現　況	出土遺物・検出遺構	備　　考
1	からむし岱Ⅱ遺跡	鷹巣町脇神字からむし岱	縄文時代･古代	原　　野	土器片	周知の遺跡

12　県道木戸石鷹巣線関連事業

県道木戸石鷹巣線に係る発掘調査の結果、現地保存されることとなった伊勢堂岱遺跡周辺の迂回ルートの検討のために、周知の遺跡２ヵ所について踏査及び試掘を実施した。調査の結果、No. １についてはかつての土地改良による影響が著しく迂回ルートに係った場合でも慎重工事で対応可能であること、No. ２については想定されるルート部分では、遺跡として内容的に希薄であることから工事立会での対応が可能であることを確認した。但し、特に後者については今後事業者側と協議を重ねる必要がある。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現　況	出土遺物・検出遺構	備　　考
1	小ヶ田遺跡（おがた）	鷹巣町脇神字小ヶ田伊勢堂岱	縄文時代	水　　田	フレーク	周知の遺跡
2	小勝田館跡（おがたたて）	鷹巣町脇神字館野	中　　世	山　　林	溝跡	周知の遺跡

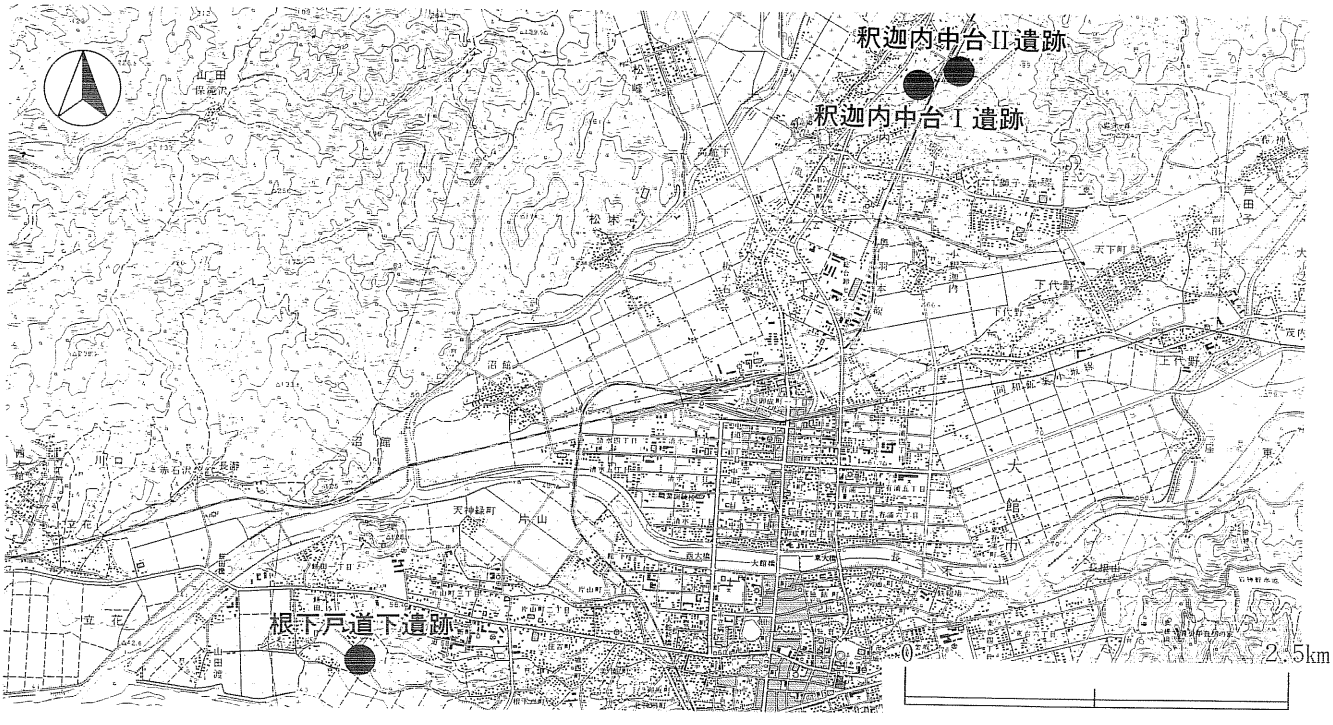


13　大館西道路建設事業

大館市根下戸新町地区を起点とし、同市商人留地区までの延長6.24kmの計画路線の内、起点側と終点側について踏査し、起点側において試掘を実施した。調査の結果、周知の遺跡３ヵ所が事業に係わることを確認した。試掘を実施したNo.１については事業計画との関連から、本年度範囲確認調査を行っており、No.２・３については、内容確認のための試掘が必要である。

本事業に関しては、計画路線上にあった片山館コ遺跡の発掘調査が既に完了している。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現　況	出土遺物・検出遺構	備　　考
1	根下戸道下遺跡（ねげとみちした）	大館市餅田字根下戸道下芋堀沢	縄文時代	山　　林	土器片	周知の遺跡
2	釈迦内中台Ⅰ遺跡（しやかないなかだい）	大館市釈迦内字中台	古　　代	山　　林	地形確認のみ	周知の遺跡
3	釈迦内中台Ⅱ遺跡（しやかないなかだい）	大館市釈迦内字中台	古　　代	山　　林	地形確認のみ	周知の遺跡



14　芋川河川改修事業

本荘市川口菖蒲崎で子吉川に合流する芋川の河川改修事業に係わる遺跡の分布調査。平成７年度から調査が開始されており、本年度も継続して対象地区の踏査と試掘を実施した。調査の結果、周知の遺跡１ヵ所が事業に係わることを確認した。対応については、今後協議する予定である。

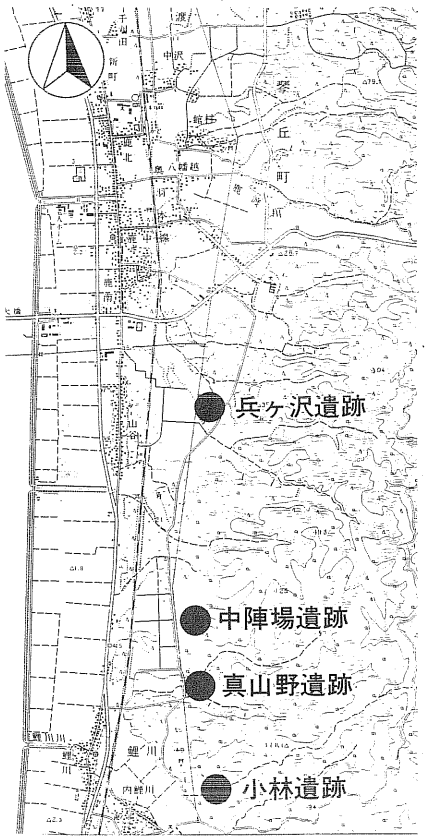
No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現　況	出土遺物・検出遺構	備　　考
1	川口館跡（かわぐちたて）	本荘市川口字愛宕山	中　　世	山林・グランド	段築・溝跡	周知の遺跡

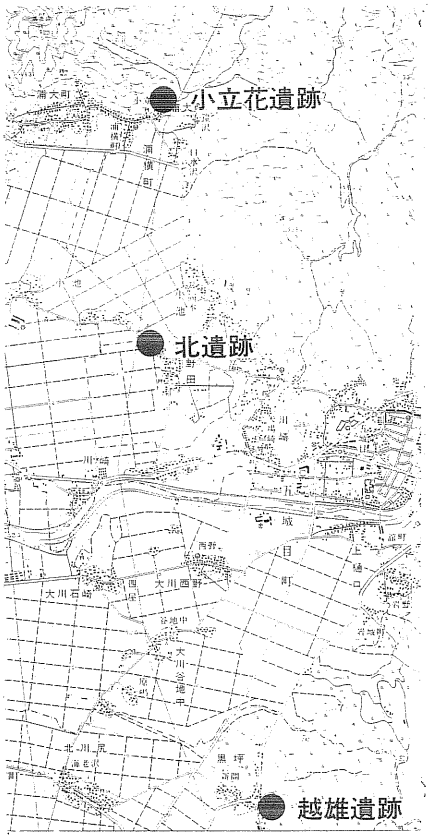
15　日本海沿岸東北自動車道昭和琴丘線建設事業（琴丘～昭和地区）

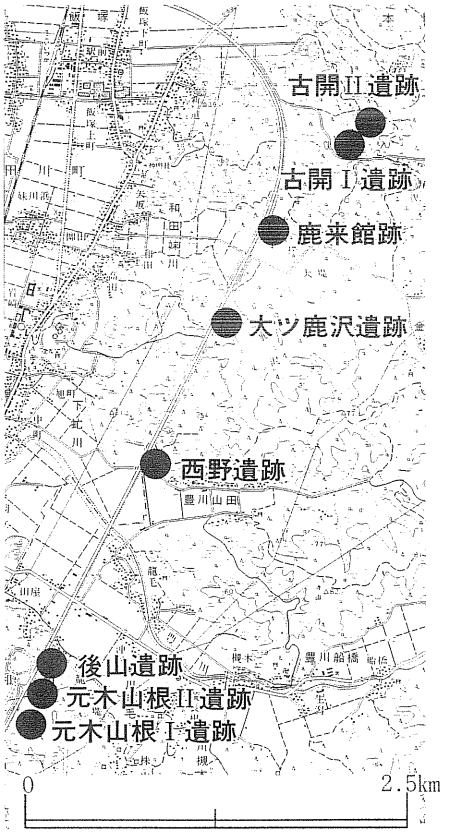
昭和町に建設中の昭和インターから、琴丘町鹿渡に計画中の琴丘インターまでの延長20.7kmについて、踏査及び試掘を実施した。調査の結果、周知の遺跡３ヵ所、新発見の遺跡12ヵ所が事業に係わることを確認した。いずれの遺跡においても、今後の範囲確認調査が必要である。

また、水田部分の沖積地についても遺跡の存在が予想されるため、引き続き調査の必要がある。

No.	遺跡名	所在地	時代	現況	出土遺物・検出遺構	備考
1	元木山根Ⅰ遺跡	昭和町大久保字元木山根	縄文時代	山林	フレーク	新発見の遺跡
2	元木山根Ⅱ遺跡	昭和町大久保字元木山根	縄文時代	山林	フレーク	新発見の遺跡
3	後山遺跡	昭和町豊川龍毛字後山	縄文時代	山林	縄文中期土器片	新発見の遺跡
4	西野遺跡	昭和町豊川山田字家ノ上	縄文時代･古代	墓地	地形確認のみ	周知の遺跡
5	大ツ鹿沢遺跡	飯田川町和田妹川字大ツ鹿沢	中世	山林	帯曲輪状の地形	新発見の遺跡
6	鹿来館跡	飯田川町和田妹川字鹿来	中世	山林	複数の段築	周知の遺跡
7	古開Ⅰ遺跡	飯田川町和田妹川字古開	中世	山林	陶器片	新発見の遺跡
8	古開Ⅱ遺跡	飯田川町和田妹川字古開	縄文時代	山林	フレーク	新発見の遺跡
9	越雄遺跡	井川町黒坪字越雄	古代･中世	畑地･山林	土師器片・須恵器片	新発見の遺跡
10	北遺跡	五城目町野田字北	古代	畑地	土師器片・須恵器片	新発見の遺跡
11	小立花遺跡	五城目町浦大町字小立花	縄文時代	畑地･山林	フレーク	新発見の遺跡
12	小林遺跡	琴丘町鯉川字小林	古代	山林	土師器片	新発見の遺跡
13	真山野遺跡	琴丘町鯉川字真山野	縄文時代	山林	フレーク	新発見の遺跡
14	中陣場遺跡	琴丘町鯉川字中陣場	古代	山林	鉄滓	新発見の遺跡
15	兵ヶ沢遺跡	琴丘町鯉川字兵ヶ沢	縄文時代	畑地	フレーク	周知の遺跡







16　道路災害防除事業（本荘市諏訪山トンネル）

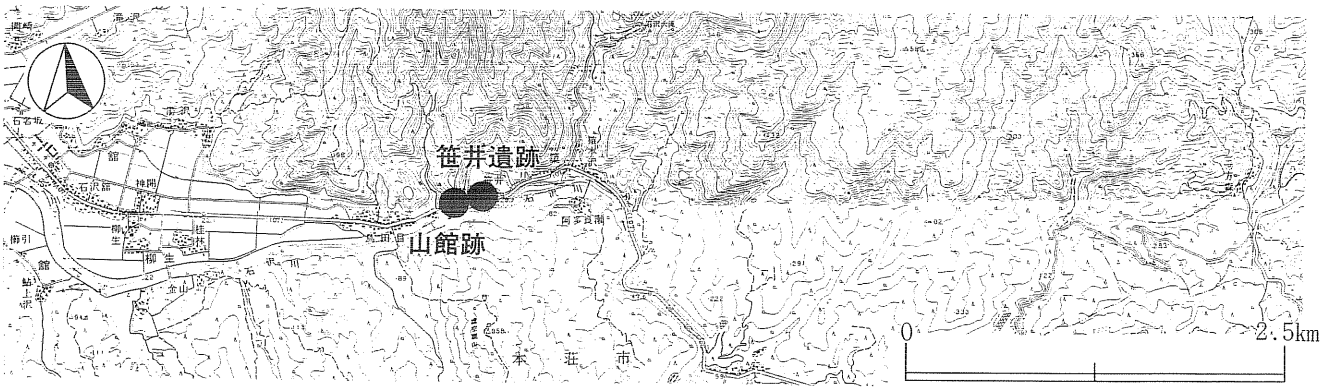
国道107号線上にある本荘市鳥田目地内の諏訪山トンネルにおいて、崩落防止吹き付け工事が計画されている。トンネル上部には、中世城館が確認されており、工事との関連確認のため出入り口付近を中心に踏査した。調査の結果、東由利町側では既に自然崩落が進んで岩盤が露出しており、今後の文化財対応の必要はないが、本荘市側では遺物の出土はないものの自然堆積層が厚く遺存しており工事立ち会いの対応とした。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現　況	出土遺物・検出遺構	備　　考
1	山（やま）　館（たて）　跡	本荘市鳥田目字山館	中　　世	山　　林	地形確認	周知の遺跡

17　国道107号改築事業

本荘市雪車町から本荘市大梁に、延長4.08kmで計画されているバイパスの予定路線のうち、当面の事業対象区域について試掘調査を実施した。調査の結果、新発見の遺跡１ヵ所が事業に係わることを確認した。対応については今後協議する予定である。また、計画路線については、今後も分布調査が必要である。

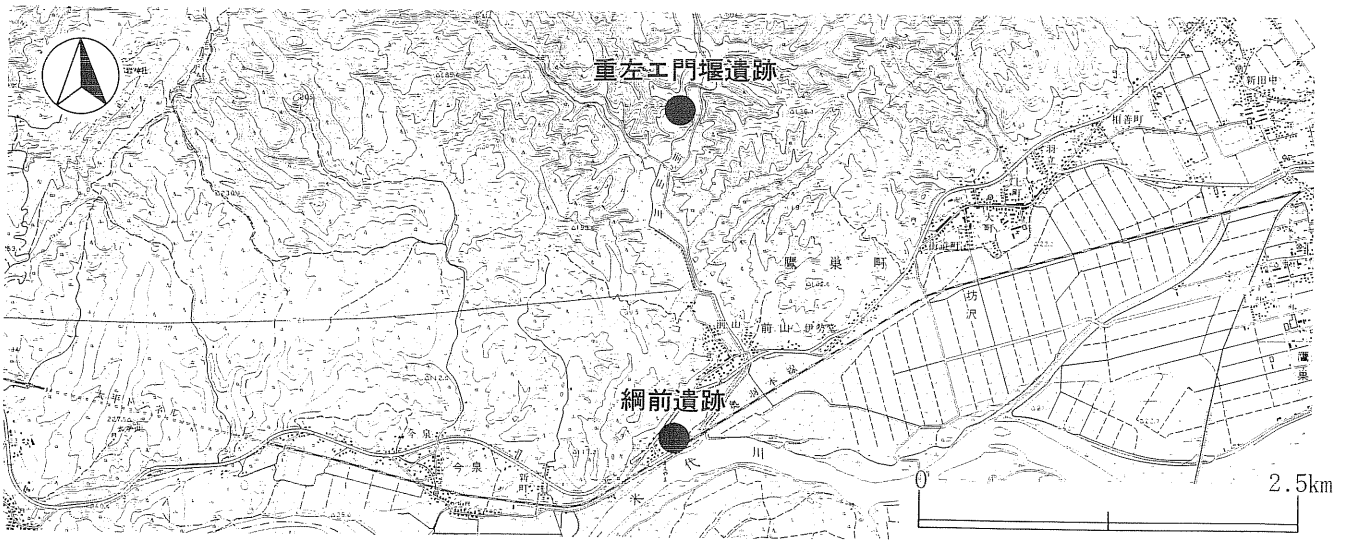
No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現　況	出土遺物・検出遺構	備　　考
1	笹（ささ）　井（い）　遺　跡	本荘市大梁字笹井	近　　世	畑　　地	陶器片	新発見の遺跡



18　県営ほ場整備事業前山地区

鷹巣町前山地区における事業で、計画面積は60ha。平成12年度まで5ヵ年計画の事業である。本年度は当面の事業対象区域について踏査及び試掘を行った。調査の結果、新発見の遺跡２ヵ所が事業に係わることを確認した。対応については、今後協議する予定である。

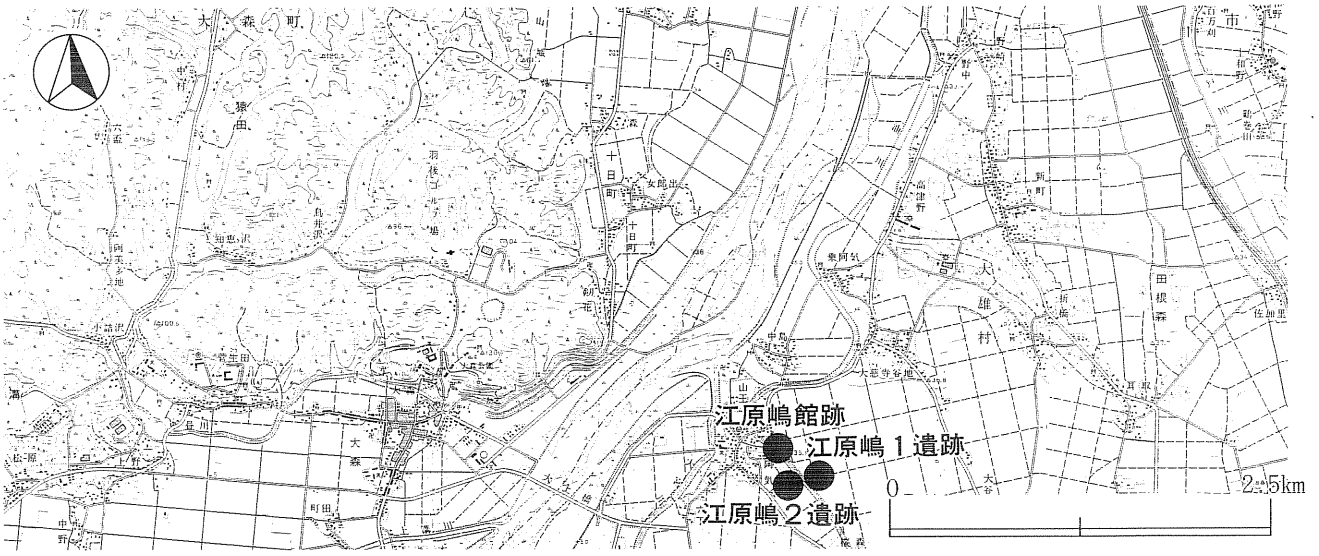
No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現　況	出土遺物・検出遺構	備　　考
1	綱（つな）　前（まえ）　遺　跡	鷹巣町前山字綱前	中世以降	水　　田	土坑、陶器片	新発見の遺跡
2	重左（しげざ）エ門堰（えもんせき）遺跡	鷹巣町前山字重左エ門堰	古代～中世	水　　田	溝跡・土坑、土師器片	新発見の遺跡



19　県営ほ場整備事業北阿気地区

大雄村北阿気地区における事業で、計画面積は342ha。平成12年度まで5ヵ年計画の事業である。平成７年度から分布調査を開始しており、本年度も当面の事業対象区域について踏査及び試掘を行った。調査の結果、周知の遺跡３ヵ所が事業に係わることを確認した。このうちNo.２・３については、試掘による遺構、遺物の確認ができなかったことから工事立会の対応とし、No.１については、今後協議する予定である。

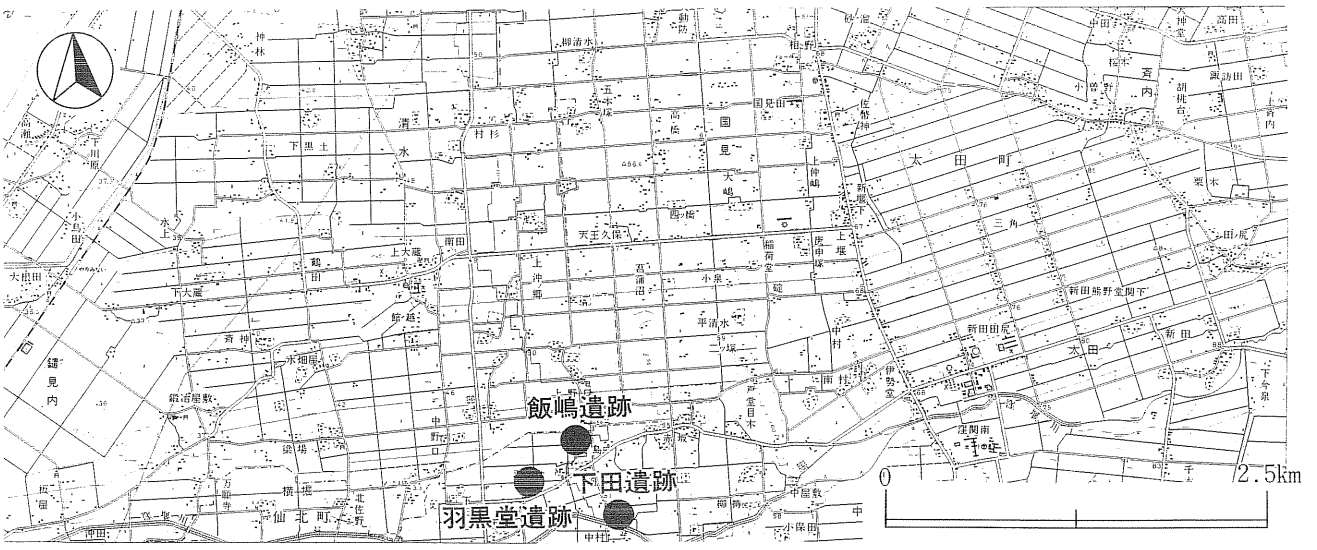
No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現　況	出土遺物・検出遺構	備　　考
1	江原嶋（えばらじま）１遺跡	大雄村阿気字江原嶋	縄文時代	水　　田	土坑、土器片	周知の遺跡
2	江原嶋（えばらじま）２遺跡	大雄村阿気字江原嶋	縄文時代	水　　田	なし	周知の遺跡
3	江原嶋（えばらじま）館跡	大雄村阿気字江原嶋	中　　世	水田･原野	なし	周知の遺跡



20　県営ほ場整備事業駒場北地区

太田町駒場北地区における事業で、計画面積は73ha。平成13年度まで5ヵ年計画の事業である。本年度は当面の事業対象区域について踏査及び試掘を行った。調査の結果、周知の遺跡２ヵ所、新発見の遺跡１ヵ所が事業に係わることを確認した。対応については、今後協議する予定である。

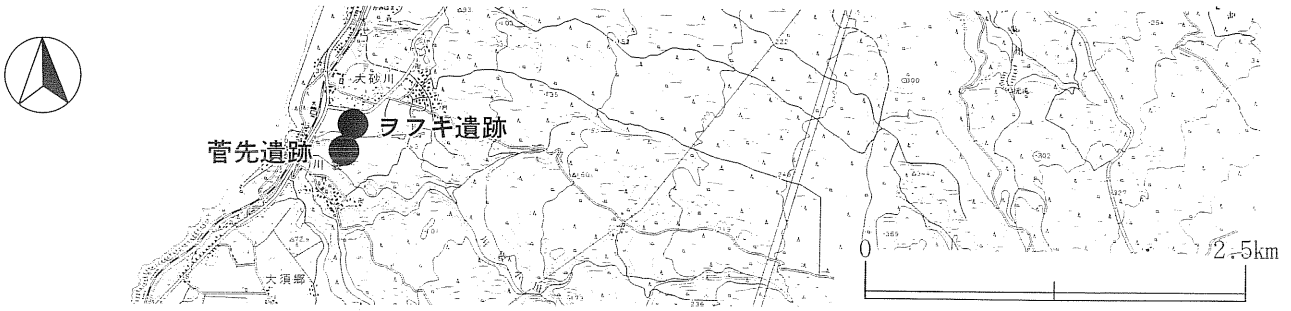
No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現　況	出土遺物・検出遺構	備　　考
1	羽黒堂（はぐろどう）遺跡	太田町駒場字羽黒堂	縄文時代	水　　田	陶器片	周知の遺跡
2	飯嶋（いいじま）遺跡	太田町駒場字飯嶋	縄文時代	水　　田	なし	周知の遺跡
3	下田（しもだ）遺跡	太田町駒場字下田	江戸時代	水　　田	陶器片	新発見の遺跡



21　県営ほ場整備事業大砂川地区

象潟町大砂川地区における事業で、計画面積は35ha。事業計画は平成10年度予定している事業である。事業対象区域について踏査及び試掘を行った。調査の結果、周知の遺跡２ヵ所が事業に係わることを確認した。対応については、今後協議する予定である。

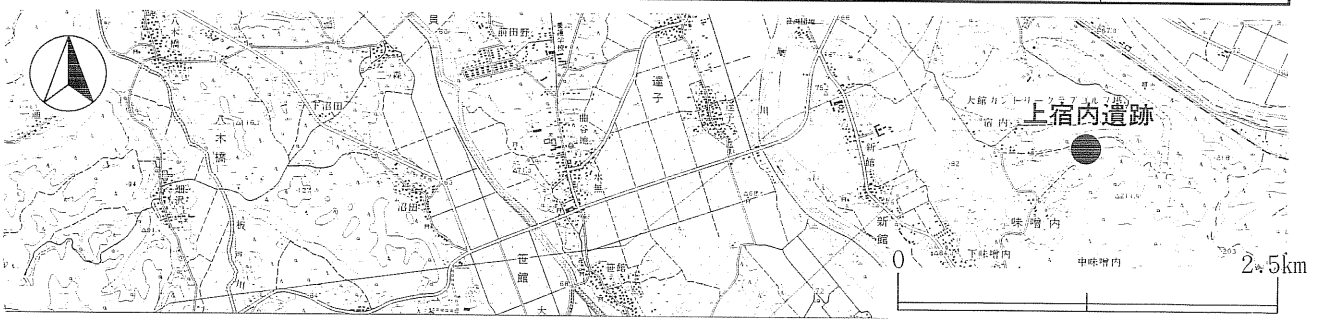
No.	遺跡名	所在地	時代	現況	出土遺物・検出遺構	備考
1	ヲフキ遺跡	象潟町大砂川字ヲフキ	縄文時代	水田	土器片	周知の遺跡
2	菅先（すがさき）遺跡	象潟町大砂川字ヲフキ	縄文時代	水田	土器片	周知の遺跡



22　県営ほ場整備事業宿内地区

比内町宿内地区における事業で、計画面積は30ha。平成13年度まで5ヵ年計画の事業である。本年度は当面の事業対象区域について踏査及び試掘を行った。調査の結果、新発見の遺跡１ヵ所が事業に係わることを確認した。対応については、今後協議する予定である。

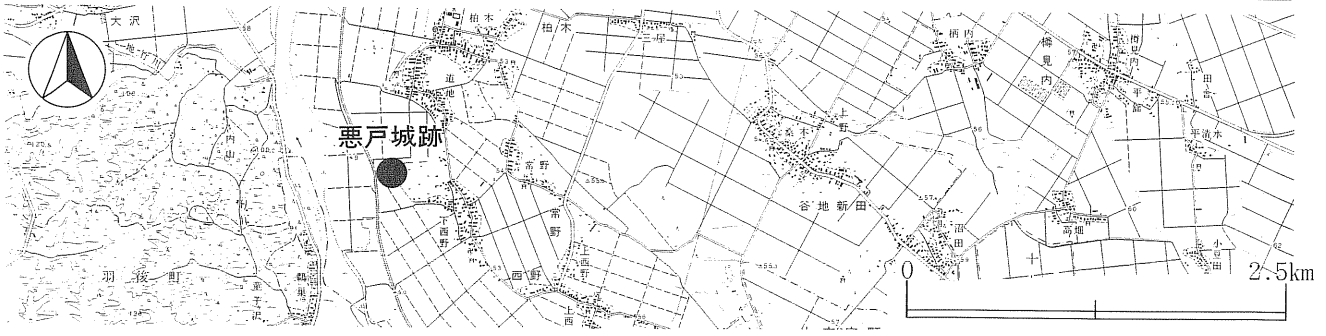
No.	遺跡名	所在地	時代	現況	出土遺物・検出遺構	備考
1	上宿内（かみしゅくない）遺跡	比内町味噌内字上宿内	縄文時代	水田	フレーク	周知の遺跡



23　県営ほ場整備事業福地地区

雄物川町福地地区における事業で、計画面積は406ha。平成13年度まで5ヵ年計画の事業である。本年度は、当面の事業対象区域について踏査及び試掘を行った。調査の結果、新発見の遺跡１ヵ所が事業に係わることを確認した。対応については、今後協議する予定である。

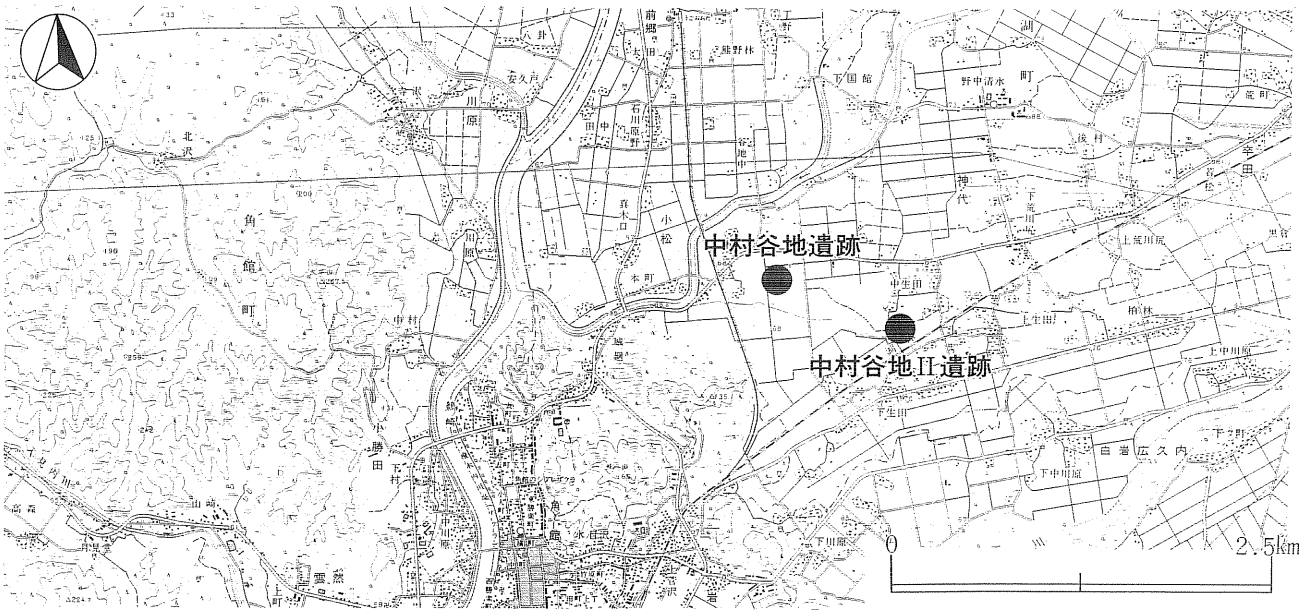
No.	遺跡名	所在地	時代	現況	出土遺物・検出遺構	備考
1	悪戸城（あくどじょう）跡	雄物川町西野字悪戸	中世	水田	陶器片	周知の遺跡



24　県営ほ場整備事業黒倉堰地区

田沢湖町黒倉堰地区における事業で、計画面積は439ha。平成12年度まで5ヵ年計画の事業である。平成７年度から分布調査を開始しており、本年度は、当面の事業対象区域について踏査及び試掘を行った。調査の結果、周知の遺跡２ヵ所が事業に係わることを確認したが、ともに検出遺構・出土遺物に乏しく工事立会の対応とした。

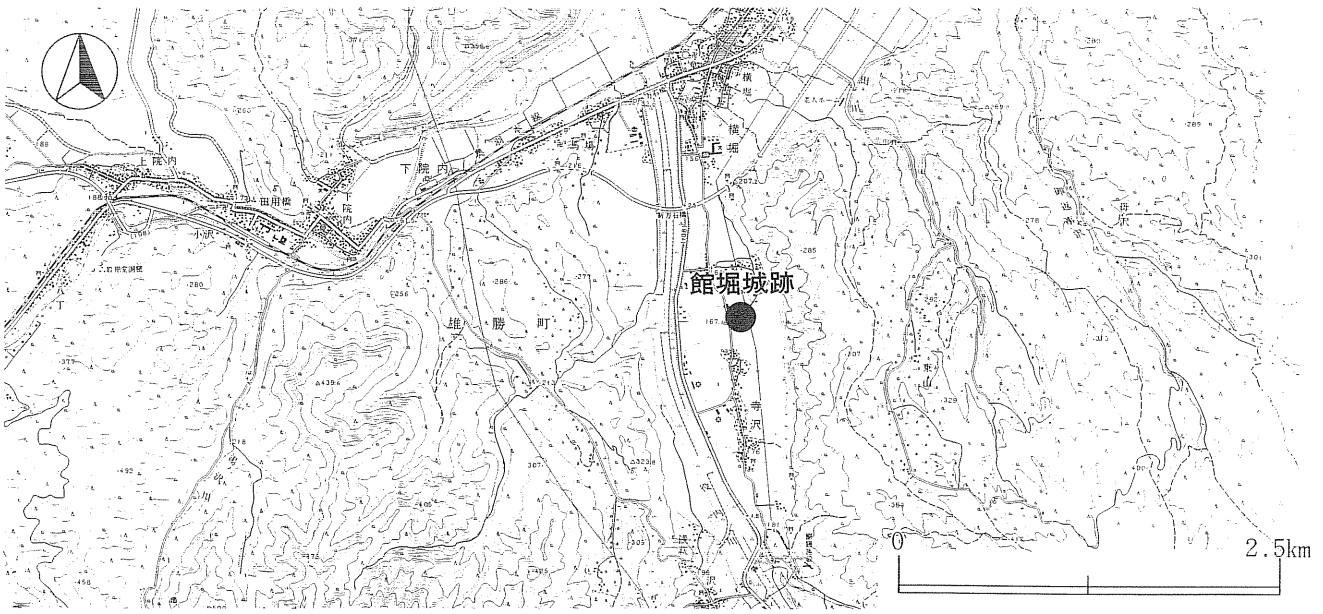
No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現　況	出土遺物・検出遺構	備　　考
1	中村谷地遺跡（なかむらやち）	田沢湖町神代字生田中村谷地	縄文時代	水　　田	土器片	周知の遺跡
2	中村谷地Ⅱ遺跡（なかむらやち）	田沢湖町神代字生田中村谷地	縄文時代	水　　田	なし	周知の遺跡



25　県営ほ場整備事業寺沢地区

雄勝町寺沢地区における事業で、計画面積は57ha。平成13年度まで5ヵ年計画の事業である。本年度は、当面の事業対象区域について踏査及び試掘を行った。調査の結果、周知の遺跡１ヵ所が事業に係わることを確認した。対応については、今後協議する予定である。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現　況	出土遺物・検出遺構	備　　考
1	館堀城跡（たてほりじょう）	雄勝町寺沢字館堀	中　　世	水　　田	堀跡･柱穴跡、陶器片	周知の遺跡



26　県営ほ場整備事業高梨東部地区

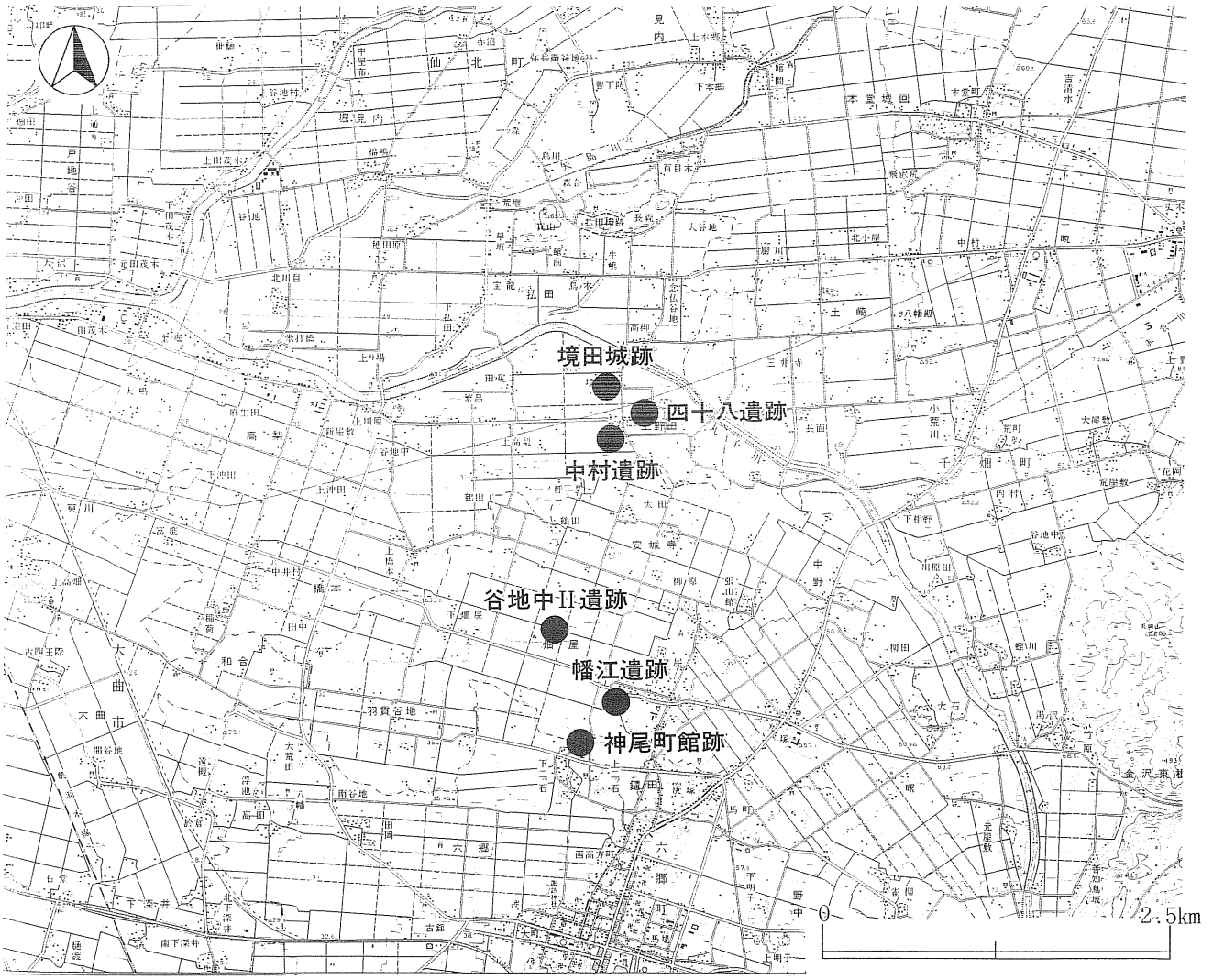
仙北町高梨東部地区における事業で、計画面積は118.5ha。平成９年度まで３ヵ年計画の事業である。平成７年度から分布調査を開始しており、本年度で事業対象区域についての分布調査を完了した。踏査及び試掘の結果、周知の遺跡３ヵ所が事業に係わることを確認したが、いずれも検出遺構・出土遺物に乏しく、工事立会の対応とした。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現　況	出土遺物・検出遺構	備　　考
1	境田城跡（さかいだじょう）	仙北町払田字境田	中　　世	水　　田	土師器・陶器	周知の遺跡
2	中村遺跡（なかむら）	仙北町上野田字中村	古　　代	水　　田	土師器	周知の遺跡
3	四十八遺跡（しじゅうはち）	仙北町上野田字四十八	古　　代	水　　田	なし	周知の遺跡

27　県営ほ場整備事業畑屋地区

千畑町畑屋地区における事業で、計画面積は193ha。平成10年度まで4ヵ年計画の事業である。平成７年度から分布調査を開始しており、本年度は当面の事業対象区域について踏査及び試掘を行った。調査の結果、周知の遺跡２ヵ所、新発見の遺跡１ヵ所が事業に係わることを確認した。対応については、今後協議する予定である。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現　況	出土遺物・検出遺構	備　　考
1	幡江館跡（はたえだて）	千畑町畑屋字前田	中　　世	水　　田	陶器片	周知の遺跡
2	神尾町館跡（かみおまちだて）	千畑町畑屋字神尾町	中　　世	水　　田	陶器片	周知の遺跡
3	谷地中Ⅱ遺跡（やちなか）	千畑町畑屋字谷地中	古　　代	水　　田	須恵器片	新発見の遺跡

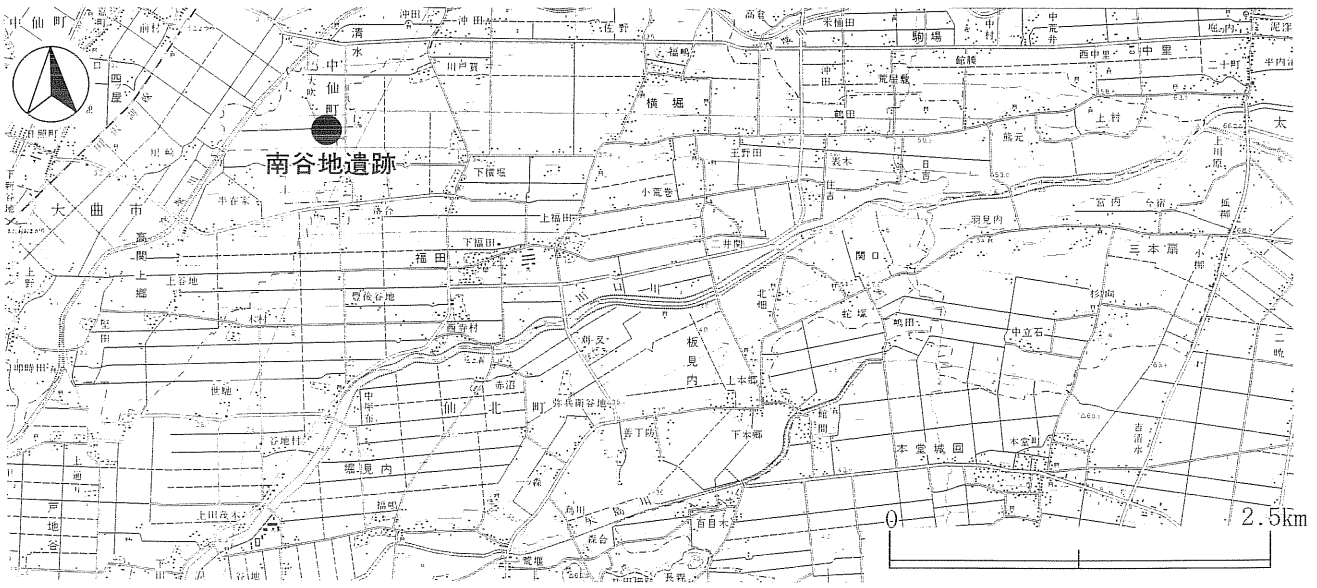


28　県営ほ場整備事業横堀地区

仙北町横堀地区とその周辺における事業で、計画面積は476.7ha。平成13年度まで6ヵ年計画の事業である。平成７年度から分布調査を開始しており、本年度は当面の事業対象区域について踏査及び試掘を行った。調査の結果、周知の遺跡１ヵ所が事業に係わることを確認したが、検出遺構・出土遺物に乏しく工事立会の対応とした。

なお、本事業地内には星宮遺跡群が含まれており、これらを含む部分については仙北町教育委員会で、詳細分布調査を進めている。

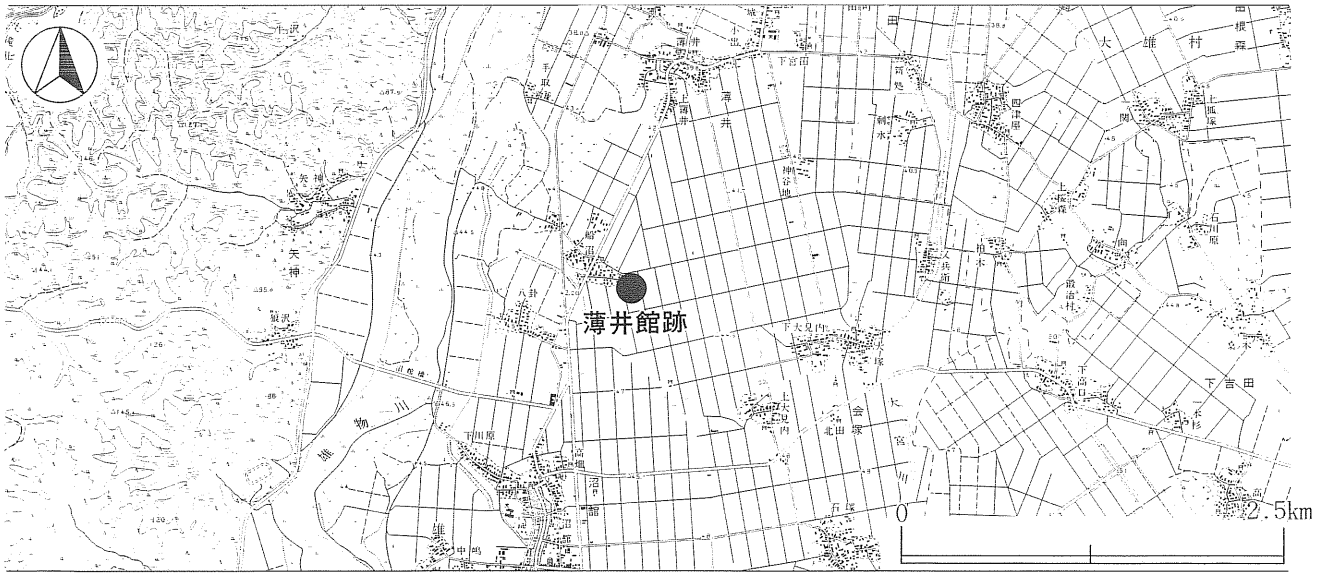
No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現　況	出土遺物・検出遺構	備　　考
1	南谷地遺跡（みなみやち）	中仙町清水字南谷地	古　　代	水　　田	溝跡	周知の遺跡



29　県営ほ場整備事業館合地区

雄物川町館合地区における事業で、計画面積は406ha。平成13年度まで5ヵ年計画の事業である。本年度は、当面の事業対象区域について踏査及び試掘を行った。調査の結果、周知の遺跡１ヵ所が事業に係わることを確認した。対応については、今後協議する予定である。

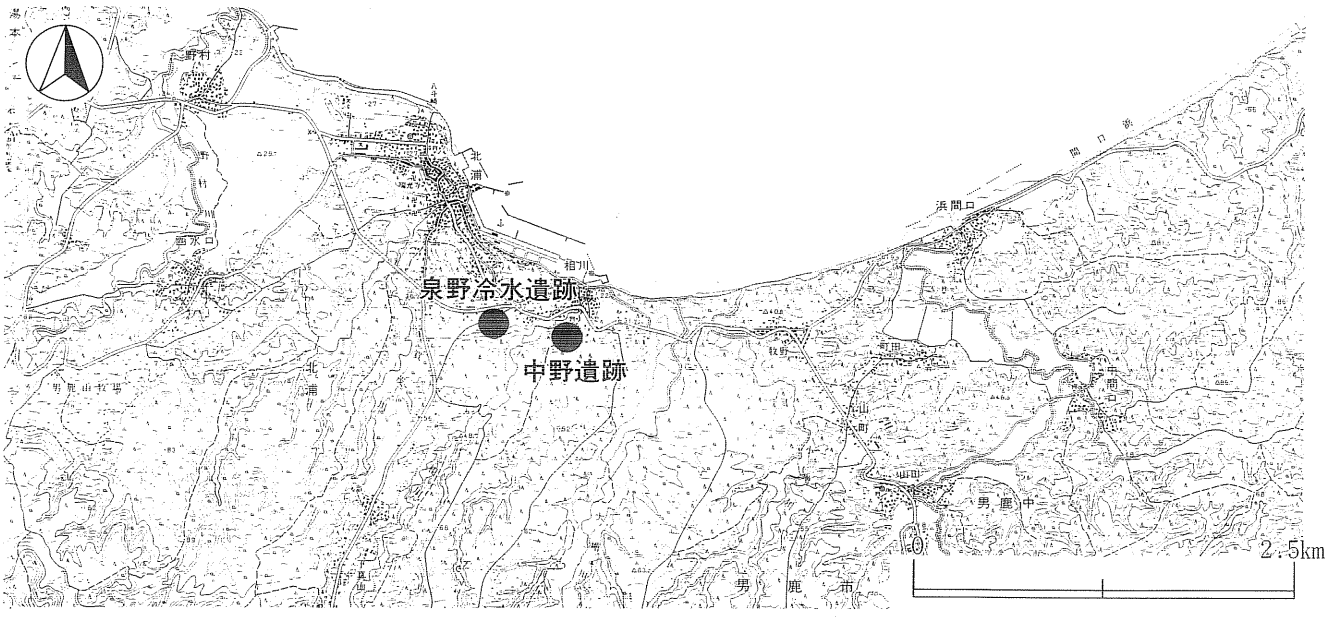
No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現　況	出土遺物・検出遺構	備　　考
1	薄井館跡（うすい たて）	雄物川町薄井字船沼	縄文時代~中世	水　　田	縄文土器片・土師器片	周知の遺跡



30　入道崎寒風山線整備事業

昨年度からの継続事業である。男鹿市北浦相川を始点に北浦北浦を終点とする延長1.62㎞の計画道路のうち西側の半分を対象に、踏査及び試掘を実施した。調査の結果、周知の遺跡１ヵ所と新発見の遺跡１ヵ所を確認した。両遺跡とも今後の範囲確認調査が必要である。

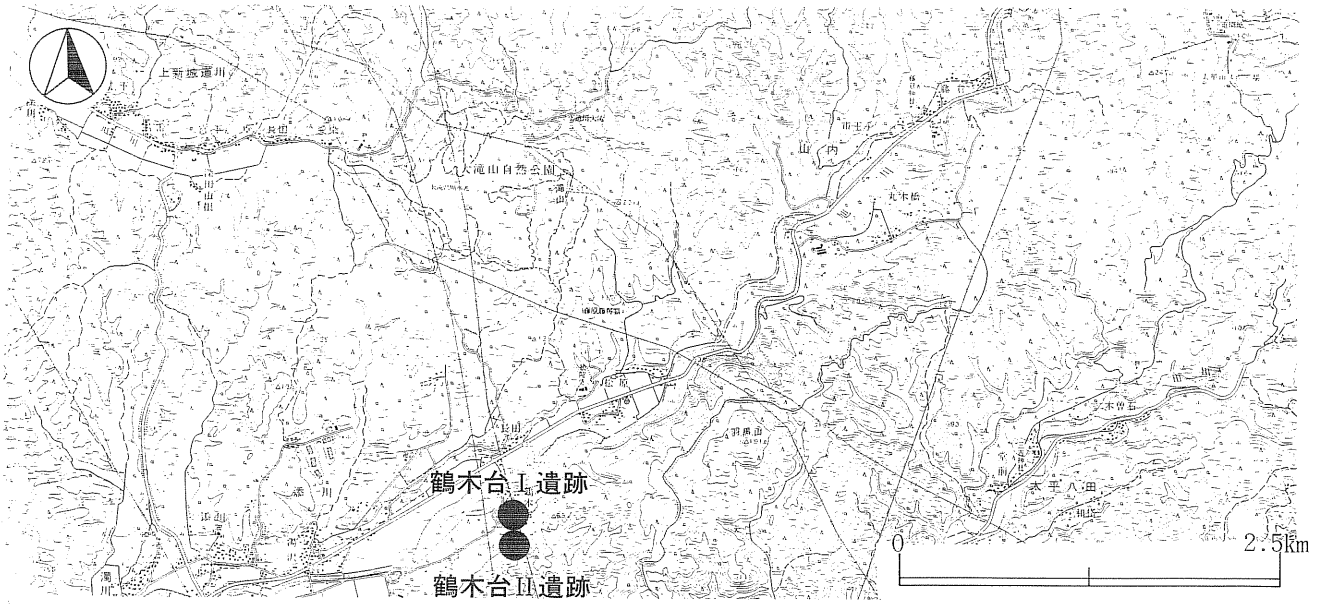
No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現　況	出土遺物・検出遺構	備　　考
1	泉野冷水遺跡（いずみのひやみず）	男鹿市北浦相川字相川沢	縄文時代	山林・原野	土器片	周知の遺跡
2	中野遺跡（なかの）	男鹿市北浦相川字中野	古代・中世	山林・原野	土器片	新発見の遺跡



31　秋田中央地区広域営農団地農道整備事業

秋田市外旭川と同市下北手を結ぶ延長17.9㎞、幅員８ｍの計画路線の内、秋田市添川字鶴木台地区について踏査及び試掘を実施した。調査の結果、周知の遺跡２ヵ所が事業に係わることが確認された。対応については、今後協議する予定である。また、計画路線南側については今後の調査が必要である。

No.	遺　跡　名	所　在　地	時　代	現　況	出土遺物・検出遺構	備　　考
1	鶴木台Ⅰ遺跡（つるきだい）	秋田市添川字鶴木台	縄文時代	原野・水田	土坑	周知の遺跡
2	鶴木台Ⅱ遺跡（つるきだい）	秋田市添川字鶴木台	縄文時代	山林・畑地	フレーク	周知の遺跡



第２節　遺跡範囲確認調査

１　森吉山（もりよしざん）ダム建設事業

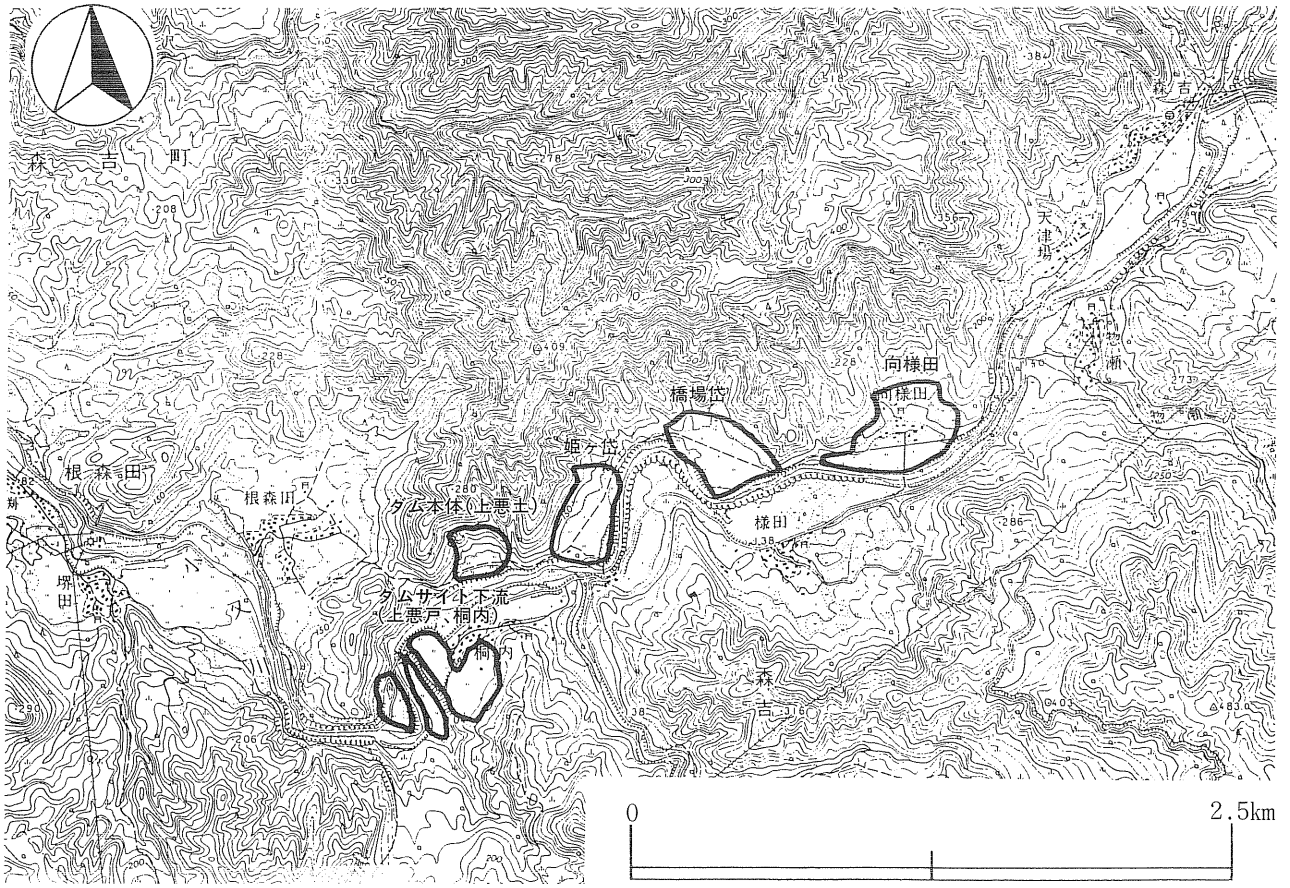
森吉山ダム建設事業に係わる範囲確認調査について

森吉山ダムは、東西に長い森吉町にそびえる森吉山の北を流れる小又川に建設されることとなり、ダム建設地および貯水池用地（湛水区域）、道路用地を対象として広域に範囲確認調査を実施することになった。ダム建設事業のため、すでに集落の移転は終了しており、かつての集落および耕作地の約 1,200,000㎡が調査対象になる。範囲確認調査は平成６年度から始まり本年度で３年目にあたる。

本年度は、上悪土橋付近に予定されているダムサイト下流およびダム本体に係わる場所として、小又川右岸の上悪土地区、かつて桐内集落のあった小又川左岸の桐内地区を対象とした。貯水池用地では小又川右岸の姫ヶ岱・橋場岱の各地区と向様田集落のあった向様田地区を対象として調査を実施した（第２図）。

調査対象面積は当初 330,000㎡を予定した。調査期間中に橋場岱地区から姫ヶ岱・上悪土地区までの町道を拡幅して工事用道路を造成する計画があり、これに対応した調査も併行した。結果的に約 305,000㎡を調査し、23 遺跡を確認し、平成６・７年度に確認した 28 遺跡を合わせて 51 遺跡となった。

なお、平成６年度に確認した「桐内Ⅰ遺跡」・「桐内Ⅱ遺跡」は整理などの都合上、前者を「桐内Ｃ遺跡」、後者を「桐内Ｄ遺跡」と名称を変更した。さらに、地籍台帳を照合したところ「上悪土」は「上悪戸」となっていることから、森吉町建設課と協議して、上悪土地区の遺跡はそれぞれ上悪戸Ａ・Ｂ・Ｃの遺跡名とし、本年度当初に確認した「上悪土遺跡」は「上悪戸Ｄ遺跡」とした。



第２図 森吉山ダム建設事業地内範囲確認調査地区位置図

（１）　上悪戸（かみあくど）Ａ遺跡・上悪戸Ｂ遺跡・上悪戸Ｃ遺跡・上悪戸Ｄ遺跡

１　遺跡所在地

上悪戸Ａ遺跡　　秋田県北秋田郡森吉町森吉字上悪戸４－１，９，10－１，11－１・２
12－１～４，13，14－１，16－１・２　外

上悪戸Ｂ遺跡　　秋田県北秋田郡森吉町森吉字上悪戸８－12

上悪戸Ｃ遺跡　　秋田県北秋田郡森吉町森吉字上悪戸７，８－９

上悪戸Ｄ遺跡　　秋田県北秋田郡森吉町森吉字上悪戸34－７，34－29～41，34－60・61・67，54　外

２　範囲確認調査期間　　平成８年５月13日～10月25日

３　範囲確認調査面積　　１８，５５０㎡

４　工事区域内遺跡面積　　上悪戸Ａ遺跡　6,300㎡、　上悪戸Ｂ遺跡　400㎡
上悪戸Ｃ遺跡　1,150㎡、　上悪戸Ｄ遺跡　5,400㎡

５　遺跡の立地と現況

①立地

上悪戸Ａ～Ｄ遺跡は小又川右岸の河岸段丘上にあり、北側の標高150～280ｍの丘陵地の裾部もしくはそのやや上の高位部に立地する。上悪戸Ａ～Ｃ遺跡は、小又川のすぐ北の段丘上にあり、上悪戸Ｄ遺跡も含んで、この一帯が地滑りによる砂礫地となっている。上悪戸Ａ遺跡は南側が小又川のすぐ上で急崖となり、遺跡のほぼ中央を町道が横断している。全体的に北から南に下る斜面で、その標高は125～132ｍである。上悪戸Ｂ・Ｃ遺跡は、上悪戸Ａ遺跡の北もしくは北東側の標高140～150ｍの斜面上に立地する。上悪戸Ｄ遺跡は小又川の北にあり、標高109～115ｍほどの段丘上に立地する。遺跡の南側には、県道比内森吉線があり、南・東・西の端部は丘陵の裾部にあたり、３方向とも斜面の下になっている。

②現況

上悪戸Ａ遺跡はかつて水田で、上悪戸Ｂ・Ｃ遺跡はかつて山林で木は伐採されていた。上悪戸Ｄ遺跡はかつて畑地・山林であり、木は伐採されていた。

６　範囲確認調査方法

トレンチ箇所を、Ａ～Ｃ遺跡は東西に走る町道に沿って設定し、町道の北側は地形に合わせてほぼ南北方向に設定した。表土は重機で除去した後、遺構確認面もしくは地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認していった。

７　範囲確認調査結果

Ａ：上悪戸Ａ遺跡

①層位

地滑りによる砂礫地のため角礫が多く、遺物含包層まで深い。第３図に示した南西部のＡ１地点における層位と深さを下に記した。

Ａ１－１層　盛土(25cm)、２層　暗褐色土(20cm)、３層　黒褐色土(25cm)、４層　暗褐色土(20cm)―縄文土器出土。５層　黒褐色土(10cm)－縄文土器多く出土。やや硬くしまる。２～５層には細砂と小礫40％含む。

②遺構と遺物

縄文時代の土坑を検出した。大きな角礫に交じって縄文時代後期の土器・石器が出土した。なお範囲確認調査はトレンチ総延長が210ｍで、遺跡全体の面積の3.3％を行い、遺物の出土量は中コンテナで1/3箱である。

Ｂ：上悪戸Ｂ遺跡

①層位

遺跡の斜面上部では表土から25～30㎝掘り下げて地山に達した。第３図に示したＢ１地点における層位と深さは下記のとおりである。

Ｂ１－１層　にぶい黄色褐色土(15～20㎝)、２層　褐色土(10㎝)、３層　明黄褐色土－地山

②遺構と遺物

弥生時代後期の土坑を検出し、土器は土坑内から出土した。なお範囲確認調査はトレンチの総延長が40ｍで、遺跡全体の面積の10％を行い、遺物に出土量はコンテナで土器1/4箱、石器1/4箱である。

Ｃ：上悪戸Ｃ遺跡

①層位

遺跡の斜面上部では下部に比較して層厚があり深い。第３図に示したＣ１地点における層位と深さは下記のとおりである。

Ｃ１－１層　黒褐色土(10㎝)、２層　暗褐色土(8～14㎝)、３層　にぶい黄褐色土(5～10㎝)－地山漸移層、
４層　褐色土－地山。

②遺構と遺物

縄文時代の土坑や溝跡、柱穴を検出した。遺物は縄文時代後期の土器や石器があり、少量ながら全体的に出土した。なお範囲確認調査はトレンチの総延長が102ｍで、遺跡全体の面積の8.9％を行い、遺物の出土量はコンテナで土器1/4箱、石器1/4箱である。

Ｄ：上悪戸Ｄ遺跡

①層位

畑部分と旧山林部分とでは層相が異なる。畑部分は層相が単純で地山まで浅い。旧山林部分は地滑りによる砂礫地となっているため、層相は複雑で地山まで深い。第５図に示しているように畑部分をＤ１地点、旧山林部分をＤ２・Ｄ３地点とした。３地点の層位と深さは下記のとおりである。

Ｄ１－１層　褐色土(30㎝)、２層　暗褐色土(20㎝)－上面が遺構検出面

Ｄ２－１層　暗褐色土(30㎝)、２層　黒褐色土(12㎝)　竪穴状遺構掘り込み面、３層　黒褐色砂質土(8㎝)
４層　暗褐色土(31㎝)、５層　黒褐色土(31㎝)　粘土に砂混入。６層　黒褐色土(5㎝)　やや硬くしまる。７層　褐色土　柱穴確認面。２～５層は南側斜面から流れた土砂が堆積したものと推定される。

Ｄ３－１層　暗褐色土(70㎝)－盛土。２層　褐色土(15㎝)、地山ブロック状に混入。－二次堆積土。
３層　黒褐色土(10㎝)。４層　褐色土(60㎝)－地山主体で砂礫混入。５層　黒褐色土(５㎝)－Ｄ２の６層に対応。

下記のように旧山林部分の西側（Ｄ２地点）では２面の遺構検出面が確認された。

なお、遺跡を東西に横断している旧県道の西側には砕石が厚さ40～50㎝に敷かれている。また旧山林では西端に径50～60㎝の大きな石が多数ある。

②遺構と遺物

縄文時代の土坑と竪穴住居跡・竪穴状遺構・柱穴を検出した。遺物は量的に少ないものの、畑部分では縄文時代後期・晩期の土器・石器が調査区全体から出土している。旧山林部分では西側から出土している。なお範囲確認調査はトレンチの総延長が403ｍで、遺跡全体の面積の7.5％を行い、遺物出土量はコンテナで土器1/4箱、石器1/4箱である。

８　所見

Ａ：上悪戸Ａ遺跡

①遺跡の種類

縄文時代後期の遺跡で、遺構密度は高くないが、遺物の分布範囲は広い。

②遺跡の範囲

東・西は沢によって画され、南は小又川の川岸から、北は町道のやや北、山裾部の手前までが範囲である。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

縄文時代後期の土坑が検出されるものと予想される。遺物は土器の他、大・小の角礫に混在する形で、石器や石器剥片もしくは石器素材の割合が高く出土すると予想される。

Ｂ：上悪戸Ｂ遺跡

①遺跡の種類

弥生時代後期の小規模な遺跡である。

②遺跡の範囲

南側の山裾のやや上で、馬の背状となった尾根部が遺跡の範囲である。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

弥生時代の土坑が検出され、少量の遺物が出土するものと予想される。

Ｃ：上悪戸Ｃ遺跡

①遺跡の種類

縄文時代後期の遺跡である。

②遺跡の範囲

北東側の高位部で、舌状に張り出した斜面が遺跡の範囲である。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

縄文時代後期の土坑や溝跡・柱穴が検出され、少量の遺物が出土するものと予想される。

Ｄ：上悪戸Ｄ遺跡

①遺跡の種類

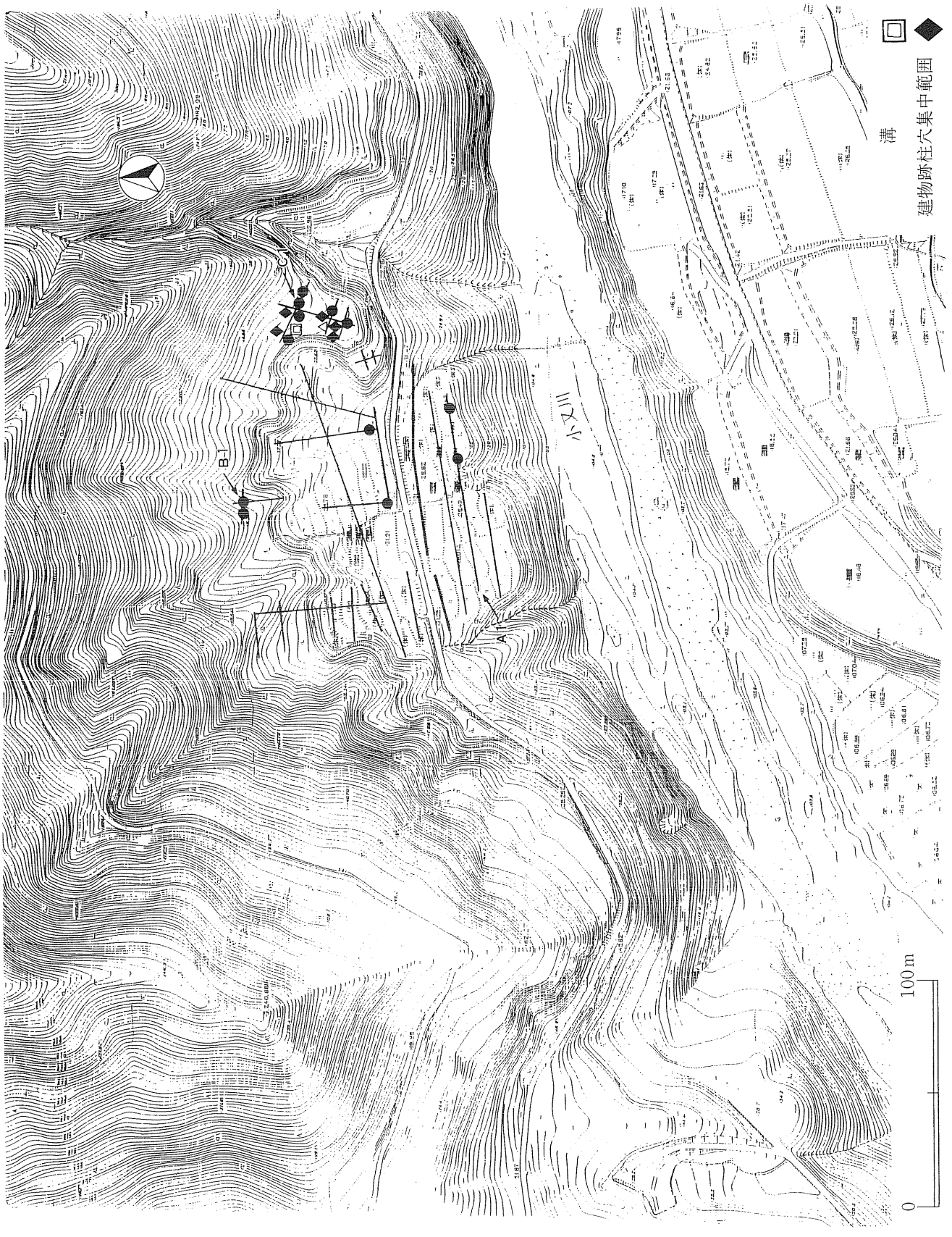
縄文時代の後期・晩期の中規模な集落跡である

②遺跡の範囲

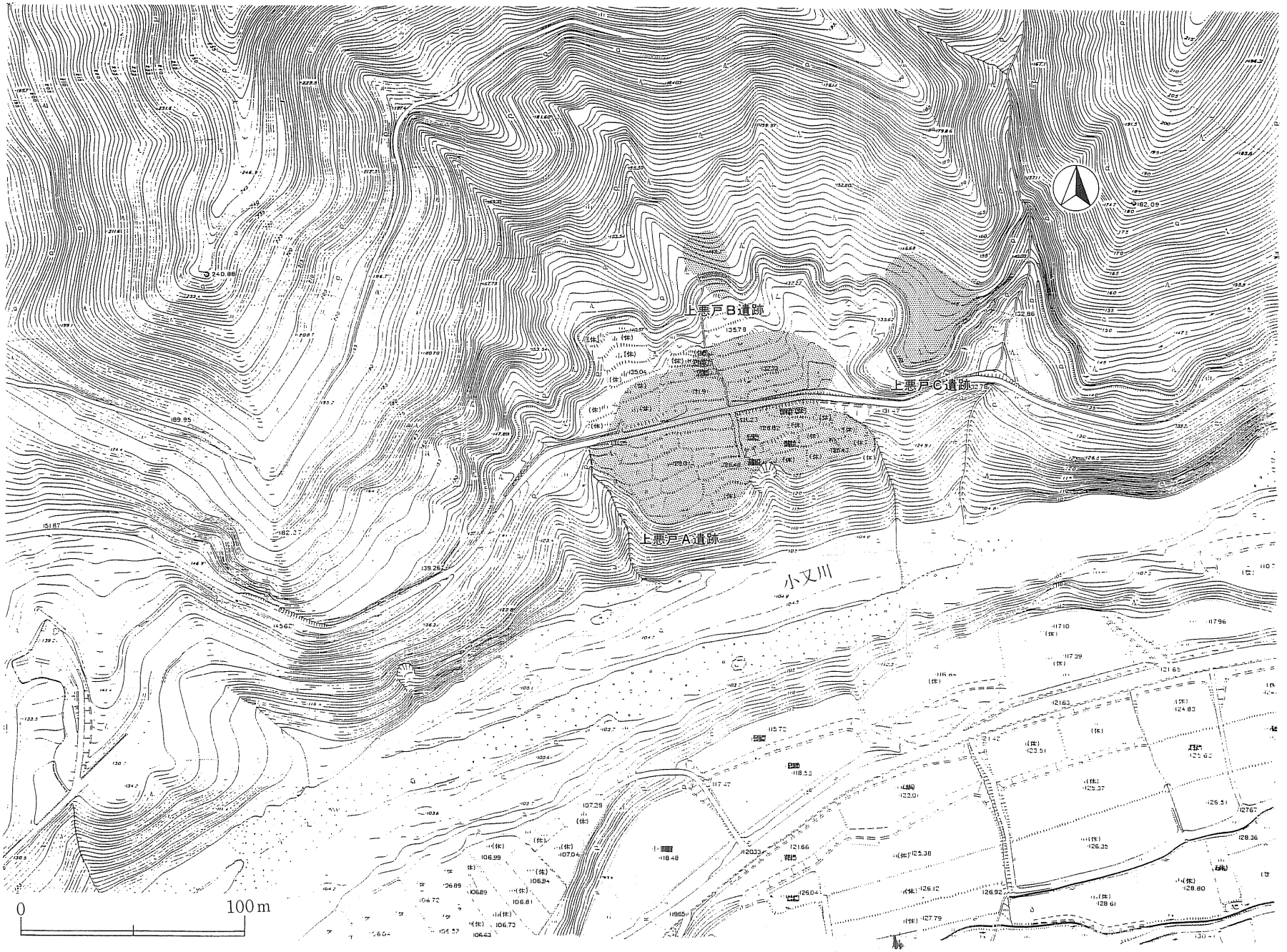
遺跡の北側の畑地・道路と、その北の山裾部の旧山林が遺跡の範囲である。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

縄文時代後期・晩期の住居跡と竪穴状遺構・土坑・柱穴が検出され、土器や石器がある程度出土するものと予想される。なお平成８年度に森吉町で、この遺跡の南端部の道路拡幅部分を発掘調査した。この結果、縄文時代後期・晩期の住居跡と土坑を検出している。

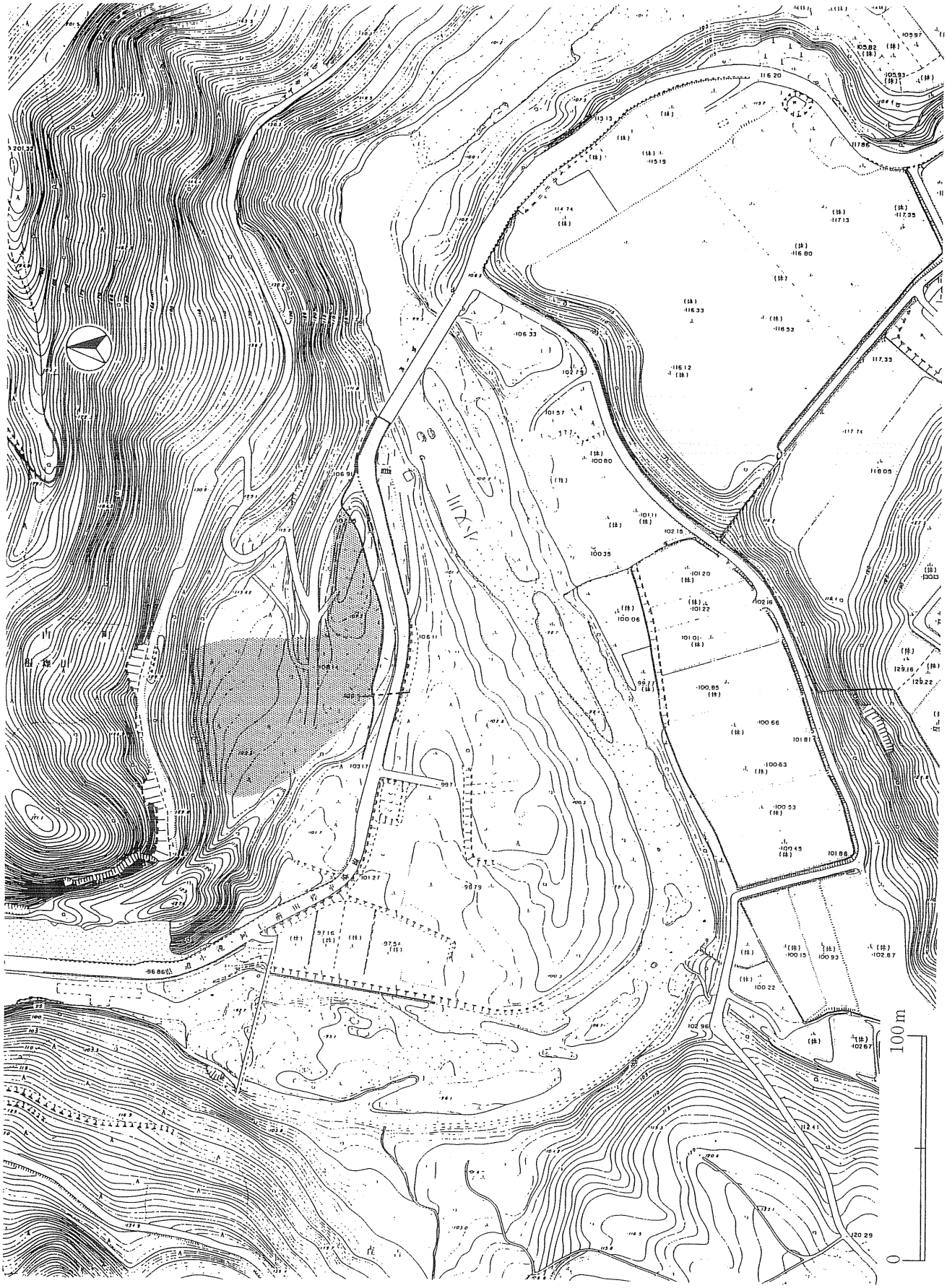


第３図　上悪戸Ａ～Ｃ遺跡調査結果図

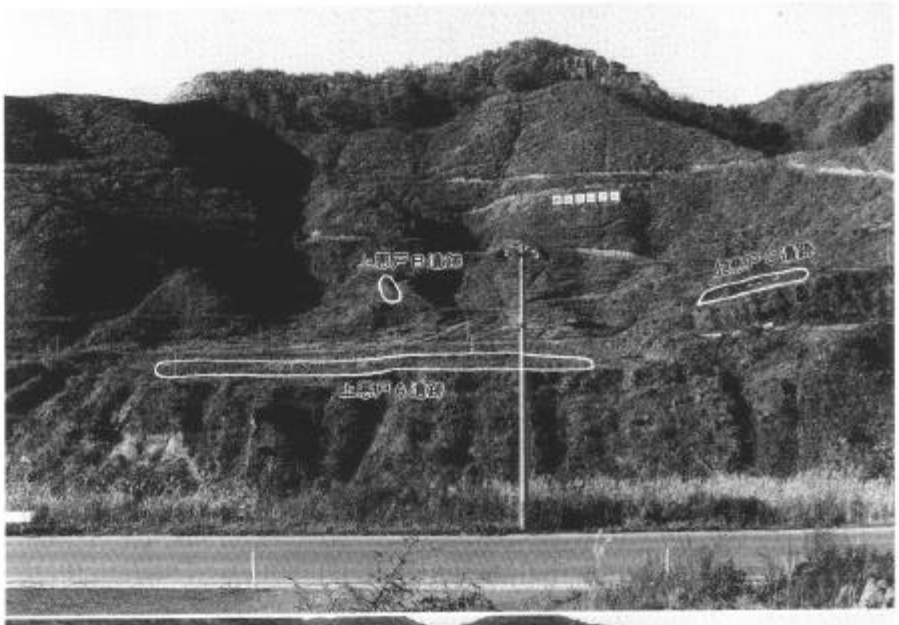


第４図 上悪戸Ａ～Ｃ遺跡範囲図

第５図　上悪戸Ｄ遺跡調査結果図



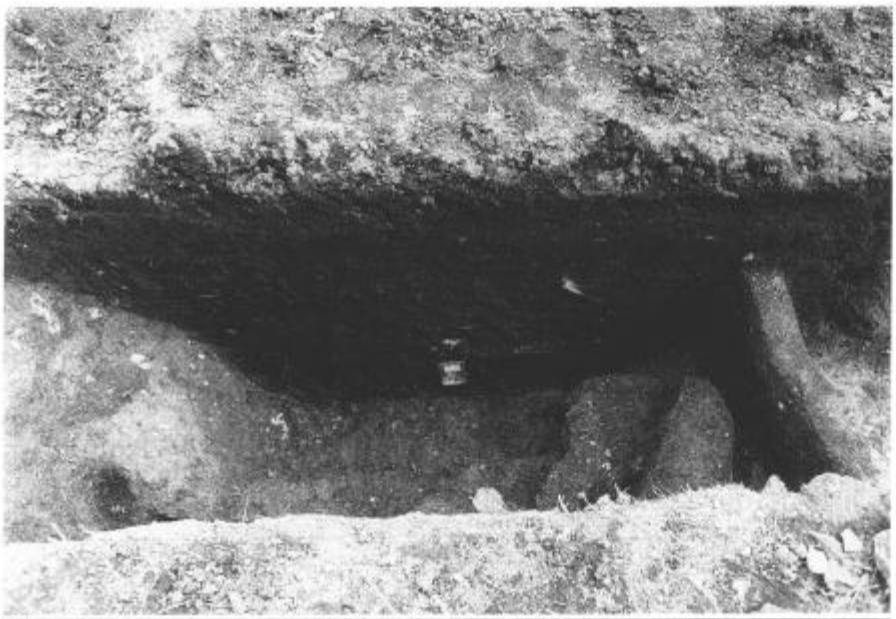
第６図　上悪戸Ｄ遺跡範囲図



上悪戸Ａ～Ｃ遺跡
遠景（南から）

上悪戸Ａ遺跡
調査状況（南から）

上悪戸Ａ遺跡　土坑
検出状況（東から）



上悪戸Ａ遺跡　土坑
検出状況（東から）

上悪戸Ａ遺跡トレンチ
精査状況（南東から）

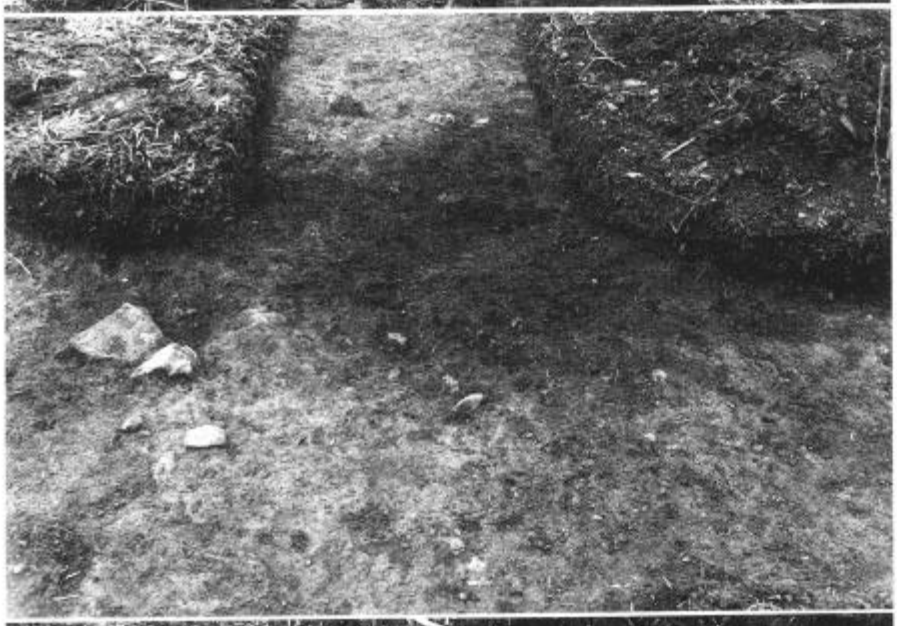
上悪戸Ａ遺跡　深掘
土層断面（南から）

上悪戸Ｂ遺跡遠景
（南から）

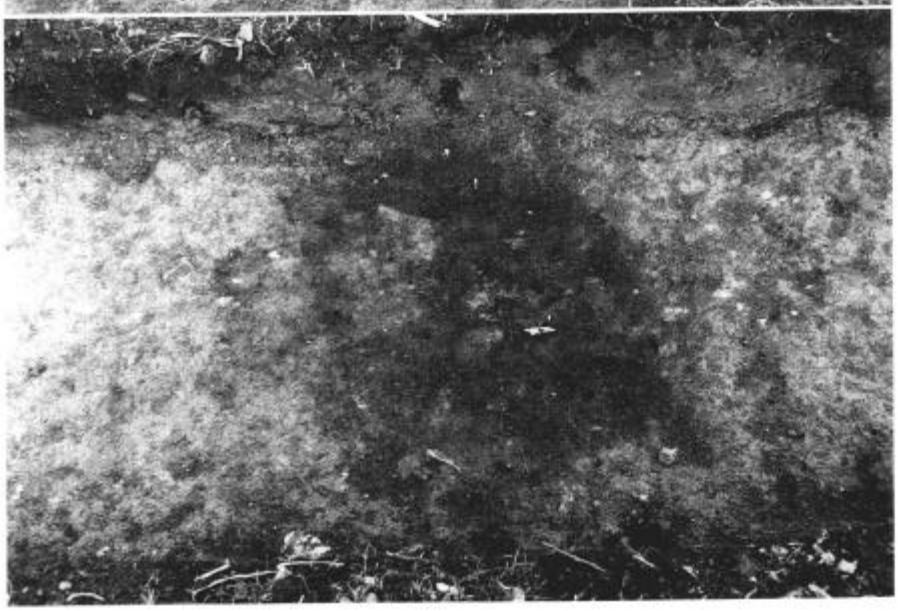
上悪戸Ｂ遺跡トレンチ
精査状況（南から）

上悪戸Ｂ遺跡　土坑
検出状況（南から）

上悪戸Ｃ遺跡　トレンチ
精査状況（北から）



上悪戸Ｃ遺跡　土坑
検出状況（北から）



上悪戸Ｃ遺跡　土坑
検出状況（南から）

上悪戸Ｄ遺跡
遠景（北から）

上悪戸Ｄ遺跡　全景
一畑部分（北西から）

上悪戸Ｄ遺跡トレンチ
精査状況一山林部分
（南から）

上悪戸Ｄ遺跡竪穴状
遺構検出状況ー旧山林
部分（南から）

上悪戸Ｄ遺跡東側柱穴
検出状況ー旧山林部分
（東から）

上悪戸Ｄ遺跡
土器出土状況ー畑部分
（南東から）

（２） 桐内Ａ遺跡・桐内Ｂ遺跡

１ 遺跡所在地

桐内Ａ遺跡　　秋田県北秋田郡森吉町森吉字桐内前田５－１，６－１・３　外

桐内Ｂ遺跡　　秋田県北秋田郡森吉町森吉字家ノ下16、字桐内33－１,34～37外

２ 範囲確認調査期間　平成８年５月13日～10月25日

３ 範囲確認調査面積　101,753㎡

４ 工事区域内遺跡面積　桐内Ａ遺跡　15,500㎡、桐内Ｂ遺跡　1,450㎡

５ 遺跡の立地と現況

①立地

桐内Ａ・Ｂ遺跡は、小又川が屈曲する左岸の河岸段丘上にあり、旧桐内集落の西側に位置する。いずれも県道比内森吉線の南側で、桐内Ａ遺跡は南側は標高116～117mで東側から西側に向かって下がるがほぼ平坦であり、北側は標高114.5～115ｍと１段低くなっている。桐内Ｂ遺跡は、桐内Ａ遺跡の南東方向で、Ａ遺跡より高い標高127～131ｍの台地上に立地し、南西～北東に向かって下がる緩斜面となっている。

②現況

桐内Ａ遺跡はかつては水田であった。桐内Ｂ遺跡はかつて畑で、北西端は竹林となっている。

６ 範囲確認調査方法

桐内Ａ遺跡は、中央部分のトレンチを南西端にある農道に沿わせる形で等間隔に設定し、それにほぼ直交するラインは地形に合わせて適宜設定した。北東端は細長い地形に合わせて、県道にほぼ平行する長軸方向に任意でトレンチを設定した。表土はいずれも重機で除去した後、遺構確認面もしくは地山まで人力で掘り下げた。

７ 範囲確認調査結果

Ａ：桐内Ａ遺跡

①層位

桐内Ａ遺跡では中央部が水田造成の際に削平されたものと思われ、全体的に表土から地山までは浅く、西側では地山の砂礫層が表土下で露出している所もあり、沢となっている南側では表土下で40cmも盛土されている。１段低い北側は盛土はされているが、包含層が良好に残っている。第７図に示した南西側（Ａ１地点）と北側（Ａ２地点）の層位と深さは下記のとおりである。

Ａ１－１層　黒褐色土(20cm)－表土、　２層　暗褐色土(20cm)－遺物包含層、　３層　にぶい黄褐色土－地山漸移層

Ａ２－１層　黒褐色土(20cm)－表土、　２層　暗褐色土(13cm)－盛土、　３層　黒褐色土(15cm)－旧表土、４層　黒褐色土(22cm)－遺物包含層、　５層　にぶい黄褐色土(10cm)－地山漸移層、　６層　黄褐色土－地山

②遺構と遺物

遺構は舌状台地の南側と北側に多く分布し、縄文時代の住居跡・土坑・溝跡・焼土遺構を検出した。遺物は縄文時代後期の土器・石器が出土している。なお範囲確認調査はトレンチの総延長が1,001ｍで、遺跡全体の面積の6.5％、遺物の出土量は中コンテナで土器½箱、石器⅓箱である。

Ｂ：桐内Ｂ遺跡

①層位

緩斜面に作られた段々畑のため、畑の肩部がやや深くなっている。第７図に示したＢ１地点における層位と深さを下に示した。

Ｂ１－１層　暗褐色土(20cm)－表土、２層　黒褐色土(22cm)、３層　黒色砂質土(13cm)－下部で配石遺構を検出

②遺構と遺物

縄文時代の配石遺構・土坑・焼土遺構を検出した。遺物は縄文時代晩期の土器・石器が少量出土した。なお範囲確認調査はトレンチの総延長が151ｍで、遺跡全体の面積の10.4％、遺物の出土量は中コンテナで土器1/4箱、石器1/2箱である。

８　所見

Ａ：桐内Ａ遺跡

①遺跡の種類

縄文時代後期の集落跡で、遺構数や立地などから桐内地区の中心的な役割りを果たした集落と考えられる。

②遺跡の範囲

北西に張り出した台地全体が遺跡の範囲である。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

縄文時代後期の住居跡と土坑・焼土遺構・溝跡がある程度まとまって検出されるものと予想される。遺物は石器素材の剝片も多く出土するものと考えられる。

Ｂ：桐内Ｂ遺跡

①遺跡の種類

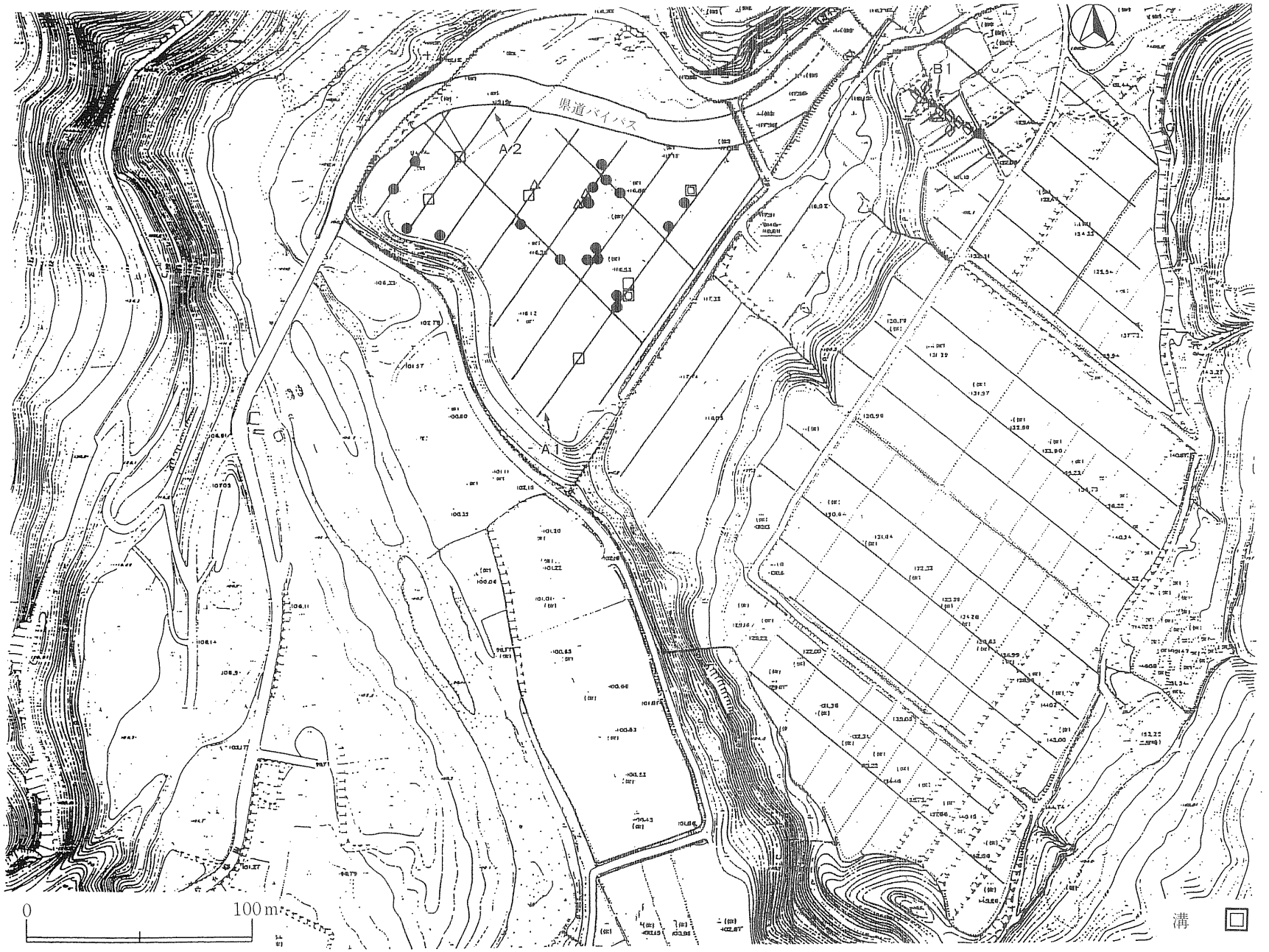
縄文時代晩期の配石遺構を伴う遺跡である。

②遺跡の範囲

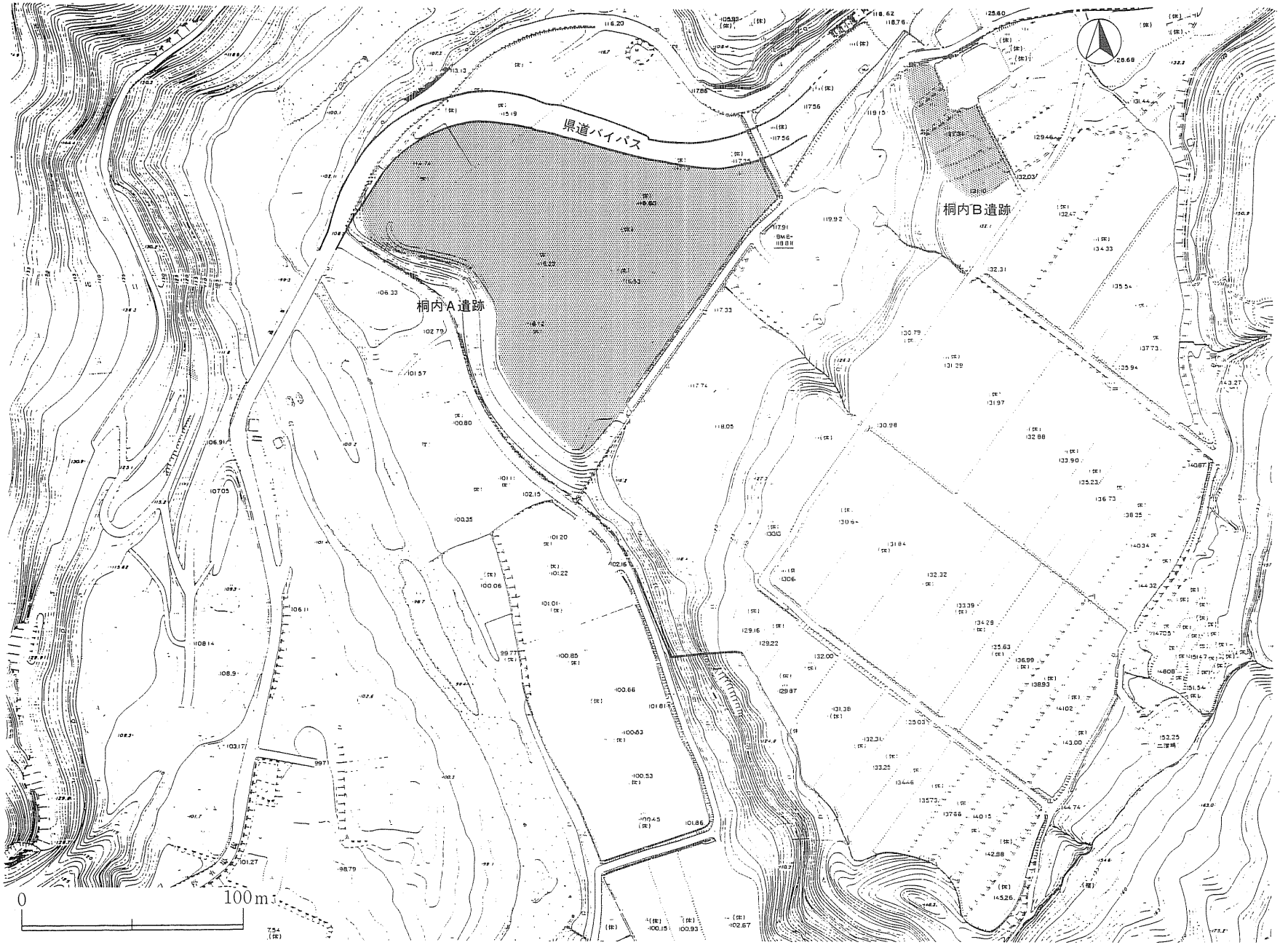
北側に張り出した狭小な台地の北西部が遺跡の範囲である。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

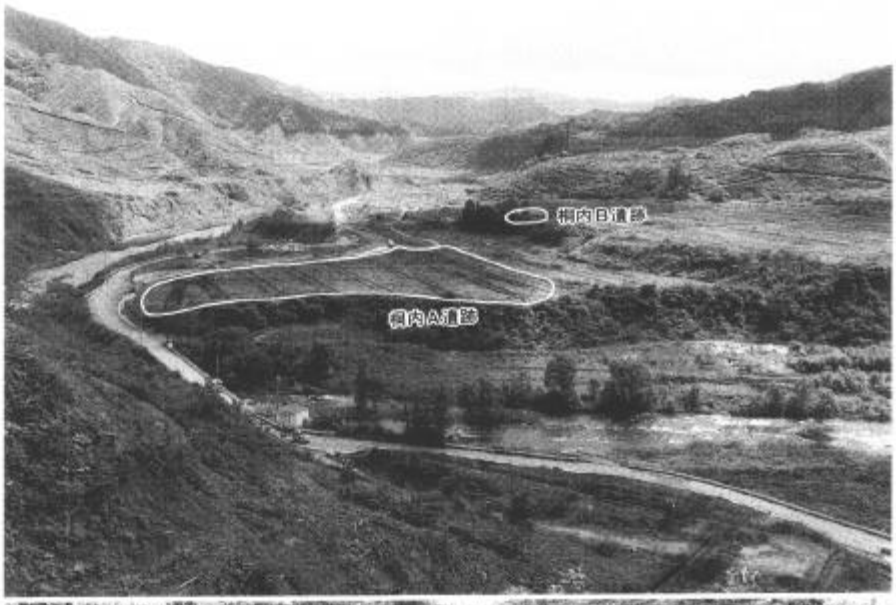
中央部から斜面下部にかけて配石遺構が広がり、その下に土坑が検出されるものと予想される。



第7図 桐内地区調査結果図



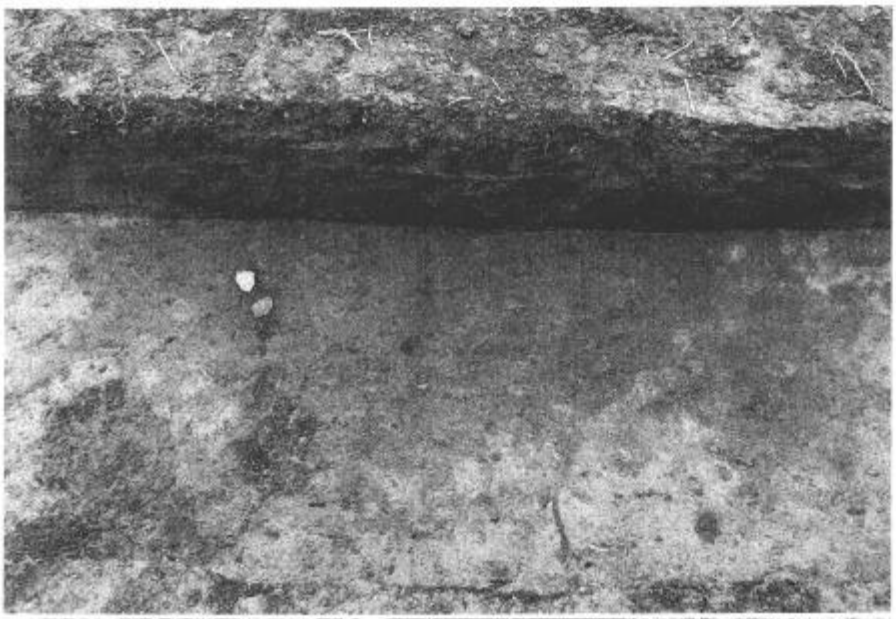
第８図 桐内Ａ・Ｂ遺跡範囲図



桐内A・B遺跡遠景
（西から）

桐内A遺跡
竪穴住居跡検出状況
（北から）

桐内A遺跡
住居跡の炉検出状況
（西から）



桐内Ａ遺跡　土坑
検出状況（東から）

桐内Ｂ遺跡配石遺構
検出状況（南東から）

桐内Ｂ遺跡
配石遺構と層位の関係
（南西から）

（3） 姫ヶ岱A遺跡・姫ヶ岱B遺跡・姫ヶ岱C遺跡・姫ヶ岱D遺跡

1　遺跡所在地

姫ヶ岱A遺跡　　秋田県北秋田郡森吉町森吉字姫ヶ岱８，９－１，10－１

姫ヶ岱B遺跡　　秋田県北秋田郡森吉町森吉字姫ヶ岱14－10～12

姫ヶ岱C遺跡　　秋田県北秋田郡森吉町森吉字姫ヶ岱12－２～11，15　外

姫ヶ岱D遺跡　　秋田県北秋田郡森吉町森吉字姫ヶ岱12－31　外

2　範囲確認調査期間　平成８年５月13日～10月25日

3　範囲確認調査面積　47,442㎡

4　工事区域内遺跡面積　姫ヶ岱A遺跡　1,650㎡、姫ケ岱B遺跡　850㎡

姫ヶ岱C遺跡　8,600㎡、姫ヶ岱D遺跡　2,100㎡

5　遺跡の立地と現況

①立地

姫ケ岱A～D遺跡は小又川右岸の河岸段丘にあり、西側や北側の標高280～409ｍの丘陵地の裾部から南寄りの小又川沿いに位置する。この地区の中ほどを東西に町道が横断しており、A・C・Dの各遺跡はこの町道の南側に、B遺跡は北側に位置する。C遺跡は標高131～134ｍで、B遺跡は丘陵地の裾部寄りの標高約138㎡の高位面に、A・D遺跡は125～130ｍの低位面に立地している。

②現況

A～D遺跡はいずれもかつて水田であった。A遺跡は旧山林を近年水田にしたもので木根がやや残る。

6　範囲確認調査方法

地形を考慮して任意にトレンチ箇所を設定し、重機により表土を除去した後、遺構確認面もしくは地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認していった。

7　範囲確認調査結果

A：姫ヶ岱A遺跡

①層位

表土付近は重機による土の移動の痕跡があるが、遺物包含層や遺構の残存状態は良好である。第９図に示したA１地点における層位と深さを下に記した。

A１－１層　黒褐色土(17㎝)－表土、２層　黒褐色土(13㎝)、３層　黒褐色土(33㎝)－遺物包含層・配石遺構検出面、４層　暗褐色土(10㎝)－地山漸移層、５層　にぶい黄褐色土－地山

②遺構と遺物

縄文時代の配石遺構と土坑を検出した。配石遺構の下に土坑は検出されなかった。遺物は縄文時代前期の土器と石器が出土した。なお範囲確認調査はトレンチ総延長が114ｍで、遺跡全体の面積の6.9％、遺物の出土量は中コンテナで土器¼箱、石器¼箱である。

B：姫ヶ岱B遺跡

①層位

中央部は水田造成時に部分的に削平されており、地山までは約35㎝と浅く、南西端の水田の肩部は盛土が100～120㎝もある。南端の工事用道路のための町道拡幅部分は、遺構・遺物の残存状態が比較的良好である。

町道拡幅部分をＢ１地点として第９図に示し、層位と深さを下に記した。

Ｂ１－１層　暗褐色土(25cm)－表土、２層　黒褐色土(10cm)－盛土、３層　にぶい黄褐色土(15cm)－地山漸移層、４層　褐色粘土－地山

②遺構と遺物

縄文時代の土坑と柱穴を検出した。遺物は縄文土器・石器が出土した。なお範囲確認調査はトレンチ総延長が70ｍで、遺跡全体の面積の8.2％、遺物の出土量はコンテナで土器¼箱、石器¼箱である。

Ｃ：姫ヶ岱Ｃ遺跡

①層位

全体的に水田造成時の削平・盛土がみられた。表土から地山までの深さは、部分的ではあるが、東側では15cm前後と浅い所もあり、西側では40～50cmと深くなる。小又川寄りの南端部、水田肩部では盛土が40cmと厚く、深さが105cmになる所もある。第９図に示した中央部南側の土坑検出地点における層位と深さを下に記した。

Ｃ１－１層　黒褐色土(20cm)－表土、２層　黒褐色土(20cm)－遺物包含層、３層　褐色土(10cm)－地山漸移層、４層　明褐色土－地山

②遺構と遺物

縄文時代の住居跡や土坑・配石遺構・溝跡・焼土遺構・柱穴を検出した。遺物は縄文時代中期の土器・石器が出土した。なお範囲確認調査はトレンチ総延長が465ｍで、遺跡全体の面積の5.4％、遺物の出土量は中コンテナで土器1/4箱、石器1/4箱である。

Ｄ：姫ヶ岱Ｄ遺跡

①層位

全体的に水田造成時の削平がみられた。中央部～西側は表土～地山までの深さが20～25cmと浅く、東側では沢が入り込んでいるために東端に向かって次第に深くなり、表土～地山までの深さが65cmである。第９図に示したＤ１地点における層位と深さを下に記した。

Ｄ１－１層(10cm)－表土、２層　黒褐色土(15cm)－遺物が出土、３層　暗褐色土(８cm)－地山漸移層、４層　褐色細砂－地山

②遺構と遺物

遺構は縄文時代の住居跡と焼土遺構・柱穴を検出した。遺物は住居跡より深鉢形土器がまとまって出土した。他に遺構外から、縄文時代中期の土器・石器が出土した。なお範囲確認調査はトレンチ総延長が258ｍで、遺跡全体の面積の12.2％、遺物の出土量はコンテナで土器⅓箱、石器⅓箱である。

８　所見

Ａ：姫ヶ岱Ａ遺跡

①遺跡の種類

縄文時代前期の小規模な遺跡である。

②遺跡の範囲

町道の下で、東の沢から西の斜面裾部までが遺跡の範囲である。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

縄文時代前期の配石遺構・土坑が検出され、遺物は土器・石器が少量ながら出土すると予想される。

B：姫ヶ岱B遺跡

①遺跡の種類

縄文時代の小規模な遺跡である。

②遺跡の範囲

町道の北側と山裾部の間で開田されて平坦となったやや高い一画が遺跡の範囲である。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

遺構は縄文時代の土坑と柱穴が検出されると予想される。遺物は中央部は削平されて極めて少ないが南側や西側にプライマリーな堆積層があることから、縄文土器・石器が比較的多く出土すると予想される。

C：姫ヶ岱C遺跡

①遺跡の種類

縄文時代中期の配石遺構を伴う集落跡で、遺構の密度から中規模な遺跡と考えられる。

②遺跡の範囲

北・東側の沢や湧水地帯よりやや高い微高地上で、南・西側は微高地の縁辺部までが遺跡の範囲である。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

縄文時代の中期の住居跡や土坑・配石遺構・溝跡・焼土遺構・柱穴が全体的にあまり重複しないが比較的多く検出されると予想される。遺物は縄文土器・石器が比較的多く出土すると予想される。

D：姫ヶ岱D遺跡

①遺跡の種類

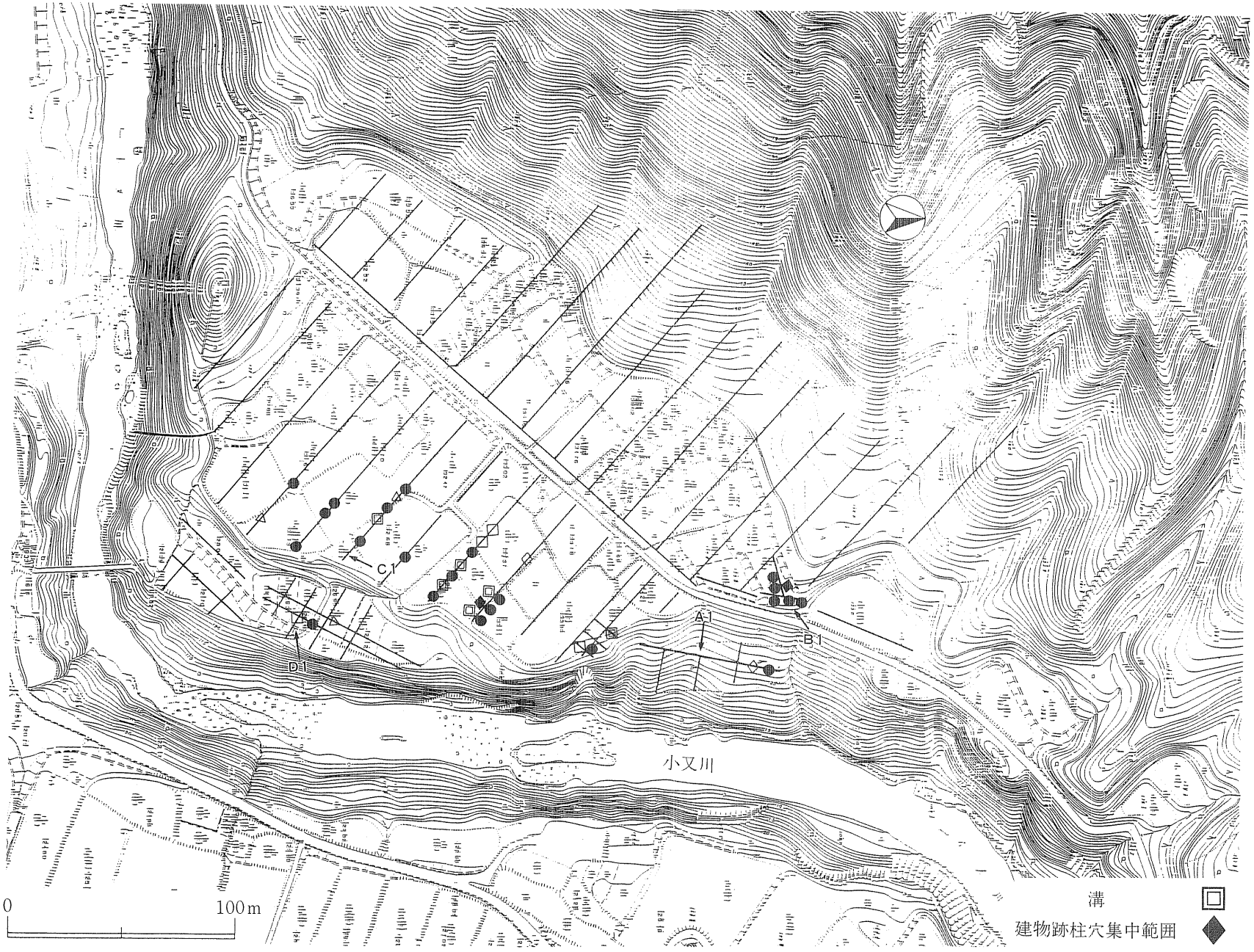
縄文時代中期の集落跡である。

②遺跡の範囲

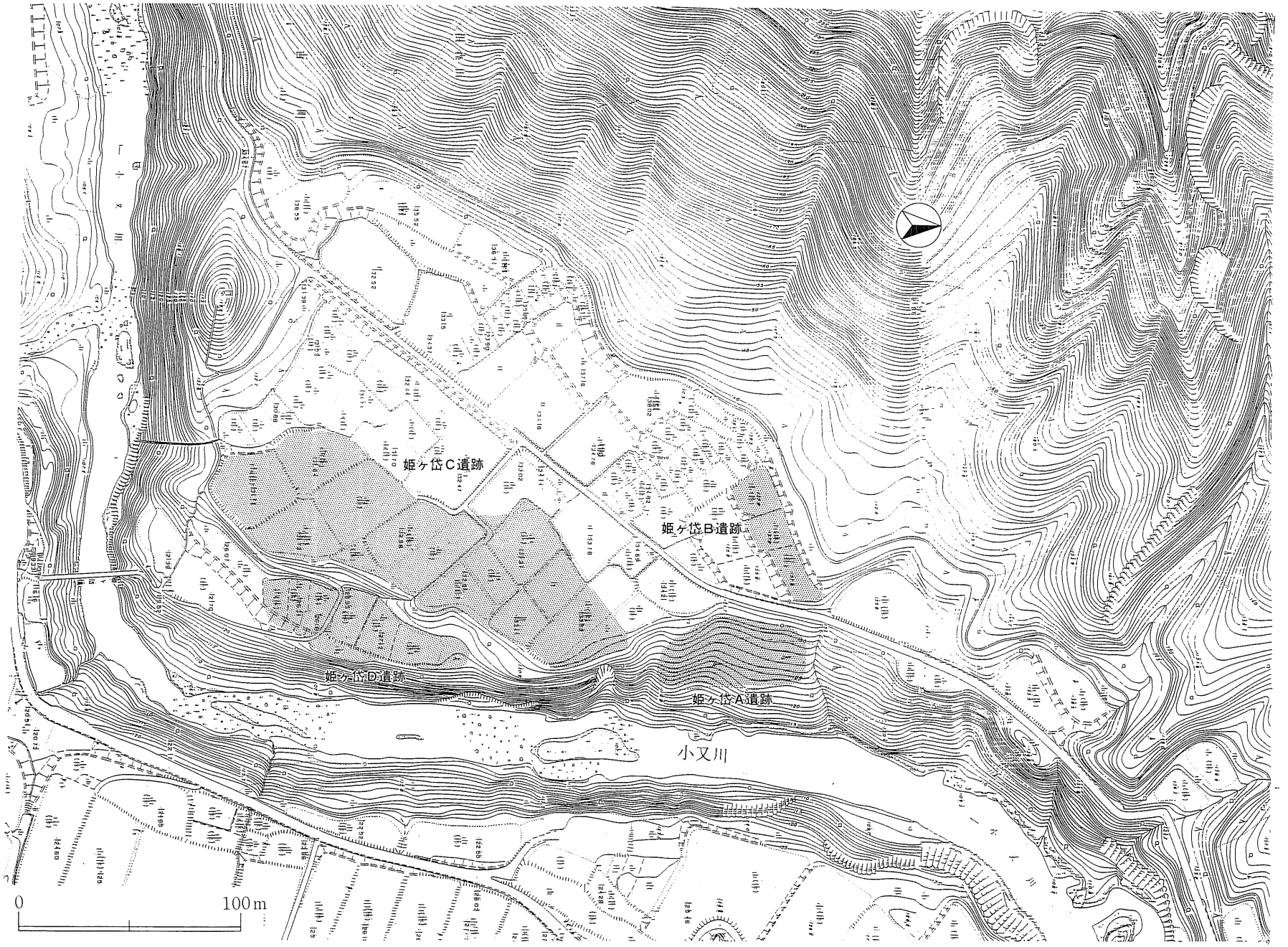
北側の斜面裾部と東の旧沢から南側の台地縁辺部までが遺跡の範囲である。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

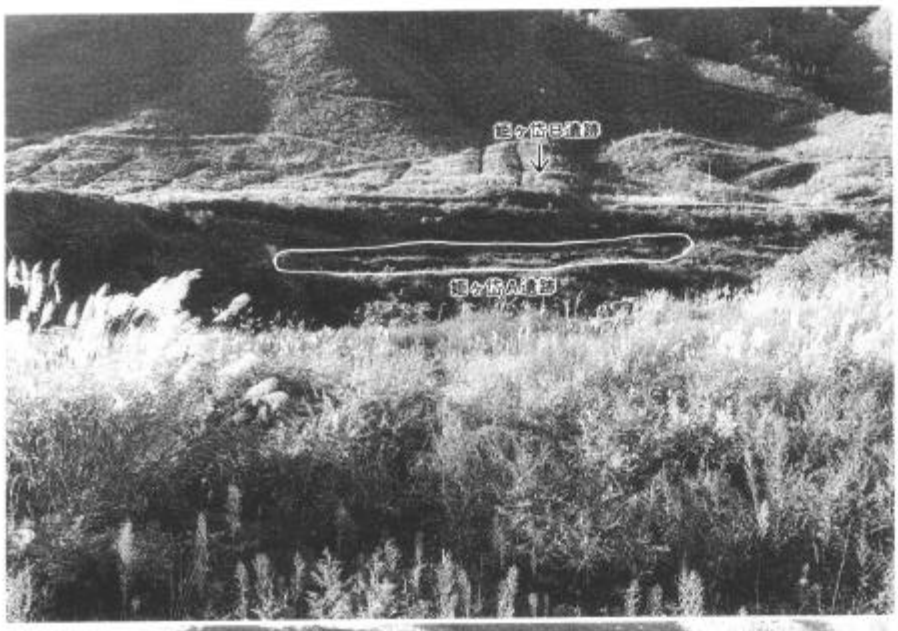
縄文時代中期の住居跡・土坑・焼土遺構・柱穴が検出されると予想される。遺構密度は低く、住居跡の軒数はさほど多くないと思われる。遺物は縄文時代の土器・石器が部分的にある程度まとまって出土すると予想される。



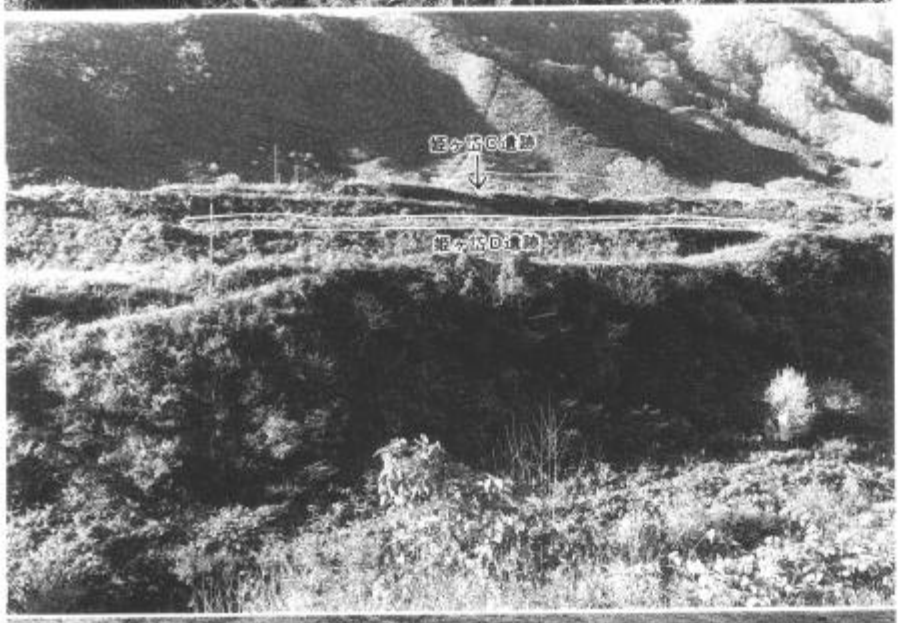
第９図 姫ケ岱地区調査結果図



第10図 姫ケ岱A～D遺跡範囲図



姫ヶ岱Ａ・Ｂ遺跡
遠景（南から）

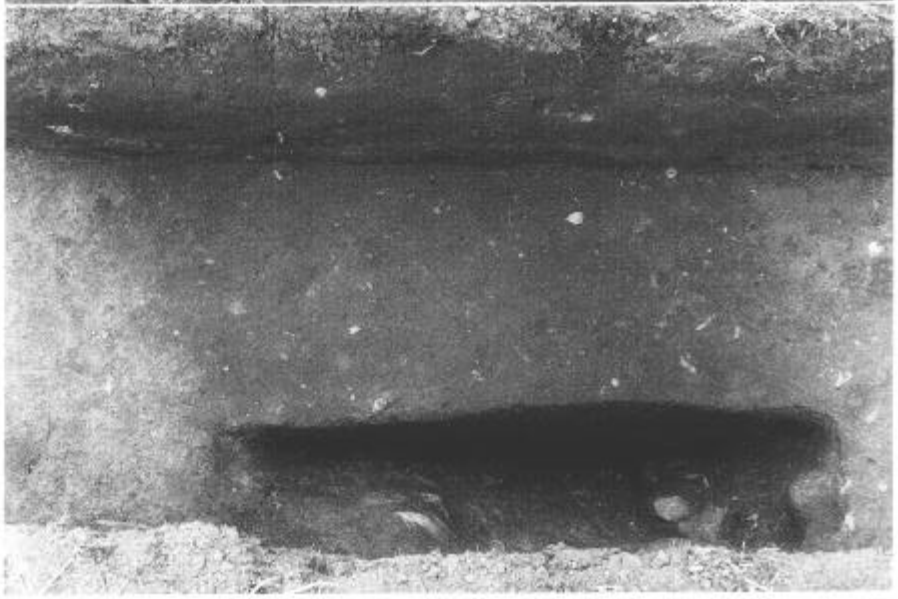


姫ヶ岱Ｃ・Ｄ遺跡
遠景（南から）

姫ヶ岱Ａ遺跡
トレンチ精査状況
（西から）

姫ヶ岱A遺跡　配石
検出状況（南から）

姫ヶ岱B遺跡
トレンチ精査状況
（北から）



姫ヶ岱B遺跡　土坑
検出状況（南から）

姫ヶ岱Ｂ遺跡　土坑
検出状況（北から）

姫ヶ岱Ｃ遺跡
トレンチ精査状況

姫ヶ岱Ｃ遺跡　竪穴
住居跡検出状況
（北から）

姫ヶ岱C遺跡　土坑
検出状況（北から）

姫ヶ岱D遺跡
トレンチ精査状況
（南から）

姫ヶ岱D遺跡　土坑
検出状況（北から）

（４）　橋場岱（はしばたい）Ａ遺跡・橋場岱Ｂ遺跡・橋場岱Ｃ遺跡・橋場岱Ｄ遺跡・橋場岱Ｅ遺跡・橋場岱Ｆ遺跡・橋場岱Ｇ遺跡

１　遺跡所在地

橋場岱Ａ遺跡	秋田県北秋田郡森吉町森吉字橋場岱48,49,50－１　外
橋場岱Ｂ遺跡	秋田県北秋田郡森吉町森吉字橋場岱69,78　外
橋場岱Ｃ遺跡	秋田県北秋田郡森吉町森吉字橋場岱42,62　外
橋場岱Ｄ遺跡	秋田県北秋田郡森吉町森吉字橋場岱110－1
橋場岱Ｅ遺跡	秋田県北秋田郡森吉町森吉字橋場岱109
橋場岱Ｆ遺跡	秋田県北秋田郡森吉町森吉字橋場岱101,103,104
橋場岱Ｇ遺跡	秋田県北秋田郡森吉町森吉字橋場岱６－１,39,40,46

２　範囲確認調査期間　平成８年５月13日～10月25日

３　範囲確認調査面積　73,304㎡

４　工事区域内遺跡面積　橋場岱Ａ遺跡 1,750㎡、橋場岱Ｂ遺跡 7,700㎡、橋場岱Ｃ遺跡 4,400㎡
橋場岱Ｄ遺跡 1,150㎡、橋場岱Ｅ遺跡 1,900㎡、橋場岱Ｆ遺跡 1,400㎡
橋場岱Ｇ遺跡 2,600㎡

５　遺跡の立地と現況

①立地

橋場岱Ａ～Ｇ遺跡は旧様田集落の対岸に位置し、小又川右岸の河岸段丘上で、Ｅ・Ｆ遺跡以外は、標高250ｍの丘陵地の裾部と小又川との間にあり、Ｅ・Ｆ遺跡は裾部のやや上の高位部に立地する。この地区の中ほどを東西に町道が縦断しており、Ａ～Ｄ・Ｇの各遺跡はこの町道の南側に、Ｅ・Ｆ遺跡は北側に位置する。Ａ～Ｃ・Ｇの各遺跡は標高約131～136ｍでＥ・Ｆ遺跡は標高142～155ｍの高位面に、Ｄ遺跡は標高約128ｍの低位面で小又川沿いに立地している。

②現況

Ａ～Ｄ・Ｇの各遺跡は、いずれもかつて水田で、Ｅ・Ｆ遺跡はかつて山林であった。

６　範囲確認調査方法

地形を考慮して任意にトレンチ箇所を設定し、重機により表土を除去した後、遺構確認面もしくは地山面を精査して遺構・遺物の有無を確認していった。

７　範囲確認調査結果

Ａ：橋場岱Ａ遺跡

①層位

遺跡のすぐ北側がかなり撹乱されているため、中央よりも西側では75㎝の盛土があり、西端部では表面に20㎝の砕石が敷かれている。しかし、包含層は残っている。ここでは比較的残りが良い第11図に示したＡ１地点における層位と深さを下に記した。

Ａ１－１層　暗褐色土(20㎝)－表土、２層　黒褐色土(5㎝)、硬くて酸化している。盛土か。３層　黒褐色－包含層、４層　黒褐色土(15㎝)－漸移層、５層　黄褐色－地山

②遺構と遺物

遺構は縄文時代の住居跡・土坑を検出した。遺物は縄文時代中期・後期の土器・石器が広範囲に出土した。なお範囲確認調査はトレンチ総延長が187ｍで、遺跡全体の面積の10.6％を行い、遺物の出土量は中コンテナで土器½箱・石器¼箱である。

Ｂ：橋場岱Ｂ遺跡

①層位

町道の南・北側とも水田造成時における削平・盛土が多く見られる。北側では盛土が厚く最大60cmであるが、遺物包含層は比較的良く残っている。南側は盛土は15～25cmと薄いものの遺物包含層が削平されている所も少なくない。ここでは第11図に示しているように町道の北側をＡ１地点、南側をＡ２地点とし、２地点の層位と深さを下に記した。

Ｂ１－１層　暗褐色土(15cm)－表土・耕作土、２層　暗褐色土(15cm)－盛土、３層　黒褐色土(20cm)－遺物包含層、４層　褐色土－地山

Ｂ２－１層　暗褐色土(10cm)－表土・耕作土、２層　暗褐色土(15cm)－盛土、３層　黒褐色土(10cm)－遺物包含層、４層　褐色土－地山

②遺構と遺物

遺構は縄文時代の土坑・溝跡を検出した。その分布は南側にかたよっている。遺物は縄文時代後期・晩期の土器・石器が出土した。なお、範囲確認調査はトレンチ総延長が478ｍで、遺跡全体の面積の6.2％を行い、遺物の出土量は中コンテナで土器⅓箱・石器¼箱である。

Ｃ：橋場岱Ｃ遺跡

①層位

南側に道路があり、その東・西側で層の堆積状態が異なる。東側では盛土が10～20cmで、西側では15cmほどであるが、道路脇では60cmの地山が盛土されている。ここでは第11図に示しているように東側をＣ１地点、西側をＣ２地点として、２地点の層位と深さを下に記した。

Ｃ１地点－１層　暗土色土(30cm)－表土・耕作土、２層　黒褐色土(20cm)－盛土、３層　暗褐色土(40cm)－遺物包含層、４層　褐色土(10cm)－地山漸移層、５層　黄褐色土－地山

Ｃ２地点－１層　暗褐色土(10cm)－表土、２層　黒褐色土(15cm)－盛土、３層　暗褐色土(25cm)－遺物包含層、４層　褐色土(20cm)－地山漸移層、５層　黄褐色土－地山

②遺構と遺物

縄文時代の配石遺構と土坑を検出した。遺物は縄文時代後期・晩期の土器・石器が出土した。なお範囲確認調査はトレンチ総延長が155ｍで、遺跡全体の面積の3.5％を行い、遺物の出土量は中コンテナで土器1/3箱・石器¼箱である。

Ｄ：橋場岱Ｄ遺跡

①層位

盛土は平均して20cmほどであるが、町道の下付近よりも南側の小又川寄りがやや厚くなる。第11図に示したＤ１地点における層位と深さを下に示した。

Ｄ１－１層　黒褐色土(15cm)－表土・耕作土、２層　黒褐色土(20cm)－盛土、３層　黒褐色土（25cm)－遺物包含層、４層　にぶい黄褐色土(10cm)－地山漸移層、５層　黒褐色土、小礫やや混入－地山

②遺構と遺物

縄文時代の住居跡と土坑・溝跡・小規模な配石遺構を検出した。遺物は縄文時代晩期の土器・石器が出土した。なお範囲確認調査はトレンチ総延長が125ｍで、遺跡全体の面積の10.8％を行い、遺物の出土量は中コンテナで土器¼箱・石器¼箱である。

Ｅ：橋場岱Ｅ遺跡

①層位

本遺跡は北西から南東に向かって下る斜面にあるため、表土から地山までの深さは北西部が浅く、南東部が130cmと深い。また、中央部の東側では表土下に薄い盛土がみられる。ここでは第11図に示したように平均的な層位である中央部東側をＥ１地点、中央部東側をＥ２地点として、２地点の層位と深さを下に記した。

Ｅ１－１層　黒褐色土(20cm)－表土、２層　黒褐色土(20cm)　－遺物包含層、３層　黒褐色土(5cm)－地山漸移層、４層　にぶい黄褐色土－地山

Ｅ２－１層　黒褐色土(20cm)－表土、２層　橙色土(10cm)－盛土、３層　黒褐色土(10cm)　－遺物包含層、４層　にぶい黄褐色土－地山

②遺構と遺物

縄文時代の住居跡と竪穴状遺構・土坑・配石遺構を検出した。遺物は縄文時代の土器・石器が出土した。なお範囲確認調査はトレンチ総延長が250ｍで、遺跡全体の面積の13.1％を行い、遺物の出土量は中コンテナで土器¼箱・石器¼箱である。

Ｆ：橋場岱Ｆ遺跡

①層位

本遺跡は北側から南側に向かって下る斜面にあるため、表土から地山までの深さは、北側が表土下の黒褐色土がなく20cmと浅く、南側では35～50cmと比較的深い。ここでは第11図に示したように、平均的な層位である南～北に設定したトレンチの北寄りをＦ１地点、南端部をＦ２地点として、２地点の層位と深さを下に記した。

Ｆ１－１層　にぶい黄褐色土(10cm)－表土、２層　黒褐色土(15cm)、３層　暗褐色土(10cm)－地山漸移層、４層　褐色土－地山。

Ｆ２－１層　にぶい黄褐色土(10cm)－表土、２層　黒褐色土(14cm)－地山漸移層、３層　褐色土－地山、

②遺構と遺物

遺構は縄文時代の土坑を検出した。遺物は縄文時代晩期の土器・石器が出土した。なお範囲確認調査はトレンチ総延長が80ｍで、遺跡全体の面積の5.7％を行い、遺物の出土量は中コンテナで土器1/4箱・石器1/4箱である。

Ｇ：橋場岱Ｇ遺跡

①層位

本遺跡の東側は水田造成時の盛土が顕著で、厚い所では120cmに達する。中央部では盛土が35cmほどである。遺跡を横断する道路の南側は、小又川に架かる橋の工事中に使われたところで、砕石が30cmほど敷かれている。ここでは道路の北側のほぼ中央部をＧ１地点として第11図に示し層位と深さを下に記した。

Ｇ１－１層　暗褐色土(35cm)－盛土、２層　黒褐色土(20cm)、３層　褐色土(10cm)－地山漸移層、４層黄褐色土－地山

②遺構と遺物

遺構は検出されなかった。遺物は縄文時代後期の土器・石器が出土した。なお範囲確認調査はトレンチ総延長が117ｍで、遺跡全体の面積の4.5％を行い、遺物の出土量は中コンテナで土器¼箱・石器¼箱である。

8　所　見

Ａ：橋場岱Ａ遺跡

①遺跡の種類

縄文時代中期の集落跡である。

②遺跡の範囲

南側は工事による土取りなどのため、比較的広範囲に地山面まで削平され、またその跡に大きな河原石が埋められている。したがって遺跡範囲は、西端が南北に伸びる町道の東側で、東端は町道の交差点付近までの小又川沿いの細長い一画である。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

縄文時代中期の住居跡と土坑が検出されると予想される。遺跡の東側では遺構が検出されてなかったことから、東側にある程度まとまって検出されると思われる。

Ｂ：橋場岱Ｂ遺跡

①遺跡の種類

縄文時代後期・晩期の集落跡である。

②遺跡の範囲

範囲は東西に伸びる町道の南と北に広がっている。北は丘陵の裾部寄りで、南は舌状に張り出した台地の縁辺部からこのすぐ下の沢地までが範囲である。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

縄文時代後期・晩期の土坑と溝跡・柱穴が検出されるものと予想される。町道北の西側と町道南の沢地寄りでは遺構は検出されず遺物のみの出土し、他の地点では遺構・遺物とも量的にはさほど多くはないものの、ほぼ全体に分布しているものと思われる。

Ｃ：橋場岱Ｃ遺跡

①遺跡の種類

縄文時代後期・晩期の配石遺構を伴う集落跡である。

②遺跡の範囲

小又川寄りの南側は土取りのため地山まで削平されているため、範囲から除外した。東側は橋場岱Ｇ遺跡と町道を挟んで隣接し、北側は橋場岱Ｂ遺跡南端の沢で隔てられている。西は小又川にほぼ沿っている。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

縄文時代後期・晩期の配石遺構と土坑が検出されるものと予想される。配石遺構は３本のトレンチで検出され、いずれも南側の小又川寄りにある。土坑は中央部から西側で検出されたことから、それぞれの遺構の分布域は異なるかも知れない。

Ｄ：橋場岱Ｄ遺跡

①遺跡の種類

縄文時代の配石遺構を伴う集落跡である。

②遺跡の範囲

橋場岱地区の南端部で、高位段丘面にある橋場岱Ｅ遺跡の南側の町道を挟んで隣接する低位段丘面全体が遺跡の範囲である。東・西側には沢が入り、南側は小又川に沿っているため、独立した形となっている。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

縄文時代の住居跡や土坑・溝跡・小規模な配石遺構が検出されるものと予想される。北から南側に向かって下る緩斜面で、南側には東西に伸びる自然の落ち込みがあり、北側は沢状地形となっているため遺構・遺物は中央部付近に比較的多く検出されると思われる。

Ｅ：橋場岱Ｅ遺跡

①遺跡の種類

縄文時代の小規模な配石遺構を伴う集落跡である。

②遺跡の範囲

北端は急斜面の裾部で、東・西には大きな沢が入り込んで南側に張り出した舌状台地となっている。この部分が遺跡の範囲である。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

縄文時代の住居跡と、竪穴状遺構・土坑・小規模な配石遺構が検出されるものと予想される。北から南側に向かって下る緩斜面であるが中央部からやや北寄りにかけてやや平坦で遺構が多いことから、この辺でも遺構はまだ検出されるものと思われる。遺物は上記の遺構の多い地点とその下の斜面の間で出土したが、遺構に比較して相対的に出土量は少ないものと予想される。

Ｆ：橋場岱Ｆ遺跡

①遺跡の種類

縄文時代晩期の小規模な遺跡である。

②遺跡の範囲

北端は急斜面の裾部で、東・西側には大きな沢が入り込んで南側に張り出して舌状台地となっている。この部分が遺跡の範囲である。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

縄文時代晩期の土坑が検出されるものと予想される。遺構は緩斜面の中央部から下部にかけて検出数が比較的多く、遺物も同様な傾向であろうと思われる。

Ｇ：橋場岱Ｇ遺跡

①遺跡の種類

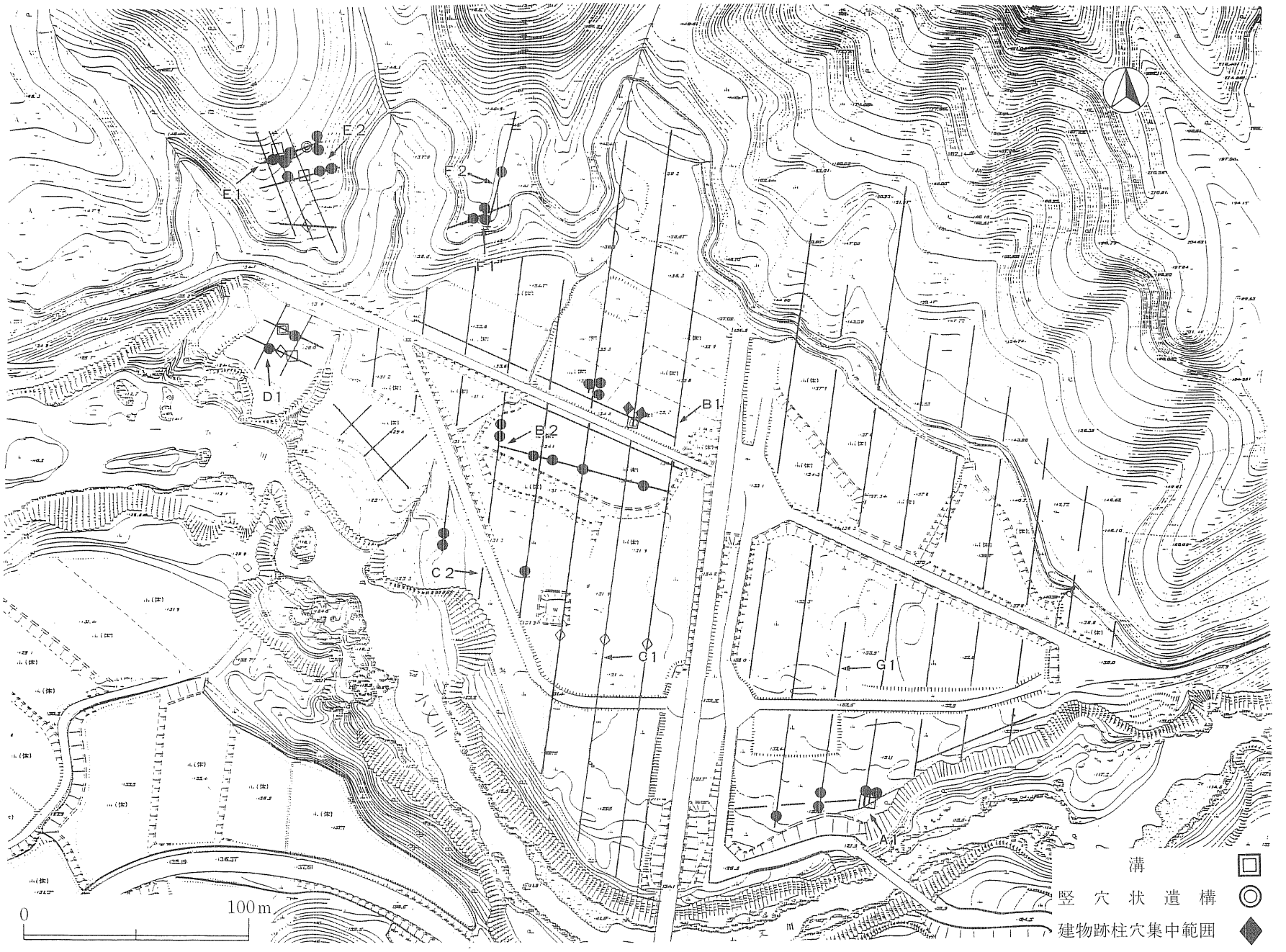
縄文時代後期の遺物包含地である。

②遺跡の範囲

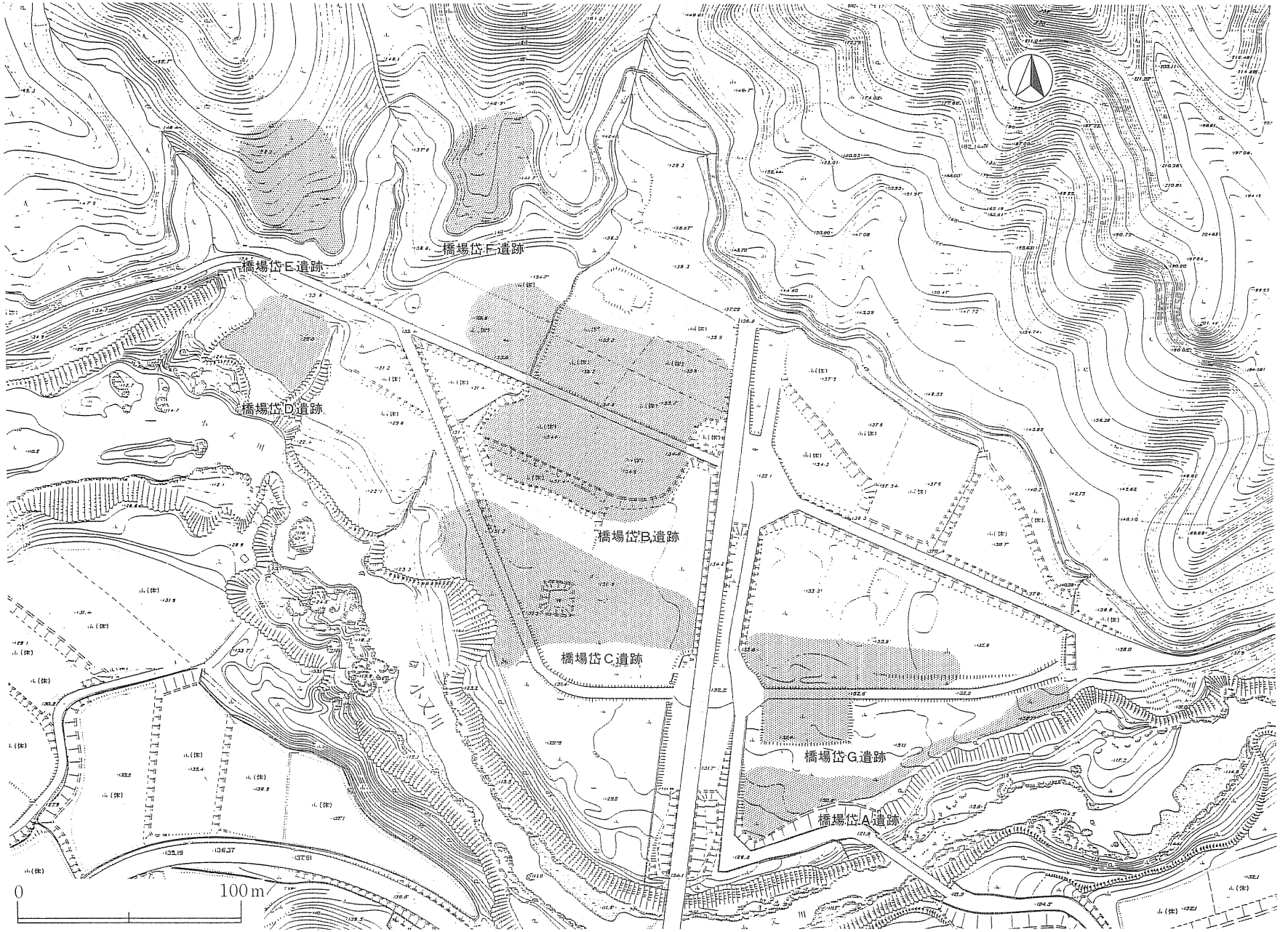
橋場岱Ａ遺跡の北側に隣接し、東西に伸びる町道の南北が範囲である。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

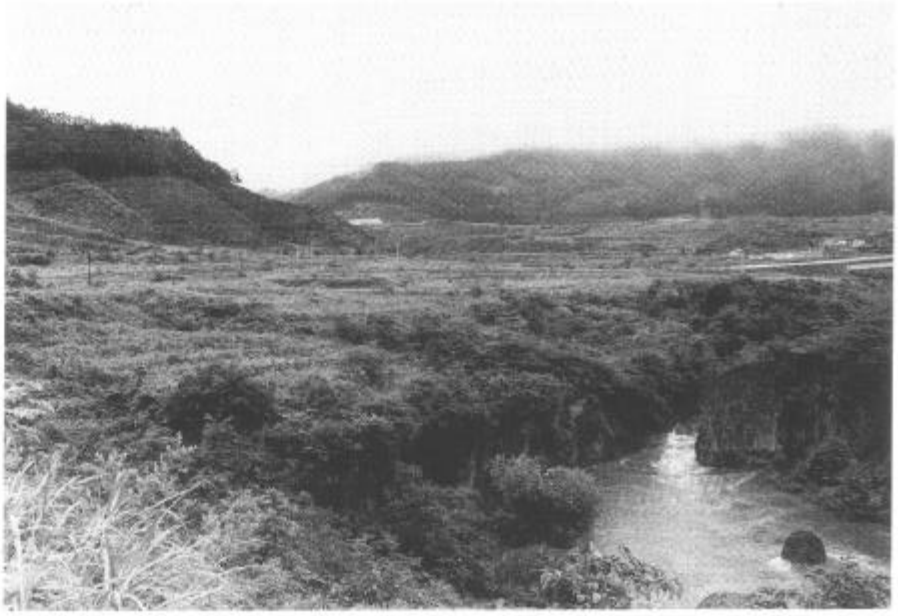
開田による削平などはあったものの基本的な堆積層は残っていることから、ある程度の遺物は出土するものと予想される。



第11図 橋場岱地区調査結果図



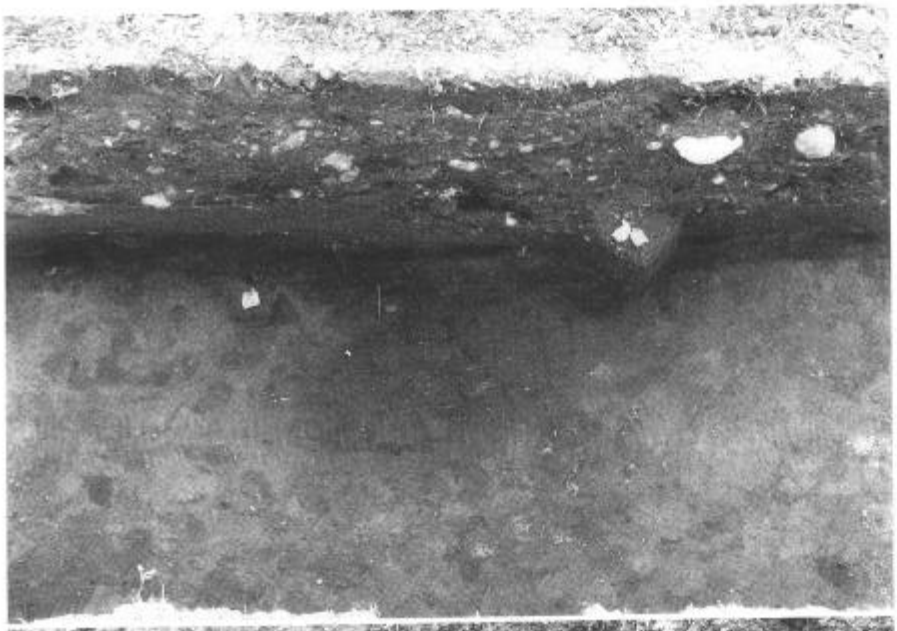
第12図　橋場岱Ａ～Ｇ遺跡範囲図



橋場岱地区
全景（南西から）

橋場岱地区　橋場岱
Ａ～Ｃ・Ｇ遺跡
（北西から）

橋場岱Ａ遺跡
トレンチ精査状況
（西から）



橋場岱Ａ遺跡　土坑
検出状況（北から）

橋場岱Ｂ遺跡　土器
出土状況（東から）

橋場岱Ｃ遺跡
トレンチ精査状況
（北から）

橋場岱C遺跡
トレンチ精査状況
（北から）

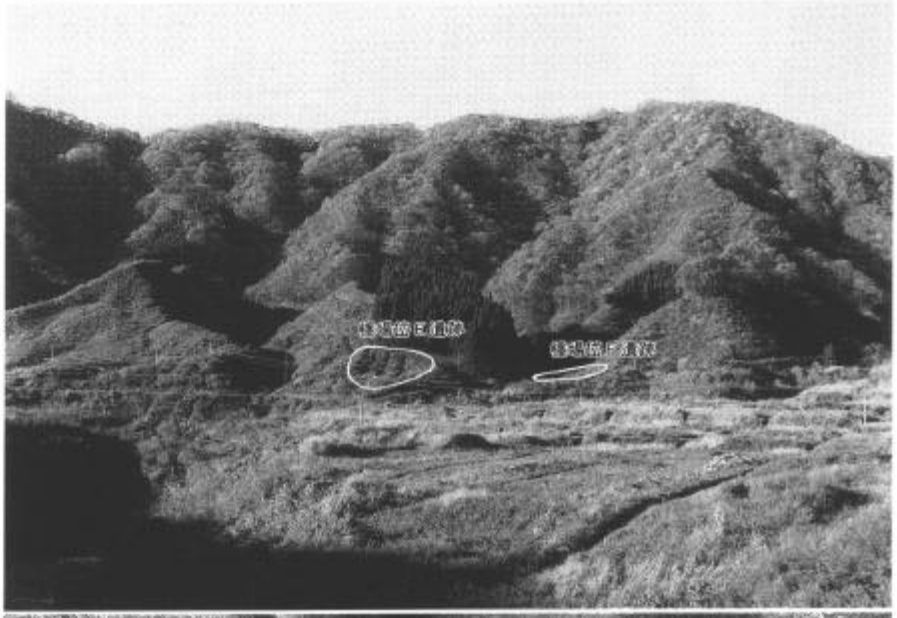
橋場岱C遺跡　配石
遺構検出（南から）

橋場岱C遺跡
配石遺構検出状況
（東から）

橋場岱Ｄ遺跡
近景（調査後）
（北西から）

橋場岱Ｄ遺跡　土坑
検出状況（東から）

橋場岱Ｄ遺跡
土器一括出土状況
（東から）



橋場岱E・F遺跡
遠景（南から）

橋場岱E遺跡
配石遺構検出状況
（東から）

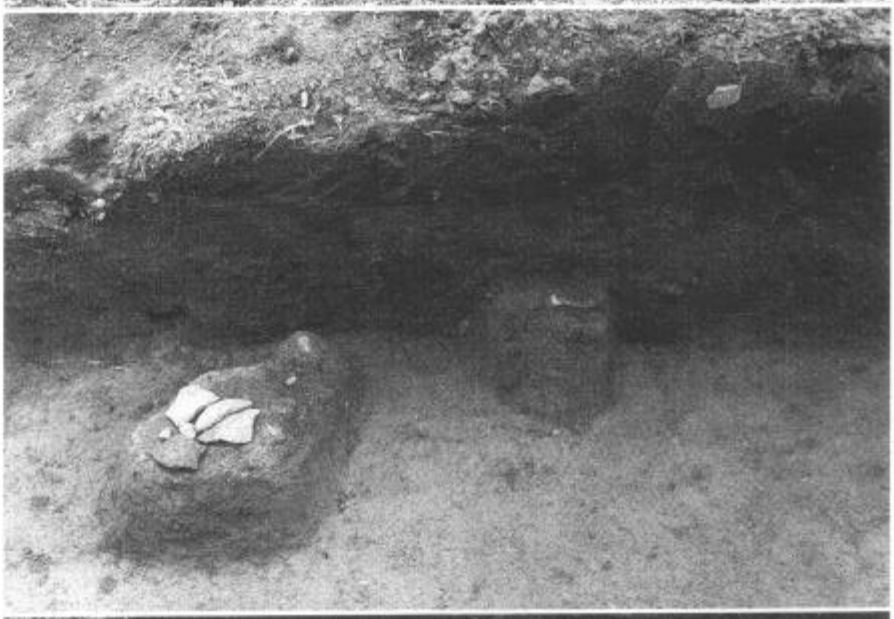
橋場岱E遺跡　土坑
検出状況（西から）

橋場岱Ｆ遺跡
遠景（西から）

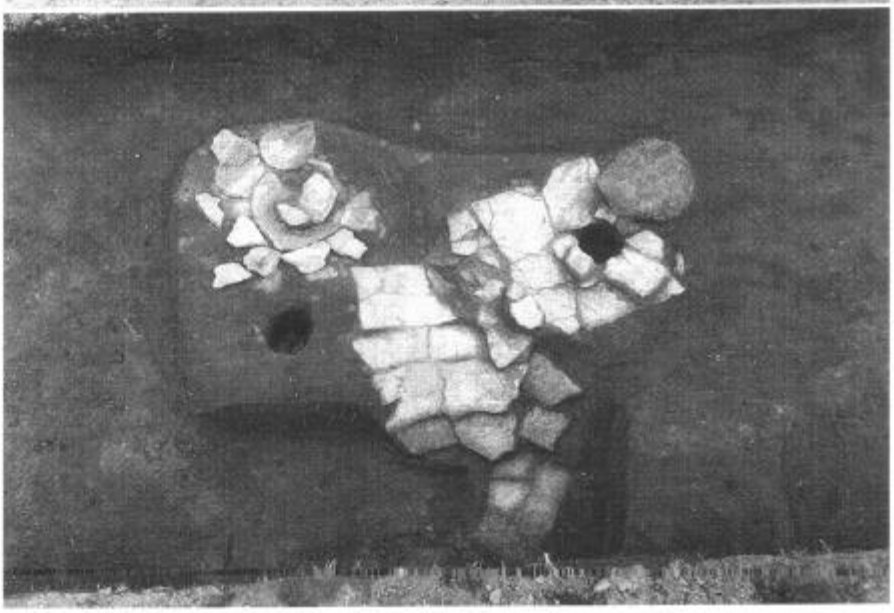
橋場岱Ｆ遺跡
トレンチ 精査状況
（南から）

橋場岱Ｆ遺跡
焼土遺構検出状況
（南から）

橋場岱F遺跡　土坑
検出状況（南から）



橋場岱G遺跡　土器
出土状況（南から）



橋場岱G遺跡　土器
出土状況（東から）

（５）向様田（むかいさまだ）Ａ遺跡・向様田Ｂ遺跡・向様田Ｃ遺跡・向様田Ｄ遺跡・向様田Ｅ遺跡・向様田Ｆ遺跡

１　遺跡所在地

向様田Ａ遺跡　秋田県北秋田郡森吉町森吉字向様田家ノ下モ８，９－１・２，11,16,81,81－１、82,83,84

向様田Ｂ遺跡　秋田県北秋田郡森吉町森吉字向様田家ノ下モ67－１・２，70,71－１，72,74,75 外

向様田Ｃ遺跡　秋田県北秋田郡森吉町森吉字向様田家ノ下モ76,77,78,79

向様田Ｄ遺跡　秋田県北秋田郡森吉町森吉字向様田家ノ下モ14－１，17,18,19－１，20

向様田Ｅ遺跡　秋田県北秋田郡森吉町森吉字向様田家ノ下モ36,37,39,63,64

向様田Ｆ遺跡　秋田県北秋田郡森吉町森吉字向様田家ノ下モ58,59　外

２　範囲確認調査期間　平成８年５月13日～10月25日

３　範囲確認調査面積　63,934㎡（末調査部分23,000㎡－３地点－を除く）

４　工事区域内遺跡面積　向様田Ａ遺跡 7,600㎡、向様田Ｂ遺跡 5,400㎡、向様田Ｃ遺跡 1,100㎡
向様田Ｄ遺跡 2,800㎡、向様田Ｅ遺跡 4,200㎡、向様田Ｆ遺跡 2,700㎡

５　遺跡の立地と現況

①立地

向様田Ａ～Ｆ遺跡は小又川右岸の段丘上で、向様田Ｅ遺跡以外は、標高356～400ｍの丘陵地裾部と小又川との間にあり、Ｅ遺跡は裾部のやや上の高位部に立地する。この地区の中ほどを町道が縦断しており、Ｅ遺跡以外は町道の南側に位置する。Ａ～Ｄ・Ｆの各遺跡は標高133.0～138.5ｍで、北東から南東に向かってわずかずつ下る。Ｅ遺跡は標高145.0～159.3ｍで、北東から南西に向かって下る緩斜面上にある。Ａ～Ｄ・Ｆ遺跡の南端は段丘の縁辺部に当たり、小又川に沿う形となっている。

②現況

Ａ～Ｄ・Ｆ遺跡はかつて水田であった。Ｅ遺跡は畑として耕作された後、山林となっていたが既に木は伐採されている。

６　範囲確認調査方法

地形を考慮して任意にトレンチ箇所を設定し、重機により表土を除去した後、遺構確認面もしくは地山面を精査して遺物・遺構の有無を確認していった。

７　範囲確認調査結果

Ａ：向様田Ａ遺跡

①層位

Ａ遺跡は東西に約170ｍと細長く、東側の北半・南半部と西側では土層の堆積状態が異なる。ここでは生活用具廃棄場所を確認した東側の北半・南半部をそれぞれＡ１地点・Ａ２地点、西側の配石遺構を確認した地点をＡ３地点として第13図に示し、３箇所の層位と深さを下に記した。

Ａ１－１層　にぶい黄褐色土(30㎝)－表土・耕作土、２層　黒褐色土(15㎝)－盛土、３層　黒褐色土(20㎝)－部分的に酸化している、４層　黒褐色土(25㎝)－遺物包含層、５層　オリーブ黒色粘土－グライ化した地山

Ａ２－１層　暗褐色土(15㎝)－表土・耕作土、２層　黒褐色土(20㎝)－遺物包含層、３層　暗褐色土(10㎝)

ー地山漸移層、４層　暗赤褐色土ー地山

Ａ３－１層　黒褐色土(20cm)ー盛土、２層　黒褐色土(15cm)ー旧表土か、３層　黒褐色土(40cm)ー下部が配石遺構検出面、４層　黒褐色土ー地山漸移層

②遺構と遺物

縄文時代の土坑と配石遺構を検出した。遺物は縄文時代晩期の土器・石器が出土した。特に東側２ヶ所で遺物が集中しており生活用具廃棄場所と考えられる。なお範囲確認調査はトレンチ総延長が648ｍで、遺跡全体の面積の8.5％で、遺物の出土量は中コンテナで土器が３箱、石器が２箱である。

Ｂ：向様田Ｂ遺跡

①層位

北端部は沢状地形となっておりやや深いが、それ以外は下に記したＢ１地点とほぼ同じような層位と深さである。第13図に示したＢ１地点の層位と深さを下に記した。

Ｂ１－１層　黒褐色土(10cm)ー表土・耕作土、２層　黒褐色土(15cm)、３層　にぶい黄褐色土(10cm)ー地山漸移層、４層　褐色土ー地山

②遺構と遺物

遺構は、縄文時代の住居跡と土坑・溝跡・小規模な配石遺構を検出した。遺物は縄文時代後期・晩期の土器・石器が出土した。なお範囲確認調査はトレンチ総延長が468ｍ、遺跡全体の面積の8.7％で、遺物の出土量は中コンテナで土器が¼箱、石器が¼箱である。

Ｃ：向様田Ｃ遺跡

①層位

第13図に示したほぼ遺跡の中央部のＣ１地点における層位と深さを下に記した。

Ｃ１－１層　黒褐色土(20cm)ー表土、２層　褐色土ー地山漸移層、３層　黄褐色砂層（地山）

②遺構と遺物

遺構は縄文時代の土坑を検出した。遺物は縄文時代の土器が出土した。なお範囲確認調査はトレンチ総延長が95ｍ、遺跡全体の面積の8.6％で、遺物の出土量は土器が中コンテナで¼箱である。

Ｄ：向様田Ｄ遺跡

①層位

やや高い面とその下の面で生活用具廃棄場所が確認されているので、第13図に示したように、ここでは前者はその範囲内、後者はその近くの土層と層位を下に記した。

Ｄ１－１層　にぶい黄褐色土(25cm)ー表土・耕作土、２層　黒褐色土(15cm)ー盛土、３層　黒色土(15cm)ー遺物包含層、４層　オリーブ黒色粘土ー地山

Ｄ２－１層　にぶい黄褐色土(25cm)ー表土・耕作土、２層　黒色土(20cm)ー遺物包含層、３層　暗褐色土(15cm)ー地山漸移層、４層　オリーブ黒色粘土ー地山

②遺構と遺物

縄文時代晩期の土器・石器が２箇所から多量に出土した(写真72～76)。なお、範囲確認調査はトレンチ総延長が188ｍで、遺跡全体の面積の6.7％で、遺物の出土量は中コンテナで土器が２箱、石器が１箱である。

Ｅ：向様田Ｅ遺跡

①層位

北東から南西に向かって下る斜面で土が流失したせいか、表土から地山までは浅く、斜面上部では表土が

15～20cmでその下がすぐ地山となる。ここでは第13図に示した、斜面下部で住居跡に近く、本来的な堆積状況と思われるＥ１地点の層位と深さを下に記した。

Ｅ１－１層　暗褐色土(15cm)－表土・耕作土、２層　暗褐色土(30cm)、３層　暗褐色土(5cm)－地山漸移層、４層　赤褐色粘土－地山

②遺構と遺物

遺構は住居跡や土坑・溝跡・柱穴を検出した。遺物は縄文時代前期の土器・石器が出土した。なお範囲確認調査はトレンチ総延長が276ｍで、遺跡全体の面積の6.6％で、遺物の出土量は中コンテナで土器が¼箱、石器が¼箱である。

Ｆ：向様田Ｆ遺跡

①層位

全体的に水田造成時の削平や盛土がみられる。東側は削平されており、表土の下はすぐ地山で深さは20cmである。南西端の肩部では40cmの盛土がある。ここでは第13図に示した西側の溝跡付近をＦ１地点として、層位と深さを下に記した。

Ｆ１－１層　暗褐色土(15cm)－表土・耕作土、２層　褐色土(15cm)－盛土、３層　黄褐色粘土－地山

②遺構と遺物

遺構は縄文時代の住居跡と溝跡を検出した。遺物は縄文時代後期の土器・石器が住居跡周辺を中心にやや出土した。なおトレンチ総延長が128m、遺跡全体の4.7％で、遺物の出土量は中コンテナで土器が¼箱、石器が¼箱である。

８　所　見

Ａ：向様田Ａ遺跡

①遺跡の種類

縄文時代の配石遺構と土坑が検出され、縄文時代晩期の集落跡も想定される。

②遺跡の範囲

東端は向様田地区の中央を南北に横断する町道に接し、南は小又川に沿う微高地一帯が範囲である。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

遺構は縄文時代晩期の土坑と配石遺構が検出された。遺物は、特に東半分に、縄文時代晩期の生活用具廃棄場所があり完形土器や石器などが多量に出土するものと予想される。また生活用具廃棄場所付近に住居跡の存在する可能性もある。

Ｂ：向様田Ｂ遺跡

①遺跡の種類

縄文時代後期・晩期の配石遺構を伴う集落跡と予想される。

②遺跡の範囲

西端は向様田地区の中央を南北に横断する町道に接し、南端は小又川寄りの台地縁辺部にあたる。北側は地山まで掘り下げたところ、開田前は沢状地形を呈していることがわかり、北側の範囲を沢状地形の境までの範囲とした。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

遺構は縄文時代後期の住居跡と土坑・溝跡・小規模な配石遺構が検出され、遺物は量的には少ないものと予想される。

Ｃ：向様田Ｃ遺跡

①遺跡の種類

縄文時代後期・晩期の小規模な遺跡と予想される。

②遺跡の範囲

向様田Ｂ遺跡の南側下部の狭い低位面に立地し、西端は向様田地区の中央を南北に横断する町道に接し、南側～東側は小又川に沿った台地縁辺部までが範囲である。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

遺構は縄文時代後期・晩期の土坑が検出され、遺物は少量ながら土器・石器が出土するものと予想される。

Ｄ：向様田Ｄ遺跡

①遺跡の種類

縄文時代晩期の遺物包含地である。

②遺跡の範囲

遺跡の北側は東西に伸びる町道と接し、東側は隣接するＡ遺跡との間にある開田前に沢であった低地で画され、南側は小又川に沿った台地縁辺部までが範囲である。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

縄文時代晩期の生活用具廃棄場所が２箇所で検出されたので、多くの土器・石器などが出土するものと予想される。

Ｅ：向様田Ｅ遺跡

①遺跡の種類

縄文時代前期の集落跡である。

②遺跡の範囲

南北に伸びる町道の北側にある高位部で、細長く馬の背状に伸びた丘陵面が遺跡の範囲である。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

遺構は縄文時代晩期の住居跡と土坑・溝跡・柱穴などが検出され、遺物は土器・石器などが出土するものと予想される。遺構は斜面の上下におおきく分かれ、中央部は希薄である。

Ｆ：向様田Ｆ遺跡

①遺跡の種類

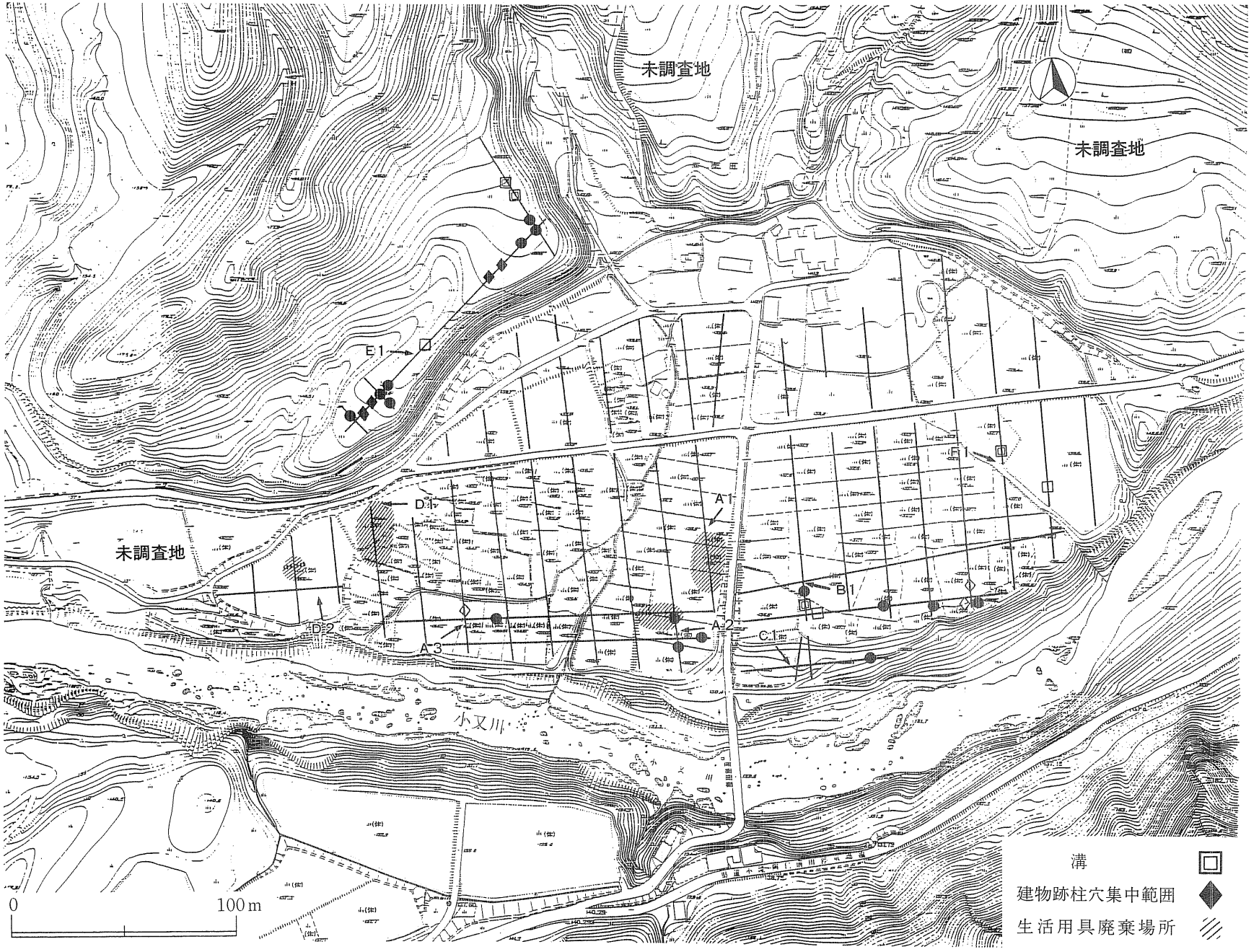
縄文時代後期の集落跡である。

②遺跡の範囲

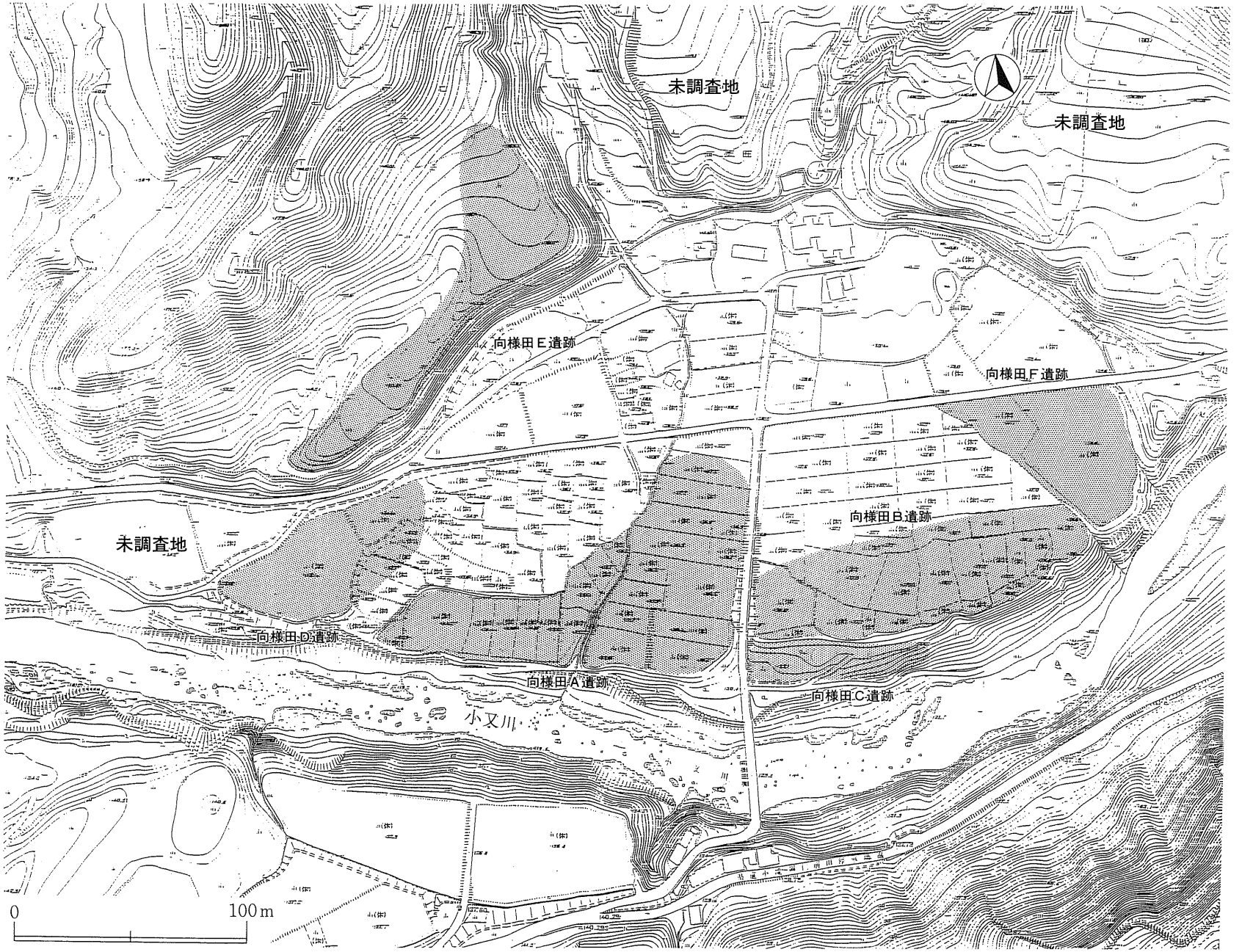
北側は南北に伸びる町道に接し、東側は小高い丘陵の裾部にあたり、南側は小又川に沿った台地縁辺部までの微高地面が遺跡の範囲である。

③発掘調査時に予想される遺構・遺物

遺構は縄文時代後期の住居跡や溝跡などが検出されるものと予想される。遺物は、削平されて盛土された層からも出土しているが、それほど量は多くないと思われる。



第13図　向様田地区調査結果図



第14図 向様田Ａ～Ｆ遺跡範囲図

向様田地区　西半分
遠景（南から）

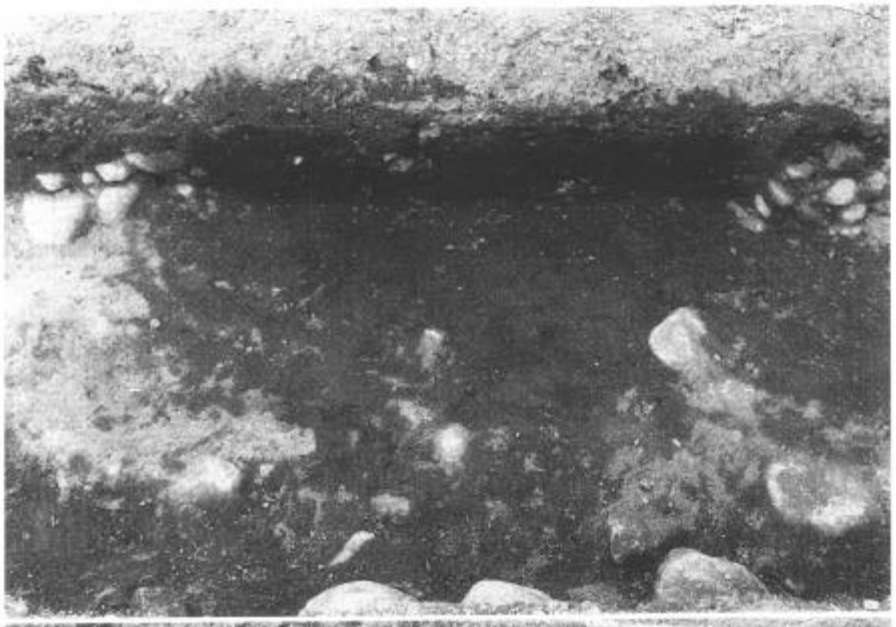
向様田Ａ遺跡
近景（北西から）

向様田Ａ遺跡　トレンチ
精査状況（西から）

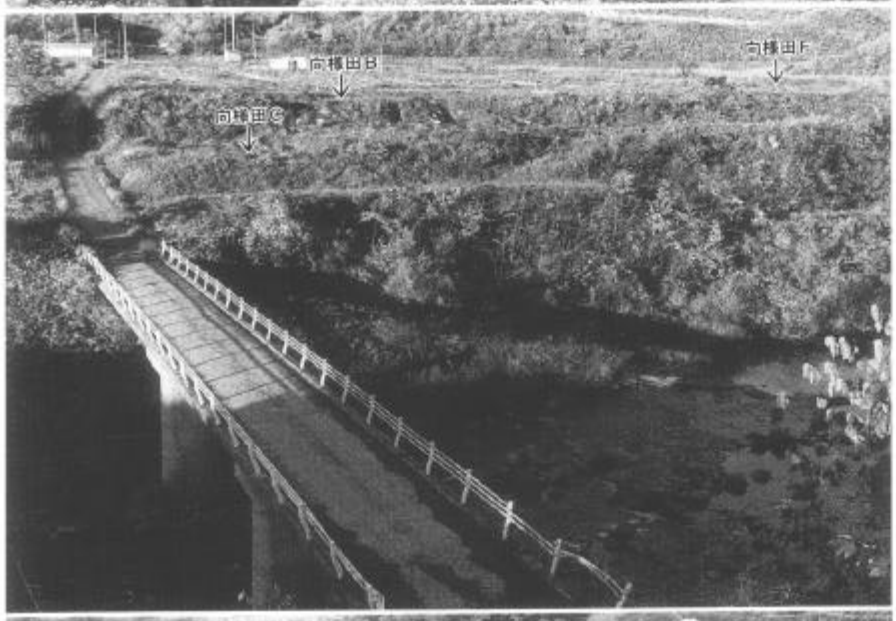
向様田A遺跡　土器
出土状況（西から）

向様田A遺跡　土器
出土状況（西から）

向様田A遺跡
配石遺構検出状況
（北から）



向様田Ａ遺跡　土坑
検出状況（南から）

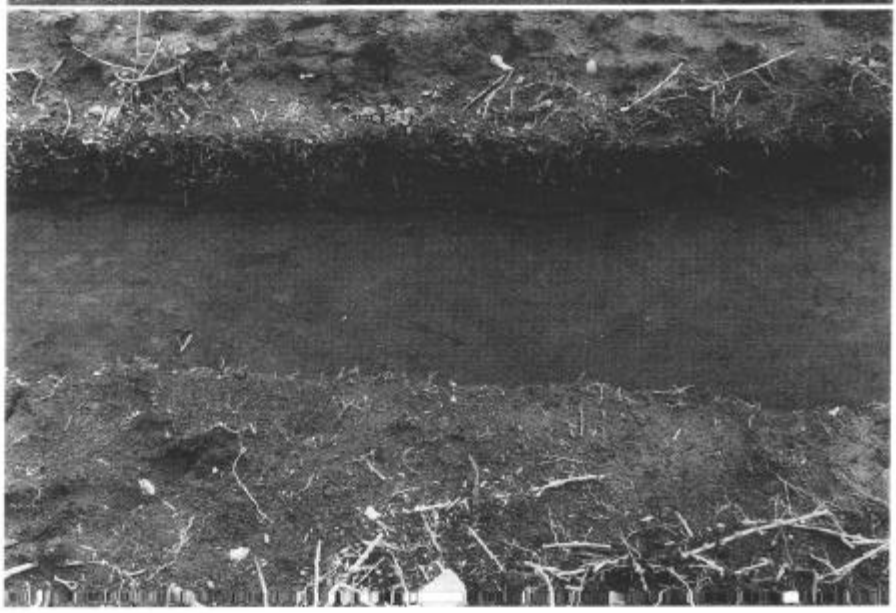


向様田Ｂ・Ｃ・Ｆ遺跡
遠景（南から）

向様田Ｂ遺跡
配石（土坑）検出状況
（東から）

向様田B遺跡　住居跡
検出状況（西から）

向様田C遺跡
トレンチ調査状況
（西から）



向様田C遺跡　土坑
検出状況（南から）

向様田D遺跡　調査前
状況（南東から）

向様田D遺跡
近景（北東から）

向様田D遺跡　遺物
出土状況（南から）

向様田D遺跡　遺物
出土状況（北から）

向様田D遺跡　土器
出土状況（東から）

向様田D遺跡
土器出土状況

向様田Ｄ遺跡
土器出土状況

向様田Ｄ遺跡土層断面
（生活用具廃棄場所）
（東から）

向様田Ｅ遺跡
トレンチ精査状況
（南から）

向様田E遺跡
調査状況（南から）

向様田E遺跡
住居跡検出状況

向様田F遺跡
遠景（南から）

2　日本海沿岸東北自動車道象潟秋田線建設事業

(1) 上野(うえの)遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県河辺郡河辺町戸島字上野119-3外

2　範囲確認調査期間　　平成8年11月11日～12月4日

3　範囲確認調査対象面積　11,000㎡

4　工事区域内遺跡面積　　3,500㎡

5　遺跡の立地と現況

(1)立地

上野遺跡はＪＲ奥羽本線和田駅から南西2.4km、戸島集落から南へ0.5kmほどの台地上にある。遺跡の立地する台地は出羽丘陵の西端部に当たり、標高40～45ｍの平坦な河岸段丘面で上野台と呼ばれている。遺跡はこの上野台東端部の標高42ｍ前後の平坦地に立地し、北側は比高差25ｍほどで水田面にいたる急崖となっており、東側には段丘面を開析する大きな沢が入り込んでいる。

遺跡の北1kmほどには岩見川が西流し、右岸には旧石器時代からの多くの遺跡が調査された御所野台地が広がっており、また上野台の西側に繋がる七曲台でも旧石器時代から弥生時代の遺跡群がある。さらに遺跡の真南0.8kmには平成元年に調査された縄文時代早期から中世の遺跡とされる上祭沢遺跡が存在する。

(2)現況

遺跡の現況は、ほぼ全域が畑地として耕作されており、東端部に草地と杉林がわずかに残っている。

6　調査の方法

道路中心杭と幅杭を基準として対象範囲内の地形も考慮した幅１ｍのトレンチを設定して、遺構・遺物の有無を確認した。実質調査面積は1,240㎡で対象面積の11.2％である。

7　範囲確認調査の結果

(1)層序

東端部を除く畑地では、耕作土の下は黄褐色の地山であり遺物、遺構とも検出できなかった。この地域では層厚に差があるものの地山上に漸移層も認められなかったことから、畑造成時に地山も含めて削平されたものと考えられる。

草地と杉林のある東端部では、Ⅰ層黒褐色土(表土25cm)、Ⅱ層暗褐色土(20cm)、Ⅲ層黄褐色土(地山)の層序が確認できた。このうちⅡ層は縄文時代(後・晩期)と平安時代の遺物包含層であり、また検出遺構の一部の掘り込み面であることも確認した。その他検出遺構の多くはⅢ層上面が確認面である。

(2)検出遺構と遺物

検出した遺構には、縄文時代後期・晩期と考えられる土坑や住居と柱穴様のピットのほか石囲炉がある。

遺物では縄文時代後期・晩期の深鉢形土器や鉢形土器の破片の他、同時期の石器、また平安時代の回転糸切りの底部を有する土師器坏などが出土している。

8　所見

(1)遺跡の種類

遺跡は、検出遺構と遺物から縄文時代後期及び晩期と平安時代の集落の存在が予測される複合遺跡である。

(2)遺跡の範囲と工事区域

遺跡の範囲は、台地北東端部から西側と南側に広がるものと考えられる。この遺跡範囲のうち工事区域は遺跡の中央部から南側の地域を東西に横断するものである。

(3)発掘調査時に予想される遺構・遺物

遺構では縄文時代後期・晩期と平安時代の土坑や竪穴住居跡が、遺物では当該期の土器・石器などが検出されるものと予想される。

(2) 井戸尻台Ⅰ遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県河辺郡河辺町戸島字井戸尻台49外

2　範囲確認調査期間　　平成８年11月11日～12月４日

3　範囲確認調査対象面積　3,500㎡

4　工事区域内遺跡面積　　3,400㎡

5　遺跡の立地と現況

(1)立地

井戸尻台Ⅰ遺跡は、ＪＲ奥羽本線和田駅から直線距離で南西約２㎞、河辺町戸島から七曲工業団地に向かう県道の右手にみえる台地上にある。遺跡ののる台地は、岩見川左岸に形成された河岸段丘群のうち低位の七曲台面で、遺跡の標高は37～38ｍである。遺跡の北側は、岩見川左岸の河岸段丘を南東－北西方向に開析する白熊沢に面する。東西は南－北方向の小沢によって区切られており、北に向かって張り出す舌状地形となっている。北側の白熊沢に面する段丘崖は急峻で、段丘下の沖積面との比高は約21ｍである。

(2)現況

工事区域内遺跡範囲のうち、西側約４分の１は杉林（胸高直径10～20㎝）、他は荒地で萱が繁茂する。また、松、栗の立木（胸高直径５～10㎝）が散在する。立木は未伐採である。

6　範囲確認調査の方法

道路中心杭と幅杭を基準にして設定した幅１ｍのトレンチ調査により遺物の有無、地山面における遺構の存在を確認した。試掘した総面積は417.5ｍで、調査対象面積の約11.9％に当たる。

7　範囲確認調査の結果

(1)層序

Ⅰ層：表土・黒褐色土（５～30㎝）、Ⅱ層：黒褐色土（10～15㎝）、Ⅲ層：褐色土（５～15㎝）、Ⅳ層：地山漸移層（５～10㎝）、Ⅴ層：地山・黄褐色土である。地山上面までの土厚は、中央部が最も厚く50～60㎝、東側は35～45㎝、西側は30～40㎝である。

Ⅱ層は調査地中央部に堆積し、調査地西側の杉林内と、東端部付近では認められない。Ⅲ層は調査地全体に堆積するが、特に中央部では厚く、明瞭である。北西の張り出し部では不明瞭となり、存在しない部分もある。遺構はⅢ層上面で、黒褐色土の不明瞭なシミ状のプランとして確認されるが、Ⅳ層上面まで掘り下げないと判然としないものが多い。また、Ⅲ層上面で確認される遺構でも、掘り込みが浅いものはⅤ層上面まで下げると消滅してしまう恐れがある。遺物はⅠ層、Ⅱ層、Ⅲ層から出土した。特にⅡ層、Ⅲ層が本来の遺物包含層である。

(2)検出遺構と遺物

竪穴住居跡５棟、土坑12基、焼土遺構１基、土器埋設遺構１基を検出した。縄文時代中期後葉（大木10式期）、晩期後葉（大洞Ａ式期）の土器、後期～晩期の粗製土器、石器類が合計コンテナ１箱分出土した。竪穴住居跡は伴出土器から晩期後葉のものと、中期後葉のものがある。土坑は後期または晩期の粗製土器が伴出したものが１基あった。

8　所見

(1)遺跡の種類

縄文時代中期後葉の集落跡、縄文時代晩期後葉の集落跡、及び縄文時代後期～晩期の貯蔵穴群もしくは墓坑群が複合する遺跡である。

(2)遺跡の範囲と工事区域

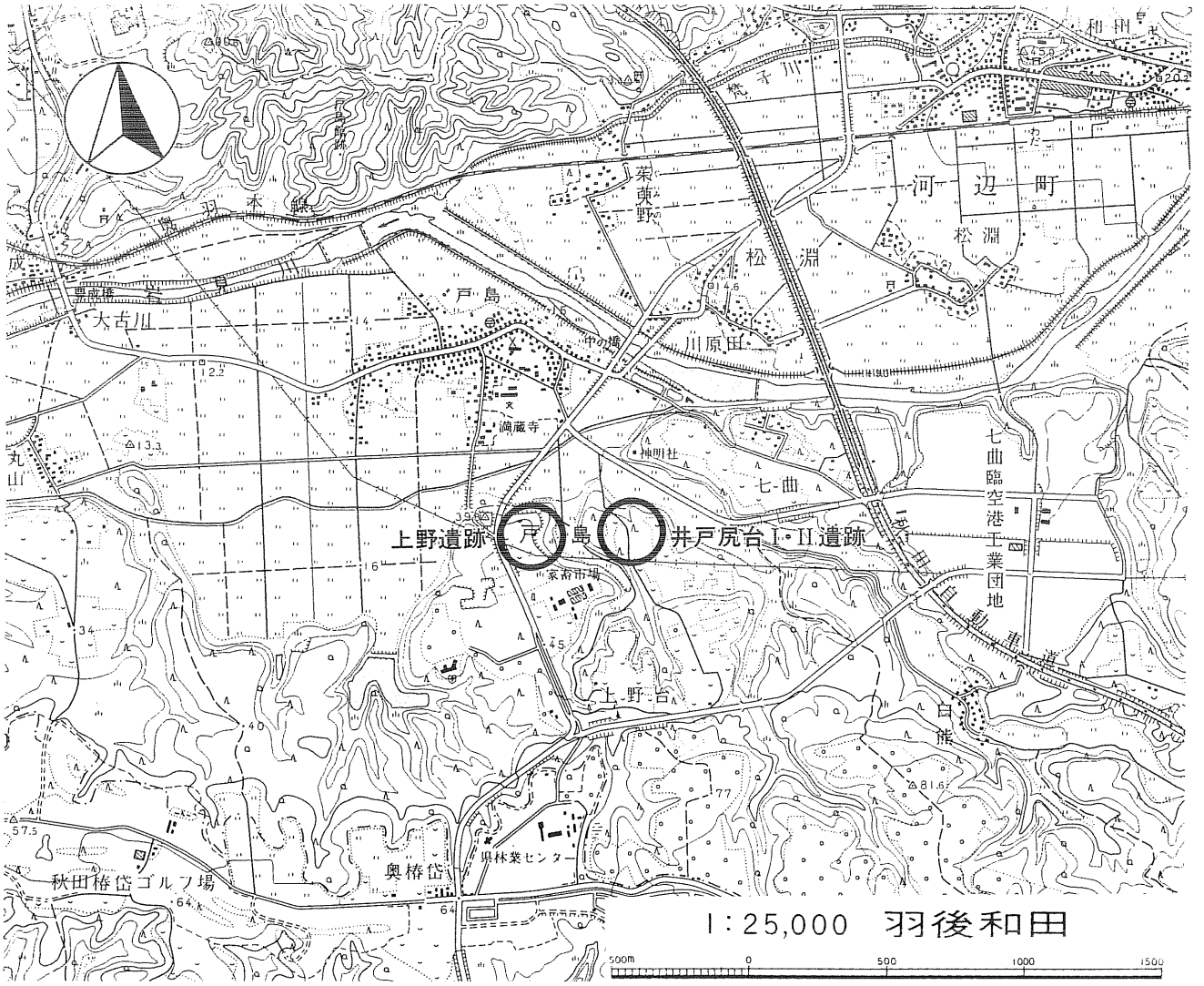
遺跡範囲は舌状台地全体と推定される。工事計画は、遺跡範囲の北側約半分に及んでいる。

(3)発掘調査時に予想される遺構・遺物

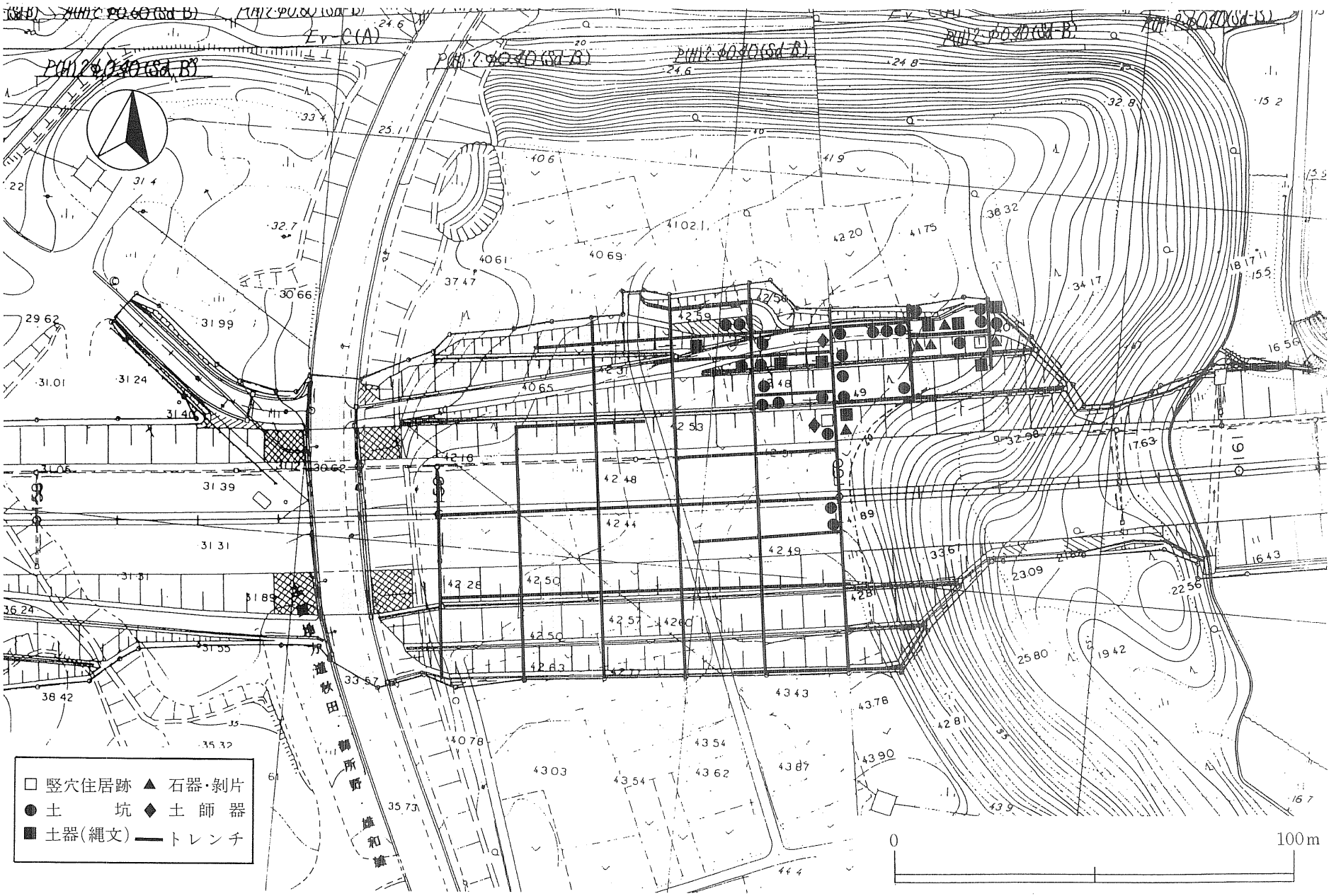
竪穴住居跡は合計15～20棟、土坑は40～50基程度検出されるものと予想される。特に、調査地の中央部から北西の張り出し部にかけての範囲では、遺構の密度が高くて遺物も多く、西端部と東端部は遺構・遺物とも散在する程度であると思われる。

9　その他

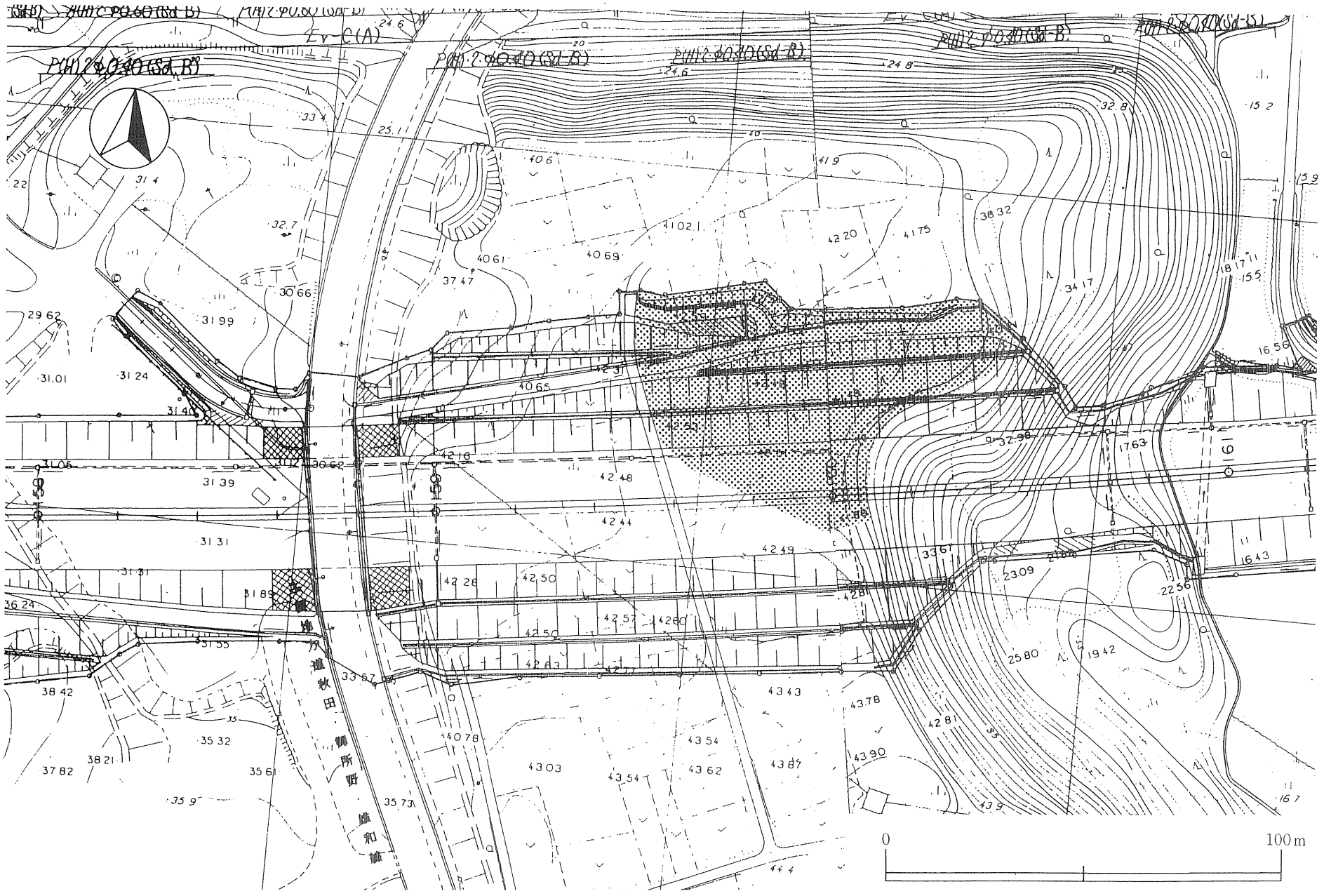
井戸尻台Ⅱ遺跡については、10,300㎡を対象として延べ861㎡のトレンチ調査を行った結果、縄文土器破片３点、石器類９点、陶磁器類７点が出土した。工事の際には立ち会い調査が必要であると思われる。



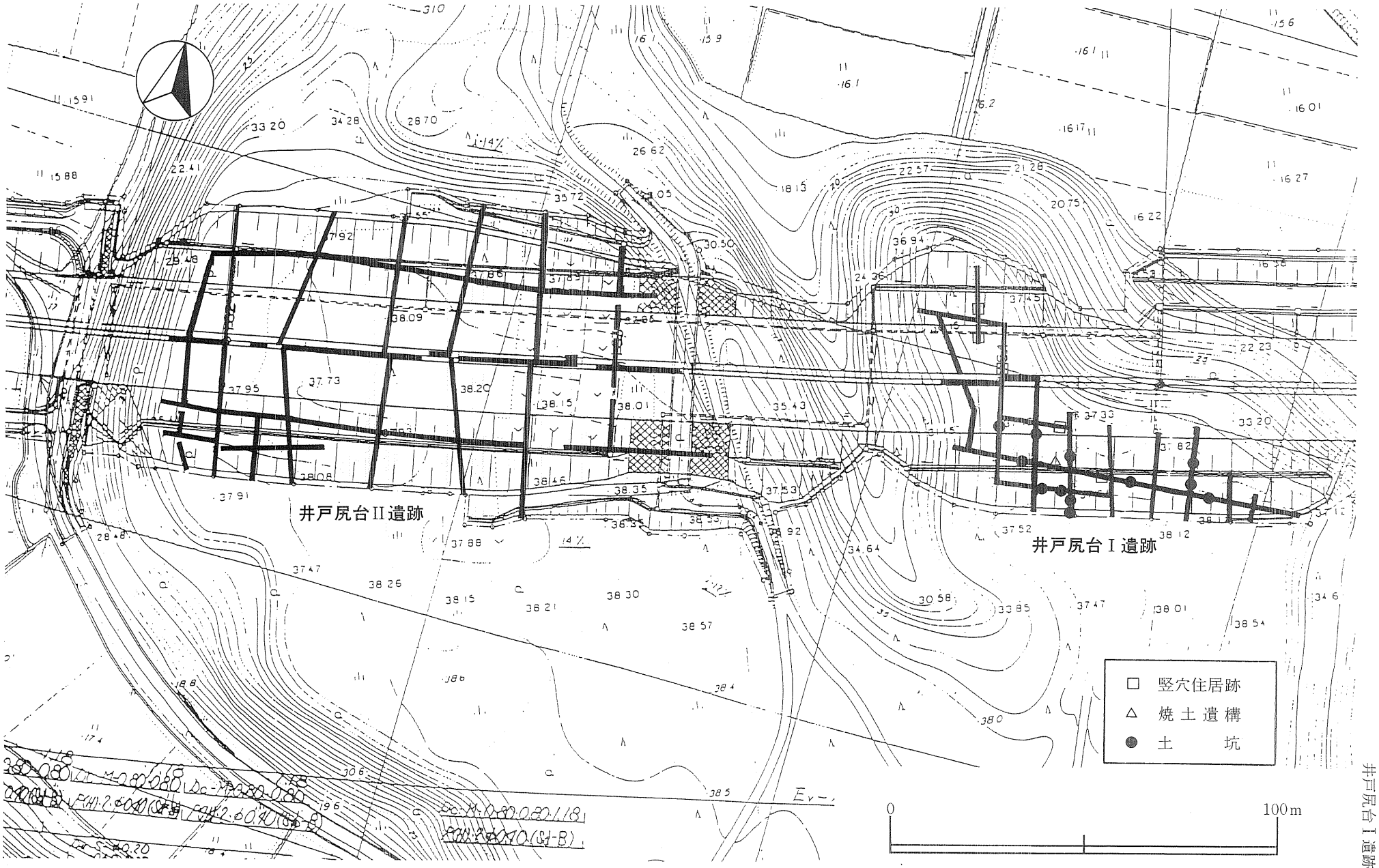
第15図　上野遺跡、井戸尻台Ⅰ・Ⅱ遺跡 位置図



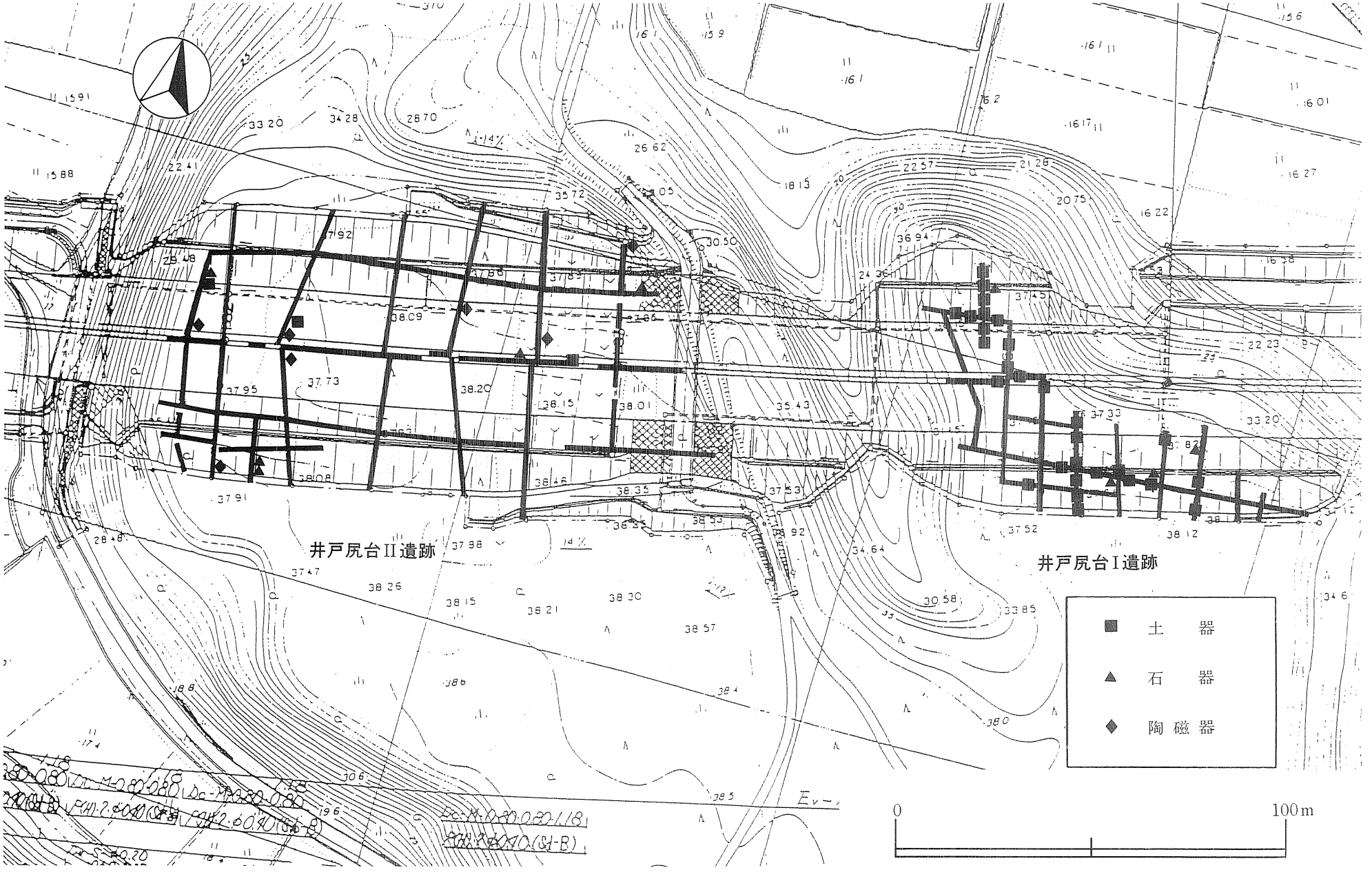
第16図　上野遺跡 範囲確認調査結果図



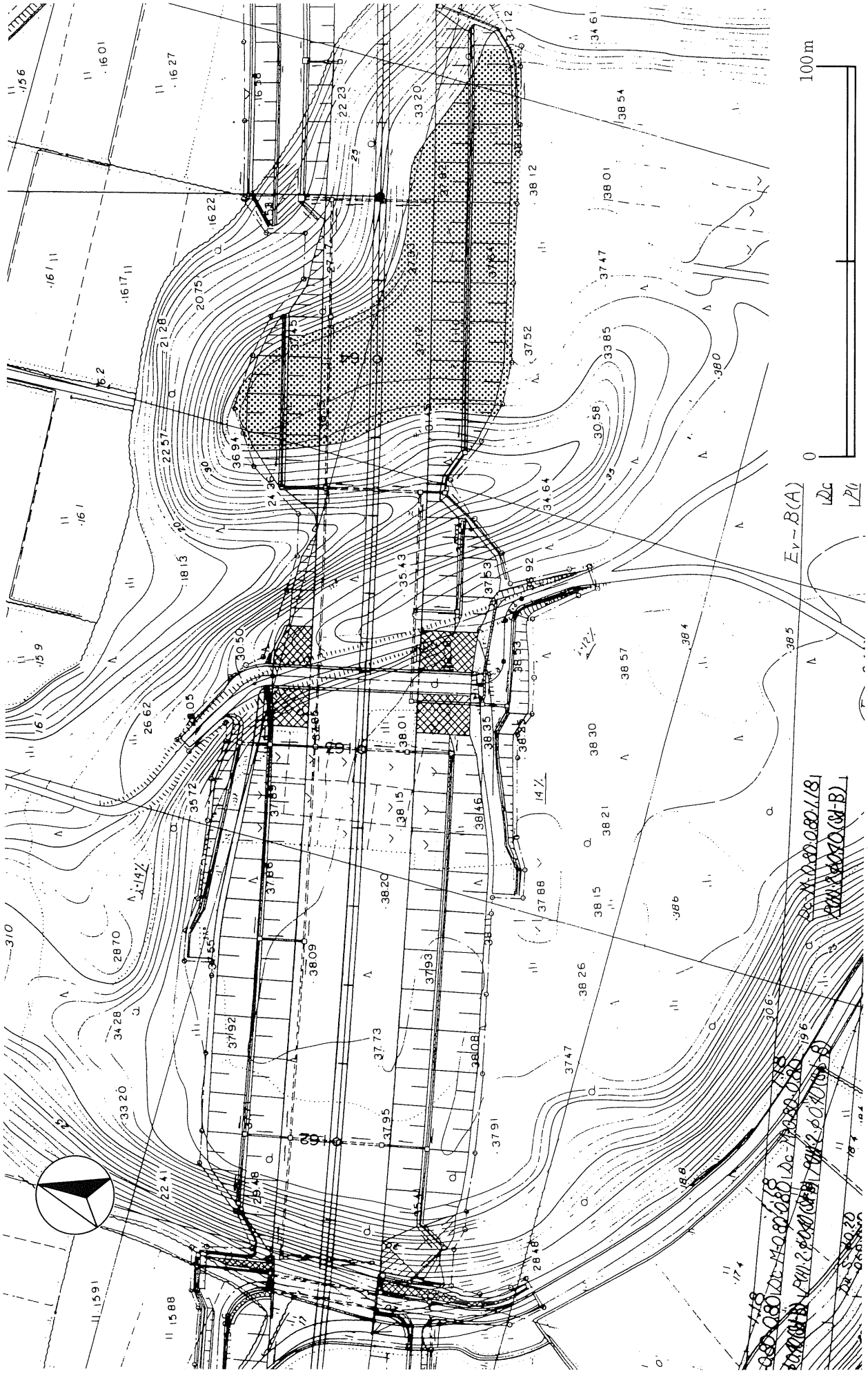
第17図　上野遺跡 工事区域内遺跡範囲図



第18図　井戸尻台Ⅰ・Ⅱ遺跡 範囲確認調査結果図(遺構検出地点)

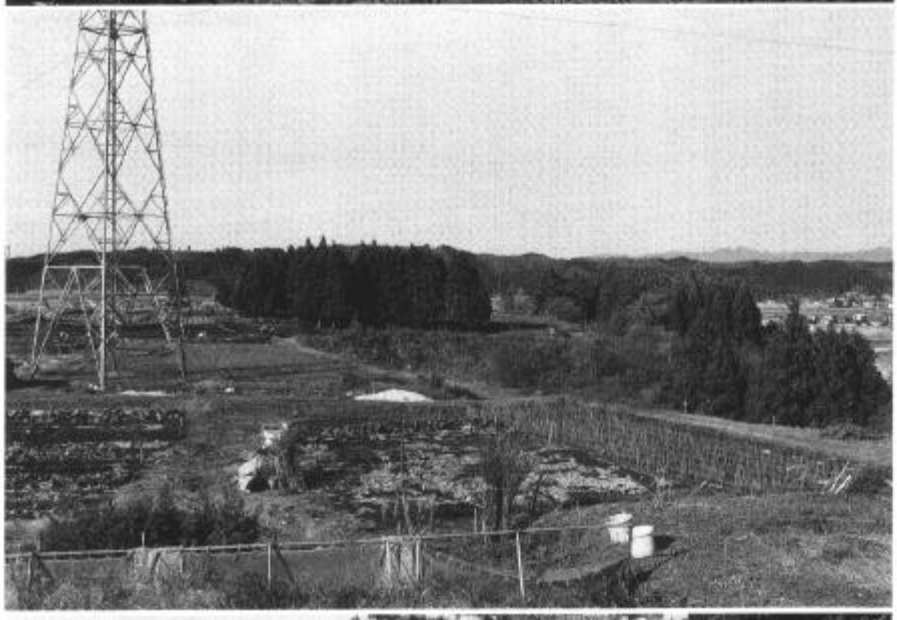


第19図　井戸尻台Ⅰ・Ⅱ遺跡 範囲確認調査結果図(遺物出土地点)



第20図　井戸尻台Ⅰ・Ⅱ遺跡　工事区域内遺跡範囲図

上野遺跡
遠景（北東から）



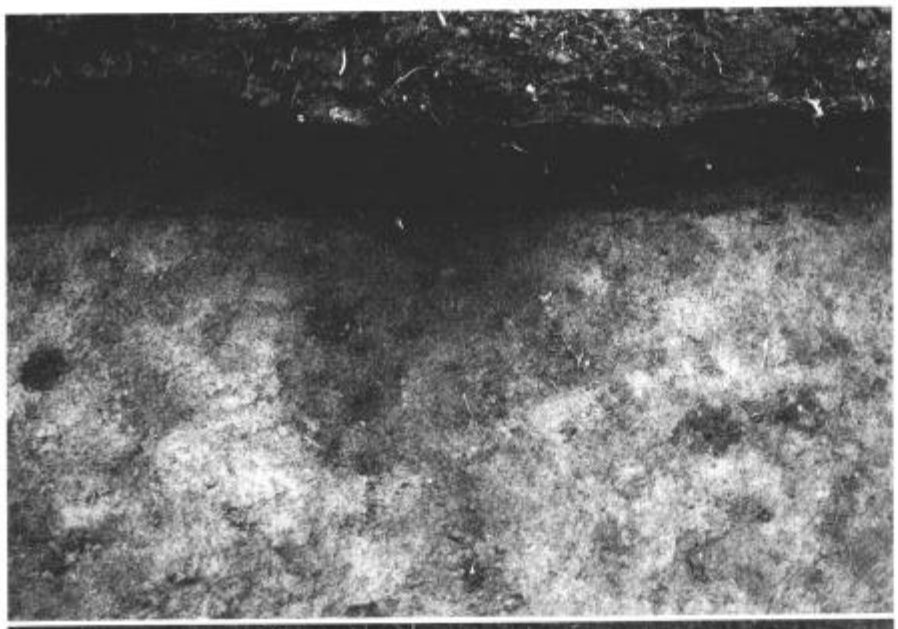
上野遺跡
現況（南から）

上野遺跡
竪穴住居跡検出状況

上野遺跡
土器出土状況

井戸尻台Ⅰ・Ⅱ遺跡
近景(北西から)

井戸尻台Ⅰ遺跡
竪穴住居跡検出状況



井戸尻台Ⅰ遺跡
土坑検出状況

井戸尻台Ⅰ遺跡
土器出土状況

井戸尻台Ⅰ遺跡
作業風景

3　大館西道路建設事業

根下戸道下遺跡（ねげとみちした）

1　遺跡所在地　　大館市根下戸新町69-１外

2　範囲確認調査期間　　平成８年11月11日～11月29日

3　範囲確認調査対象面積　14,600㎡

4　工事区域内遺跡面積　11,400㎡

5　遺跡の立地と現況

① 立地と環境

根下戸道下遺跡は大館市役所から国道7号線を西へ約3.4㎞、秋田県立大館桂高等学校の東側に位置し西流する米代川の右岸に形成された沖積面からの比高15m河岸段丘上（第二段丘で片山野と呼ばれている）に立地する。遺跡の北側を幅50～80ｍの通称「芋掘沢」が東西に下刻していて、遺跡の眼前で芋掘沢は南に折れ米代川沖積地へ下る。遺跡は芋掘沢の左岸に沿う台地縁に立地している。

遺跡の西側約300ｍの芋掘沢対岸には桂高校建設に伴い一部発掘調査が実施され、縄文時代前期末葉の甕棺墓が検出された「芋掘沢遺跡」が、さらに600ｍほど西の餅田集落内には縄文時代前期の「餅田屋敷添遺跡」が、東方約2㎞の大館第一中学校裏には古代・中世遺物が散布する稲荷中岱遺跡と、その南に縄文時代晩期の太平山遺跡がある。

② 現況

地目は山林で、調査対象地の杉林はすでに伐採されている。

6　範囲確認調査の方法

基本的に15～20ｍ間隔で、杉根の少ないところを選んでトレンチ箇所を設定し、重機で表土を除去した後、地山面を精査して遺構遺物の有無を確認していった。

なお、範囲確認調査対象面積の13％についてトレンチ調査を実施した。

7　範囲確認調査の結果

① 層序

全域で地形的に大きな変化はなく、そのため層序も全域にわたりほぼ整層をなしている。第Ⅰ層表土はかつての耕作土と腐植土で８～10㎝、第Ⅱ層は保水性の高い黒色土で25～35㎝、第Ⅲ層は暗褐色土（漸移層）で５～８㎝、第Ⅳ層が地山である。

② 検出遺構と遺物

・ 遺構

検出された遺構は、Ｐ１トレンチで径６ｍほどの円形竪穴1基（縄文早期）。Ｇ１～Ｈ１トレンチから径１ｍの円形土坑１基（時期不明）、径1.2ｍの円形土坑1基（時期不明）、長軸2.5ｍのＴpit1基（時期不明）。Ｅ１・Ｇ２・Ｈ１トレンチからチップ集積跡。調査区全域から多数の柱穴を検出した。

調査区内の台地縁からは5条の小沢（Ｂ・Ｍ１・Ｑトレンチ）を検出し、沢堆積土中より土器・石器が多数出土した。

なお、 遺物は中コンテナで3箱ほどの出土量である。

・ 遺物

土器は縄文時代早期の貝殻腹縁文土器、貝殻条痕文土器、表裏縄文土器、縄文・撚糸文土器、尖底部。縄文時代前期初頭の竹管押引文土器、中葉の円筒下層ａ式土器、末葉の円筒下層ｄ式土器、縄文時代晩期の大洞Ｂ－Ｃ式土器が出土した。

特記すべきことは縄文早期土器の出土状況が、調査区の西部から表裏縄文土器が、中央部から縄文・撚糸文土器が、東部から貝殻腹縁文土器･貝殻条痕文土器が出土していることで、各土器期の生活跡がそれぞれの区域に区分けできそうな出土状況にある。

石器は、調査区中央部の漸移層下、地山上から３ヵ所のチップ集積跡が検出され、石刃のサイドスクレイパーも２点みられることから旧石器時代遺構の存在が考えられる。

縄文時代の石器では、磨製石斧（Ｂトレンチ小沢基底部）、石槍、トランシェ様石器、石鏃、石篦、石小刀、石錐、磨石、石錘、御物石器が出土した。出土石器の中で石錘の出土率が高いのが特色である。

調査区全体から剝片、チップが多数出土したが、旧石器時代、縄文時代いずれに所属するのかは不明である。

その他、赤色顔料の原材と考えられる３～５㎝大の赤色岩塊が８個出土し、磨つぶしに使用された赤色顔料の付着した磨石１個が出土している。

８　所見

①　遺跡の種類

検出された遺物から旧石器時代の生活跡の存在が考えられる。

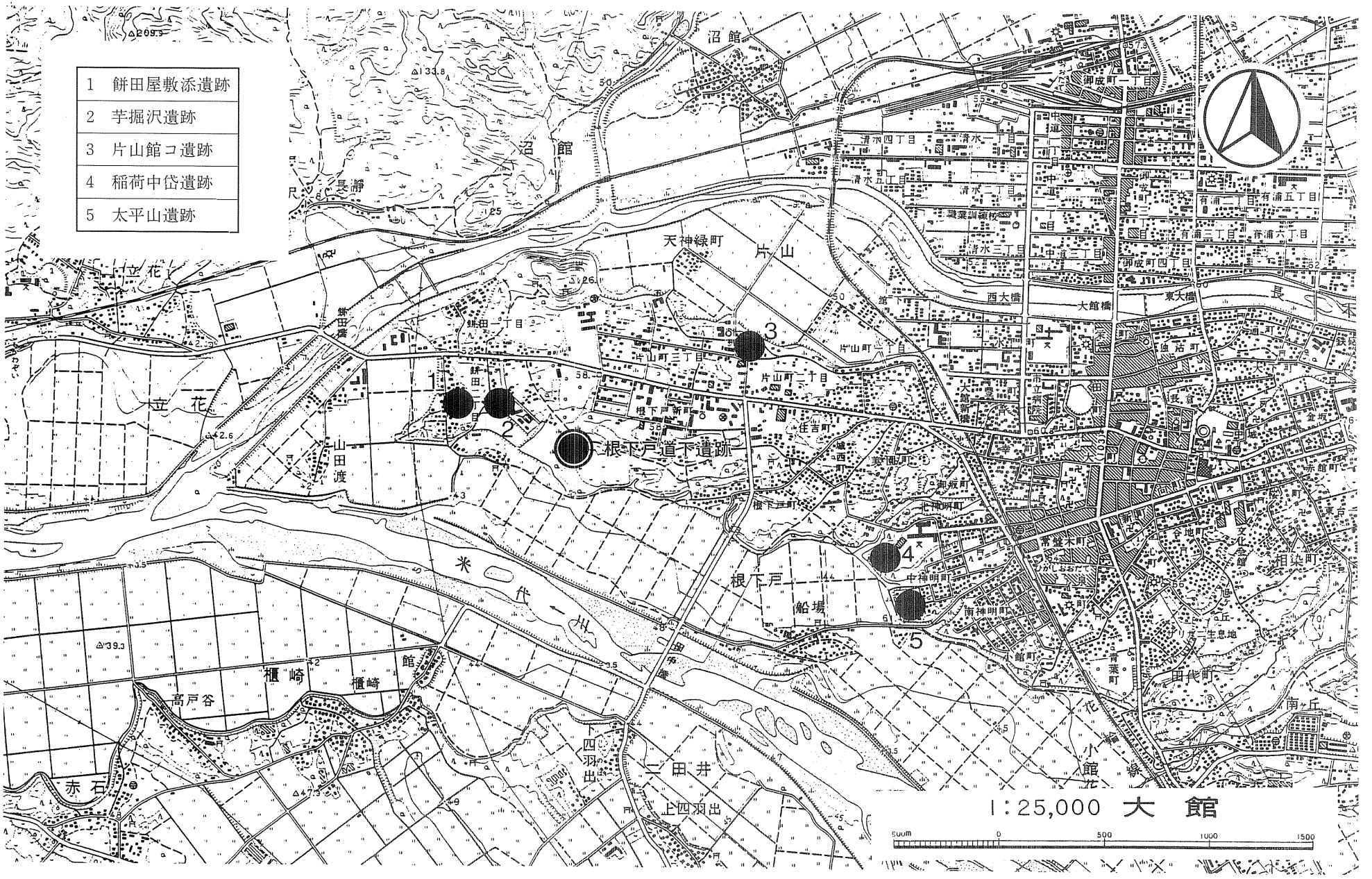
芋掘沢に面して縄文時代早期・前期・晩期の集落跡の存在が考えられ、特に縄文早期においては各土器期の集落跡が単独で存在するものと思われる。

②遺跡の範囲と工事区域

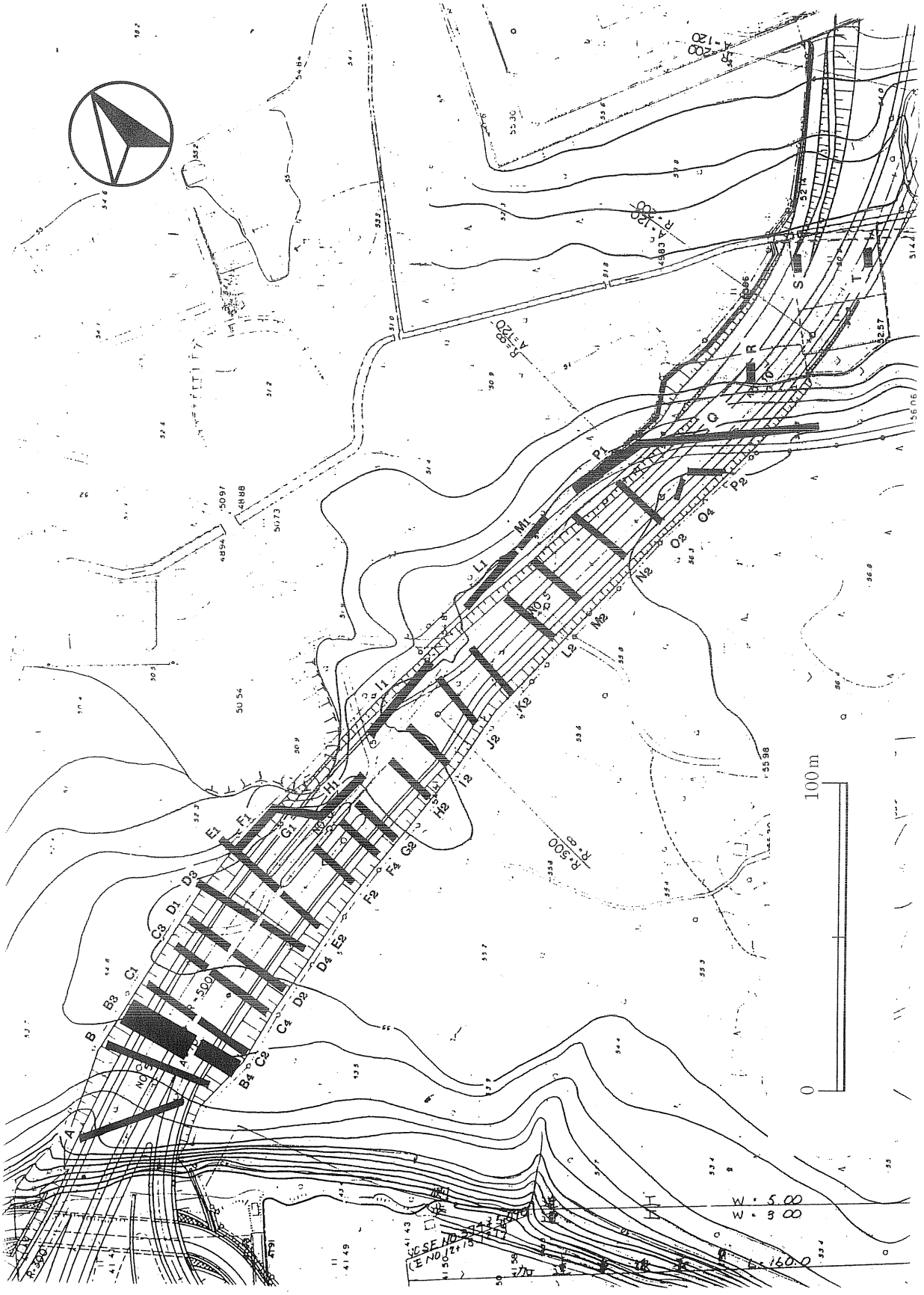
芋掘沢に向かって下刻した小沢によって作り出された北面する小台地上が集落跡の中心と考えられ、工事区域は集落の南域を縦断するとみられる。

③　発掘調査時に予想される遺構・遺物

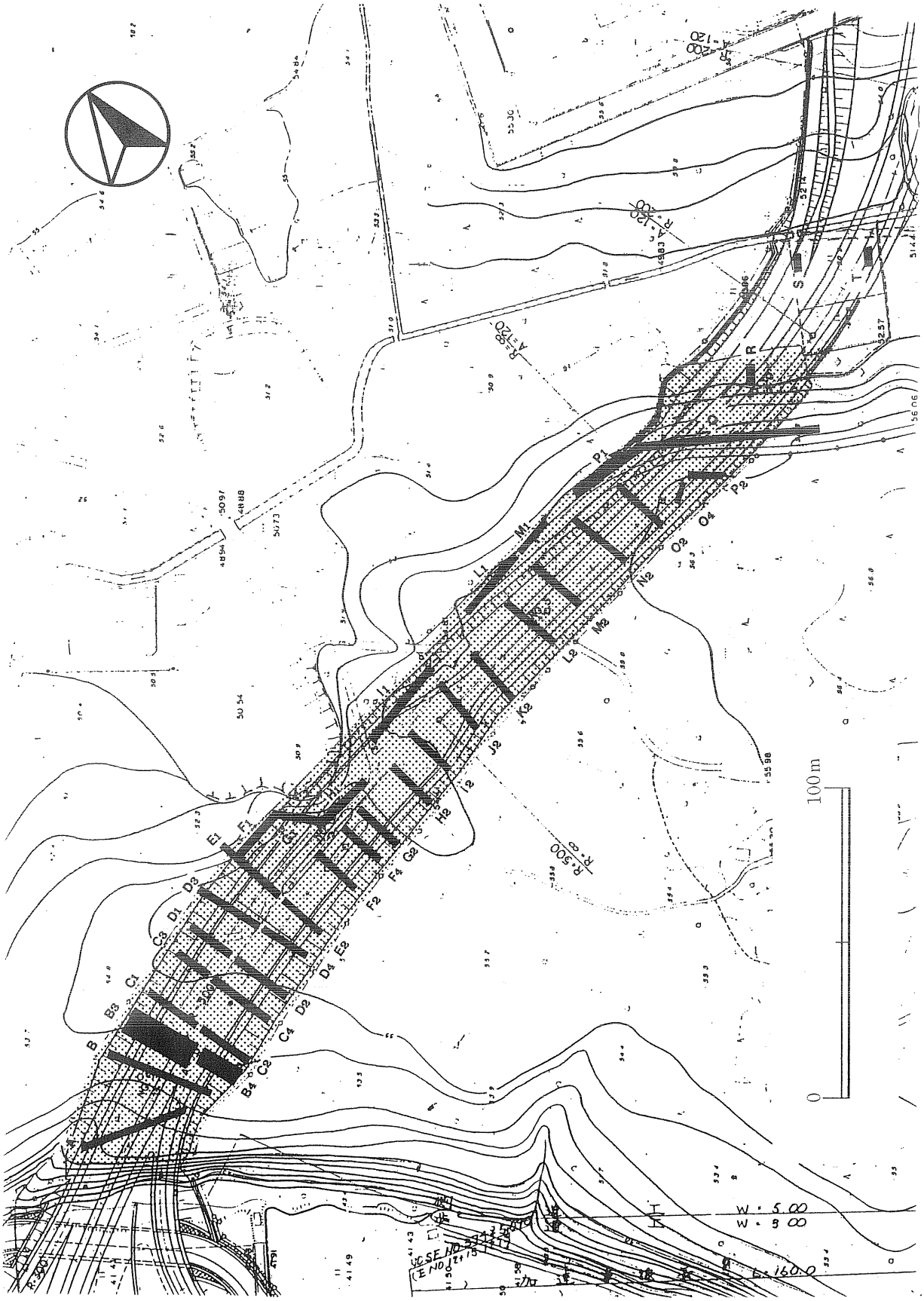
台地平坦部では旧石器時代、縄文時代早期・前期・晩期の生活遺構が予想される。台地を下刻した小沢、及び斜面ではそれら生活跡の捨て場と考えられ、土器・石器の出土が予想される。特に、台地西端（Ｂトレンチ付近）の小沢は水量が豊富で水場遺構の存在、木器等の植物利用遺物の残存が予想される。



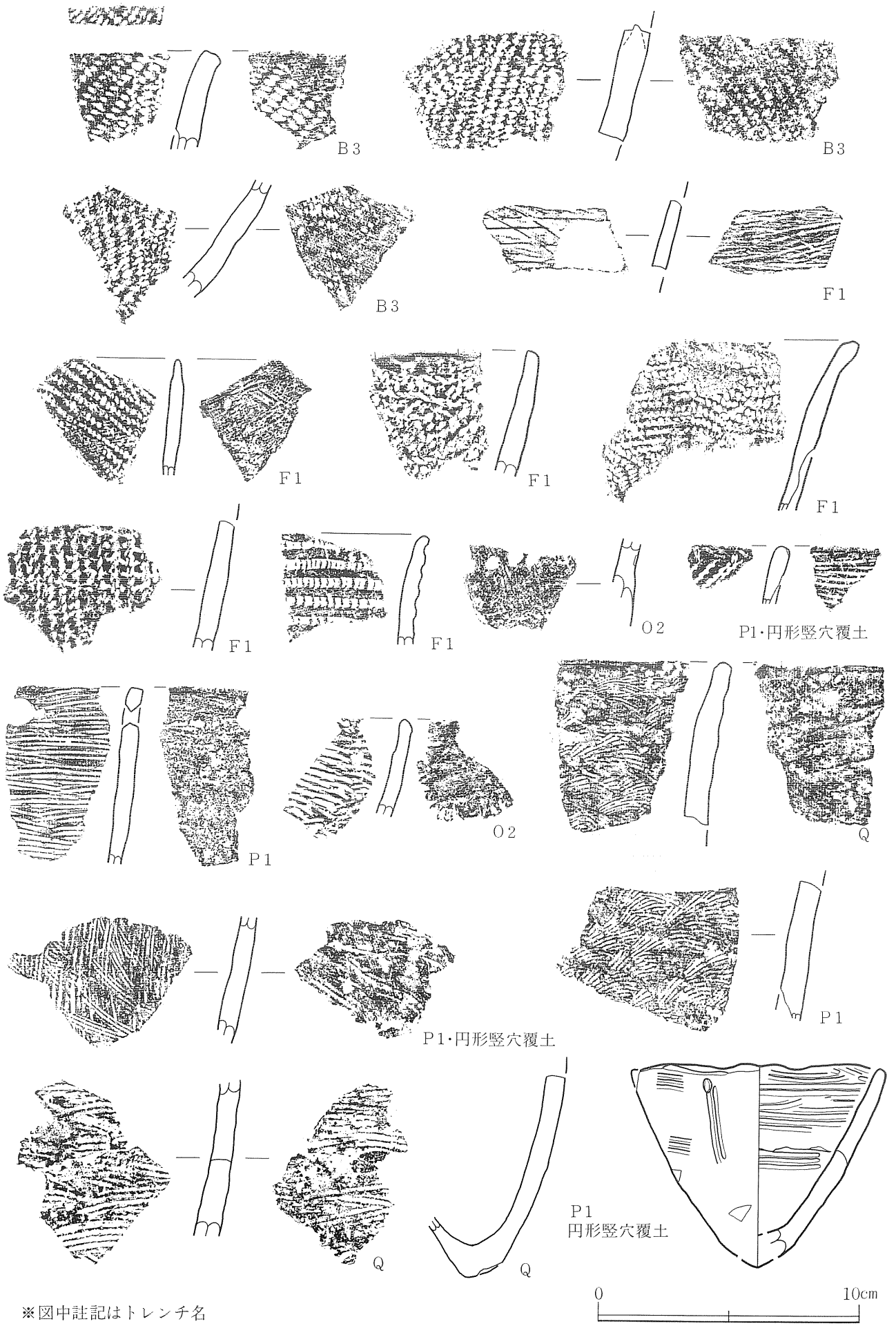
第21図　根下戸道下遺跡および周辺遺跡 位置図



第22図　根下戸遺跡　範囲確認調査　トレンチ配置図



第23図　根下戸道下遺跡　工事区域内遺跡範囲図



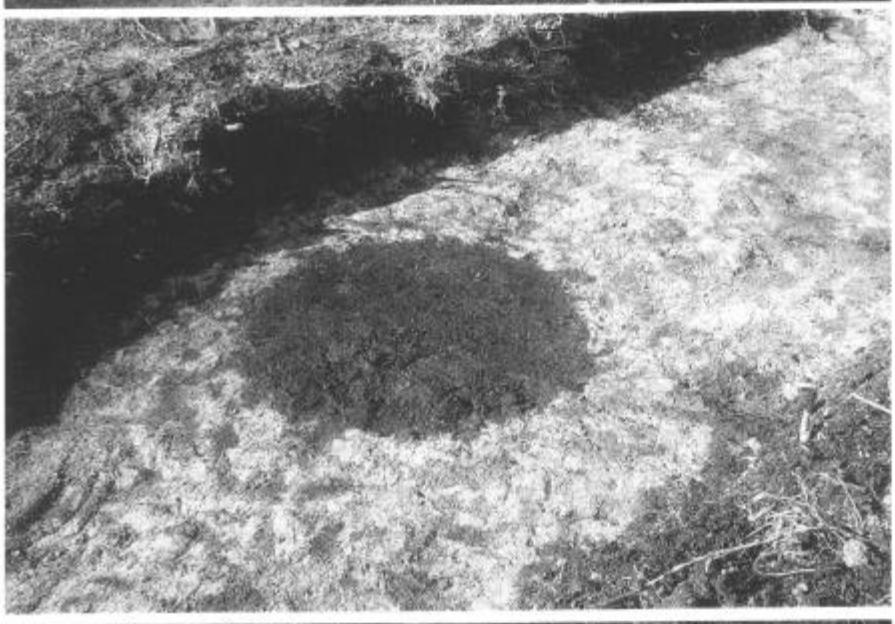
※図中註記はトレンチ名

第24図　根下戸道下遺跡 出土土器実測図

遺跡周辺全景（西北西上空から）

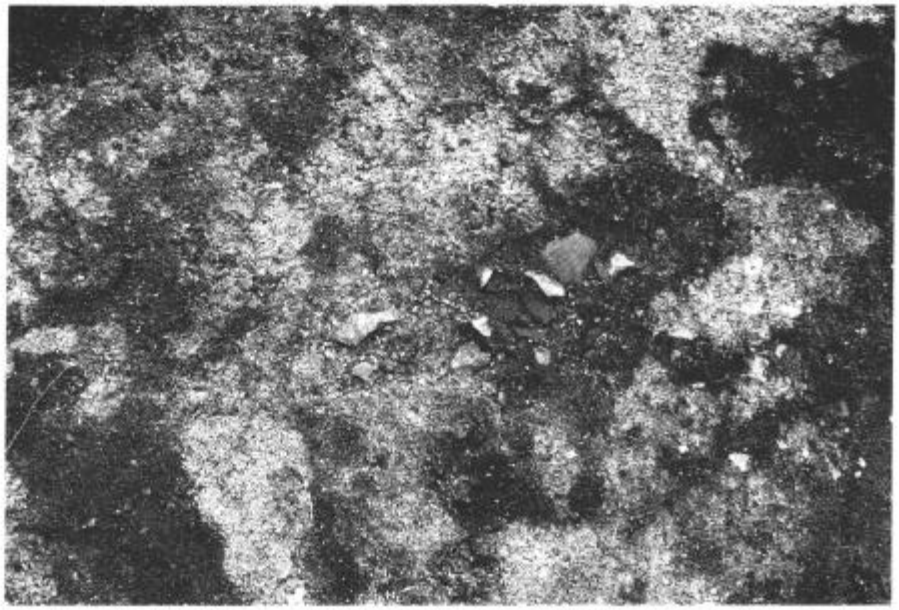
調査区全景（東から）

Ｐ１トレンチ検出の
円形竪穴（東から）

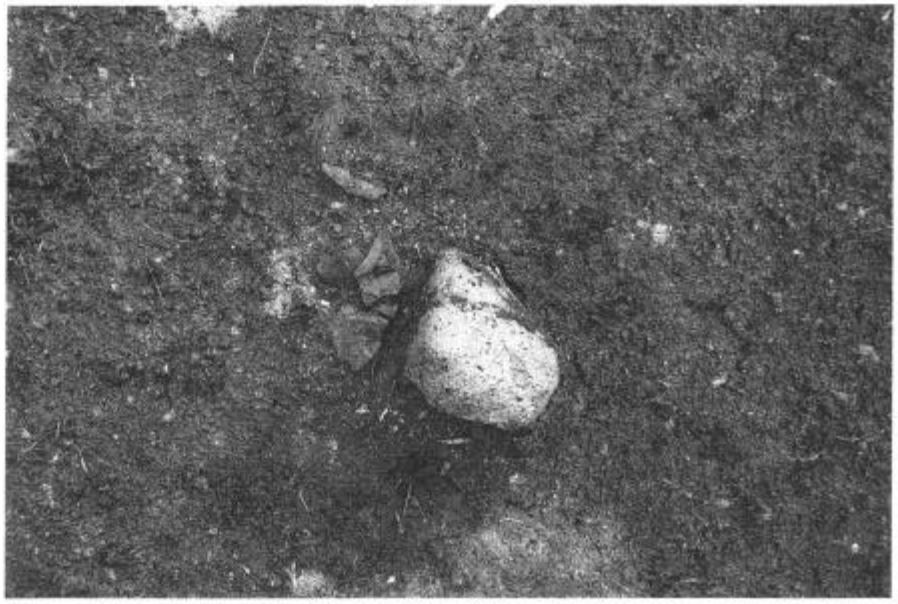


Ｈ１トレンチ検出の
円形土坑（北から）

Ｇ１トレンチ検出の
Ｔピット（南から）



Ｈ１トレンチ検出の
チップ集積跡



Ｇ２トレンチ検出の土坑
確認面における遺物出土
状況

Ｑトレンチにかかる沢の
堆積（遺物包含）状況

4　県道比内大葛鹿角線建設事業

石鳥谷館跡（いしどりやたて）

1　遺跡所在地　　秋田県鹿角市八幡平字石鳥谷 87 番地 外

2　範囲確認調査期間　　平成８年 11 月５日～ 11 月 20 日

3　範囲確認調査対象面積　8,000㎡

4　工事区域内遺跡面積　　3,550㎡（内訳：果樹園 1,268㎡、畑・農道 2,282㎡）

5　遺跡の立地と現況

(1) 立地

石鳥谷館跡は、ＪＲ花輪線陸中大里駅から西南西方向約 1.6㎞、同線八幡平駅から北西方向約 2.5㎞の距離に位置し、花輪盆地の西側山地のひとつ三ノ岳（標高 618.0ｍ）の東麓にあたり、夜明島川とその支流黒沢川の左岸台地に立地する。館は標高 200ｍ前後に高さを揃える大小 10 ほどの郭およびその裾に広がるいくつかの腰郭と空堀から成っている。各郭から標高約 160ｍの水田低地にいたる傾斜面上にいくつかの段築がほどこされ、石鳥谷集落はその段築に沿うかたちで階段状をなしている。

調査区は、石鳥谷館跡南東端およびそれに接続する地域で、館の段築の直下に位置し、黒沢川からの距離は 10 ～ 35ｍ、標高はおよそ 170 ～ 175ｍである。

(2) 現況

範囲確認調査対象区の現況は、水田・畑および果樹園（山ぶどう園）である。そのうち発掘調査対象区は畑と果樹園で、石鳥谷館跡の南東端にあたる。また、畑と果樹園の間には農道があるが、生活道路として一般に使用されていたため、その部分の調査はできなかった。

6　範囲確認調査の方法

幅坑を基準に設定した幅１ｍのトレンチ調査によって遺物の有無、遺構の存在を確認していった。表土除去はすべて重機によったが、遺構確認面までは人力で少しずつ掘り下げ、遺構の集中している場所は適宜トレンチを拡張して遺構の広がりを確認した。

トレンチの総延長は 780ｍ、試掘面積は 1,140㎡で範囲確認調査対象面積の 14.3％にあたる。

7　範囲確認調査の結果

(1) 層序 －（　）内の数字は層厚－

畑の東側（農道寄り）の 1/3 ほどは農地造成時に削平されており、表土の厚さは 30㎝程で、その下が地山である。

畑中央部の基本層序は以下のとおりである。

第１層　暗褐色土（28㎝）　－表土層、耕作土－

第２層　褐色土（10㎝）

第３層　褐色土（７㎝）

第４層　にぶい黄橙色土　－地山－

畑中央部～西側は比較的層厚があるが、東側にいくほどやや浅くなる。また、農地（水田）造成やその後の耕作による撹乱などのため、場所によっては層序が異なる場合もある。

果樹園は畑に比較して遺構の保存状況が良好で、第６層の砂礫層まで 120 ～ 160㎝と深い。果樹園の中央

部の基本層序は以下のとおりである。

第１層	暗褐色土（29cm）	－表土層、耕作土－
第２層	暗褐色土（39cm）	下にシラス粒子（白）が多く混入している。
第３層	黒褐色土（７cm）	大変硬くしまっている。
第４層	にぶい黄橙色土（16cm）	部分的に酸化している。
第５層	暗褐色土（57cm）	第２層と似ているが、第２層より軟らかい。
第６層	黄褐色土	砂礫が多く混入し、部分的に酸化している。

第２層の上面では調査区全面にわたり柱穴を検出している。また、第３層は大変硬くしまっており、他の深掘地点２箇所でもほぼ同レベルで同じ状況を確認した。

(2)検出遺構と遺物

①検出遺構

今回の範囲確認調査対象区は、南西側の水田、ほぼ中央部の畑、北東側の果樹園であったが、水田からは遺構・遺物が検出されなかったため、発掘調査の対象から除外した。

畑からは全面的に多数の柱穴を検出した。特にほぼ中央部では密集しており、重複も著しい。柱穴の形には、円形・方形・長方形の３種類があり、その直径はほぼ15～23cmのものがほとんどであるが、長方形のもののなかには辺の長さ18×26cm、深さ42cmと大きくて深いものがある。

上記の柱穴群には柱筋の通るものもあることから、柱列もしくは掘立柱建物跡と考えられる。また、柱穴から遺物は出土していないが、柱穴の埋土にはいずれも地山粒子を含み、平安時代前半に降下した火山灰（以下、大湯浮石という）の粒子は含まれない。このことから、これらの柱穴は大湯浮石の降下以前に掘られ、かつ廃絶されたものか、館の郭として整地した際に大湯浮石層が除去され、その後に掘られたものと推定される。

果樹園からは焼土遺構を１基と柱穴を多数検出した。柱穴の分布は畑より密ではないが、調査区から全面的に検出され、北西部に一部集中している箇所も確認した。検出面は第２層上面であり、柱穴はいずれも円形で埋土中に大湯浮石粒子を含む。集中箇所の柱穴は径19～20cmで、径13～17cmの柱痕の周囲に大湯浮石を含んだ褐色土を埋めており、他に地山であったと思われるシラスや炭の粒子も混入している。

果樹園の現地形はほぼ平坦であるが、北東端の黒色土を深く掘り下げたところ、旧地形は北東方向に下がり、かなり傾斜していることが判明した。平坦面では大湯浮石層やシラス層は確認されていないが、この地点では整地の際に大湯浮石層とシラス層などで盛土をしたと思われ、さらに両層を掘り込んだ柱穴と、この層と同レベルでの焼土遺構を確認している。この柱穴の掘込み面と焼土確認面は先述の第２層上面で検出した柱穴より下のレベル（第３層）に相当する。

以上のことから館の郭としての遺構面は少なくとも２面あると推定され、その時期は柱穴の埋土や北東端斜面の状況から、２面とも大湯浮石の降下以降と考えられる。

また、畑と果樹園から縄文土器が出土していることから縄文時代の遺構の存在も予想される。

②出土遺物

遺物は縄文土器９点（前期後半－円筒下層式－と後期）、土師器４点、フイゴの羽口１点、陶磁器15点（室町～江戸時代の肥前産など）、煙管（キセル－江戸後期）などが出土した。

8　所見

(1)遺跡の種類

縄文時代、平安時代の集落跡、中世の館跡、および江戸時代の複合遺跡である。

(2)遺跡の範囲と工事区域

水田部は遺構・遺物が検出されなかったので、遺跡範囲から除外した。また、畑の南西端は表土が浅いう

えに、その下が礫層になっており、遺構の存在は認められないと判断した。したがって、工事区域内遺跡範囲は、水田と畑の南西端を除く、台地上の畑・果樹園およびその両者を結ぶ道路（農道）部分である。

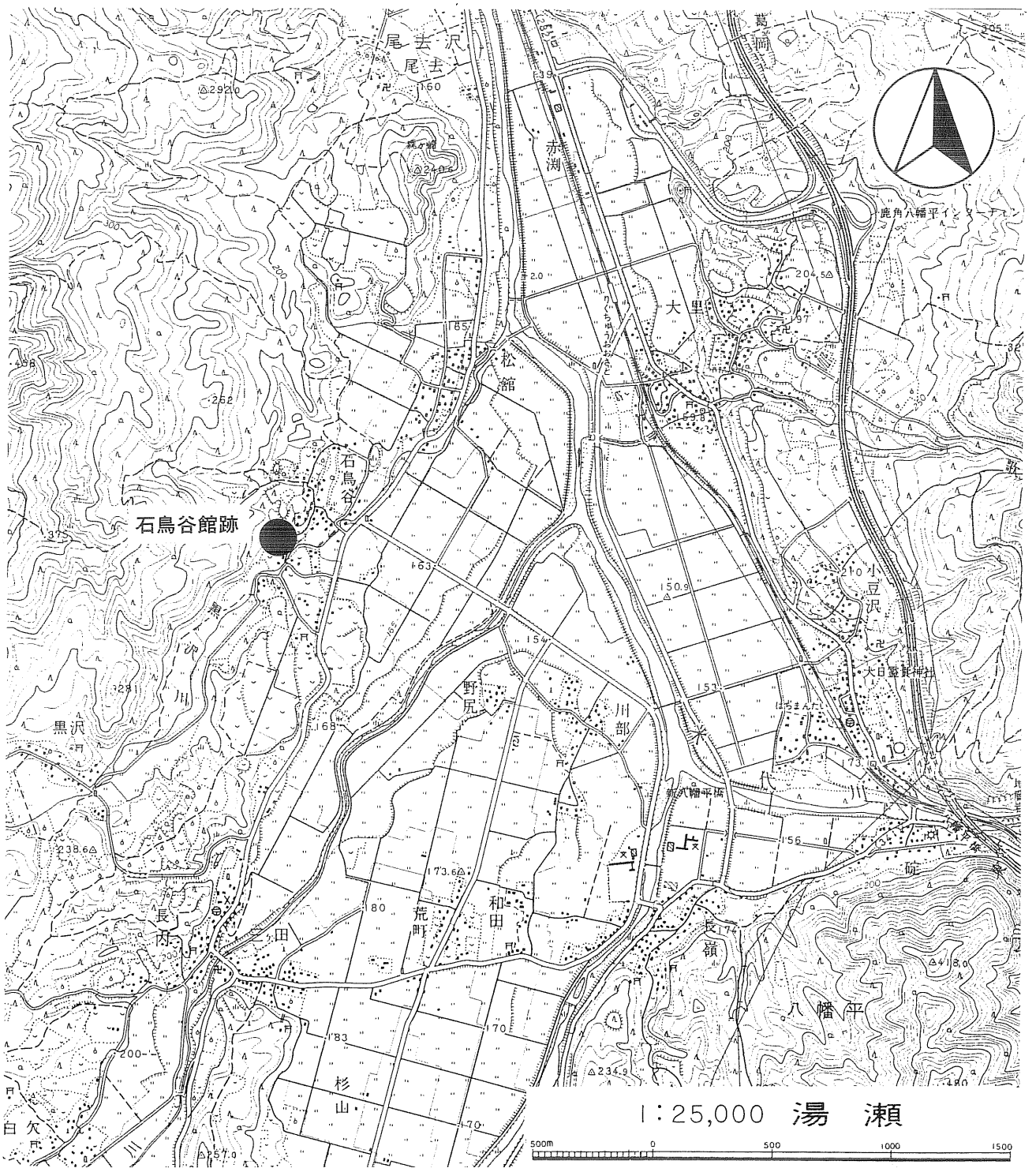
(3)発掘調査時に予想される遺構・遺物

遺物の出土量はさほど多くないと思われる。しかし、遺構は館跡にともなうと思われる柱穴（掘立柱建物跡・柱列）が多数検出された。とくに果樹園では遺構面が少なくても２面確認される。それを含めると、各時期の中心地点はずれるであろうが、最大６層の文化面が重複する可能性がある。それは古い時代から、

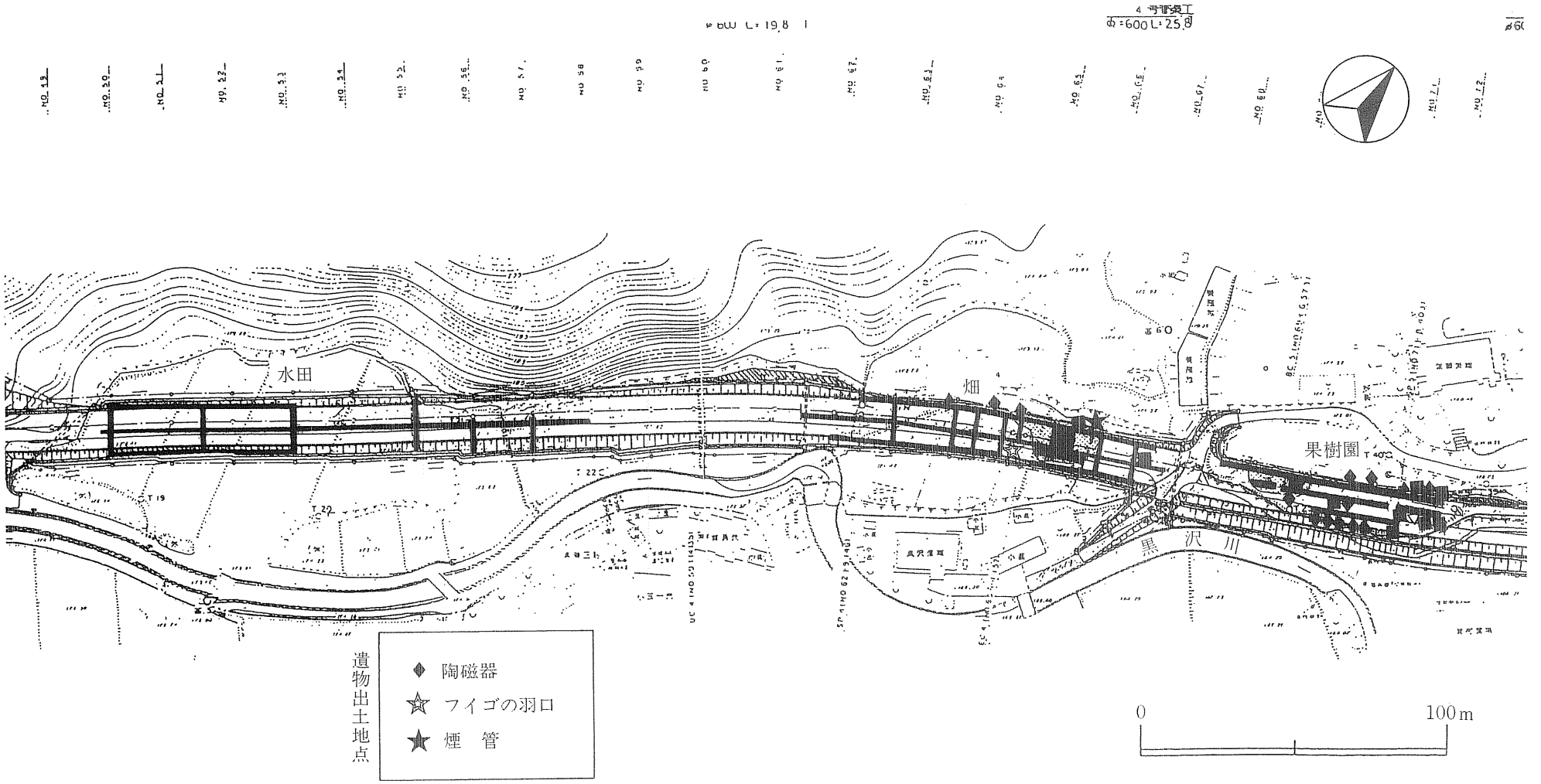
1　縄文時代前期　　2　縄文時代後期　　3　平安時代

4　中世（第３層上面）　5　中世（第２層上面）　6　近世

の順番となる。

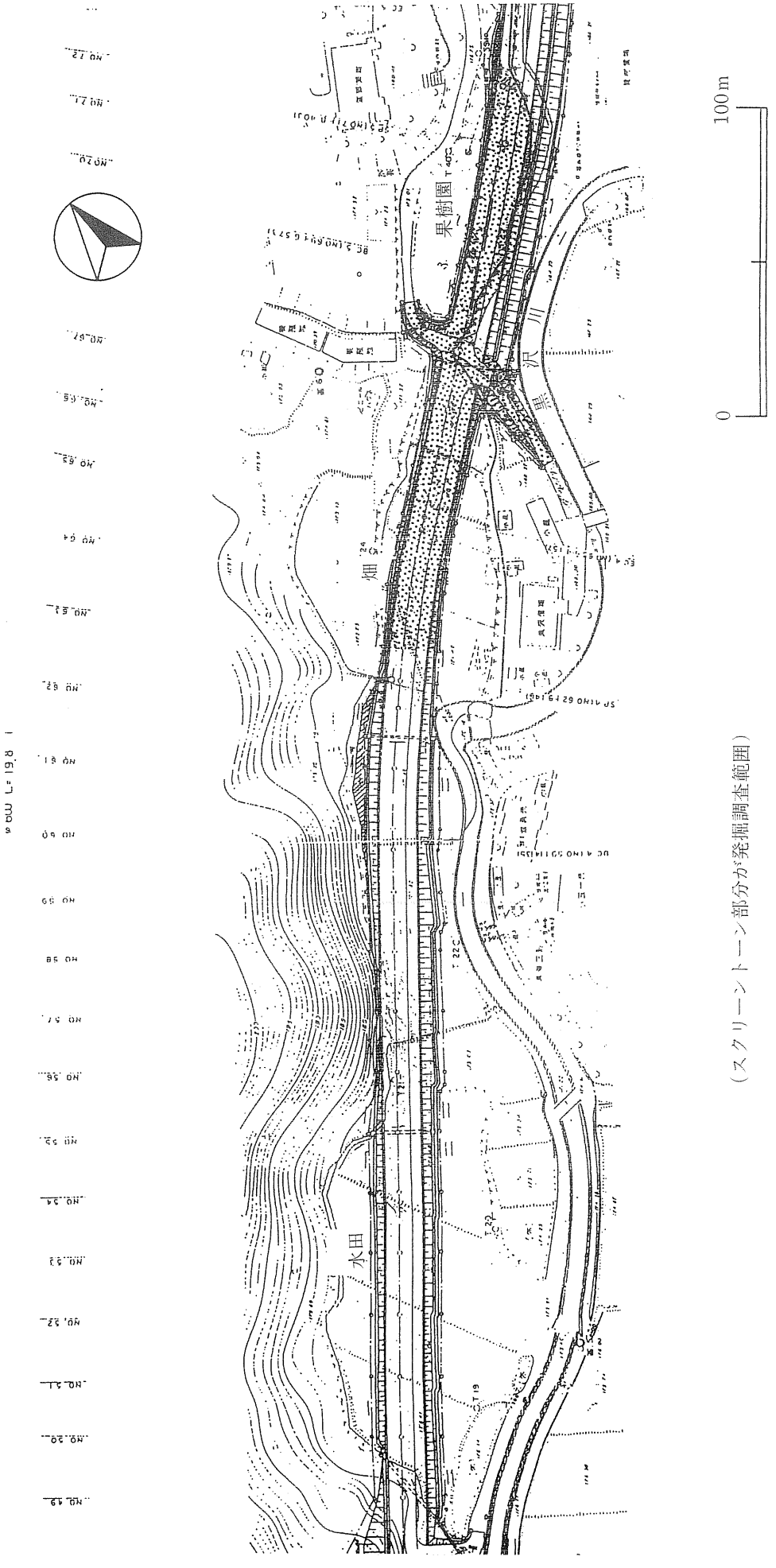


第25図　石鳥谷館跡　位置図



スクリーントーン部分は柱穴集中範囲

第26図　石鳥谷館跡　範囲確認調査結果図



（スクリーントーン部分が発掘調査範囲）

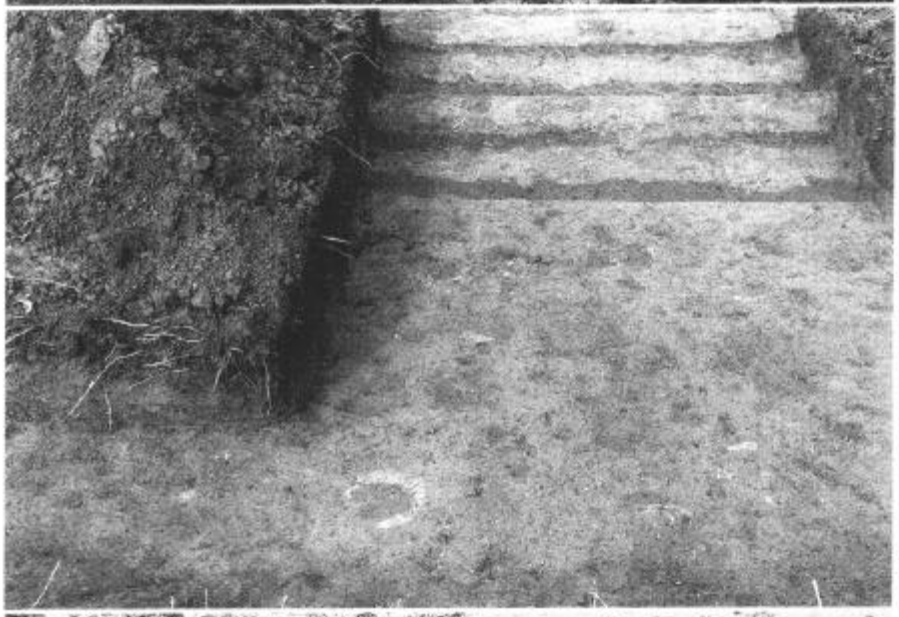
第27図　石鳥谷館跡　工事区域内遺跡範囲図

調査前の状況（南から）

調査前の状況ー果樹園ー
（南から）

調査の状況　ー果樹園ー
（西から）

掘立柱建物跡　検出状況
ー畑ー（南から）



掘立柱建物跡　検出状況
ー果樹園ー〔奥の溝は後世の撹乱〕（南から）

深掘土層断面ー果樹園ー
〔中央は柱穴〕（東から）

5　田沢湖オートキャンプ場建設事業

潟前（かたまえ）遺跡

1　遺跡所在地　　秋田県仙北郡田沢湖町田沢字潟前69外
2　範囲確認調査期間　　平成８年５月20日～５月31日
3　範囲確認調査対象面積　12,000㎡
4　工事区域内遺跡面積　　12,000㎡
5　遺跡の立地と現況

(1)立地

田沢湖畔の北東に位置し、笹森山の山麓が南西に伸びた裾部にあたる。標高265ｍから255ｍの間はなだらかな傾斜地となっており、東と西に沢が入り込んでいることから南向きの舌状地形となっている。

(2)現況

かつては山林であったが、南西の一部に杉林がのこっている他は、原野となっていた。

6　範囲確認調査の方法

キャンプ場予定地内を縦断する道路計画杭を利用し、東西のトレンチライン（１ｍ幅）を設定した。また２ヵ所に南北ラインを加えた。各試掘地点における遺構・遺物の有無を確認し、あわせて土層の観察を行った。なお第29図のトレンチ番号は道路計画杭番号にあわせて呼称した。範囲確認調査面積としては、遺跡全体の4.5％を行った。

7　範囲確認調査の結果

(1)層位

遺跡の層位は、表土が黒色土であり、その下に遺物を包含する褐色土があり、地山は黄橙色あるいは明黄褐色の粘土質土となっている。

第29図に示したＡ１～Ａ４地点における層位と深さを下に記した。

Ａ１　表土黒色土25㎝・褐色土10㎝・地山黄橙色土
Ａ２　表土黒色土30㎝・褐色土30㎝・地山黄橙色土
Ａ３　表土黒色土50㎝・地山明黄褐色土
Ａ４　表土黒色土20㎝・褐色土20㎝・地山明黄褐色土

(2)遺構と遺物

西側では褐色土上面に遺構が確認された。第６トレンチでは焼土遺構、折れた石棒、第８トレンチでは長径20～30㎝の楕円形の石をすきまなく埋め込んだ列石があった。 北西側の第12トレンチでは地山面で上面に石が置かれた土坑を１基、その他の土坑と思われる遺構のプランを２ヵ所で確認した。北の高台部では、地山面で焼土遺構を２ヵ所で確認した。

遺物は調査したすべてのトレンチで出土し、褐色土上面から地山直上にかけて多量に包含されていた。標高258ｍから下位の傾斜地では縄文時代前期前半の土器と偏平な石の両端を打ち欠いた石錘が多量に、標高258ｍより上位では縄文時代後期前半の土器が多く出土した。上位部周辺で土偶４点が出土しているのが注目される。

なお遺物は、土器と石器が多く、中コンテナで20箱程の出土量があった。

8　所見

(1)遺跡の種類

規模の大きな縄文時代前期・後期の複合遺跡であり、縄文時代前期の集落が舌状の先端部にあり、縄文時代後期の集落は高位部にあると考えられる。また高位部の西側には祭祀あるいは墓域に関連する縄文時代後期の配石遺構群があるものと推定される。

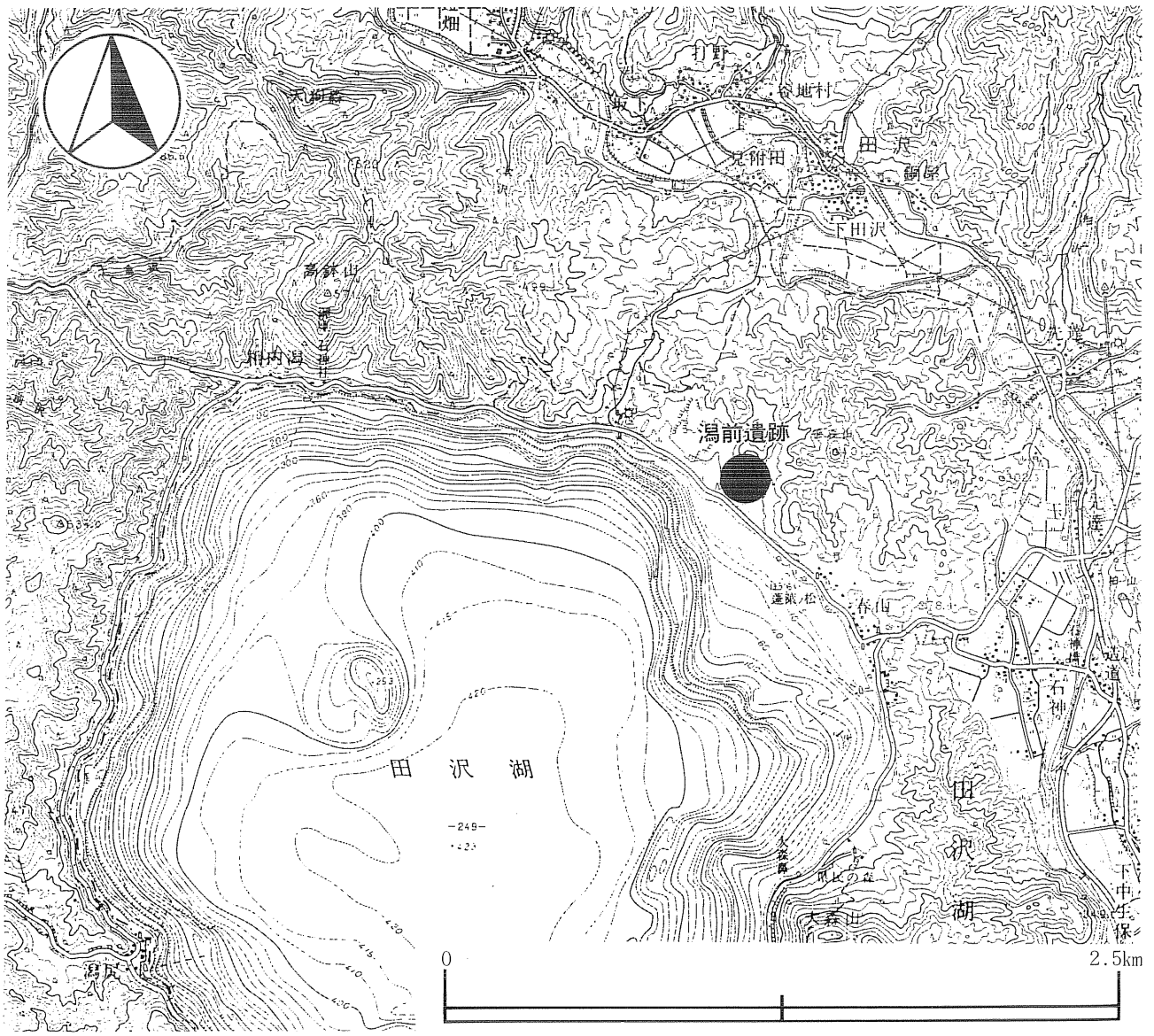
(2)遺跡の規模

遺構・遺物の検出状況から標高265ｍから255ｍの間の傾斜地全体が遺跡の範囲であると判断した。

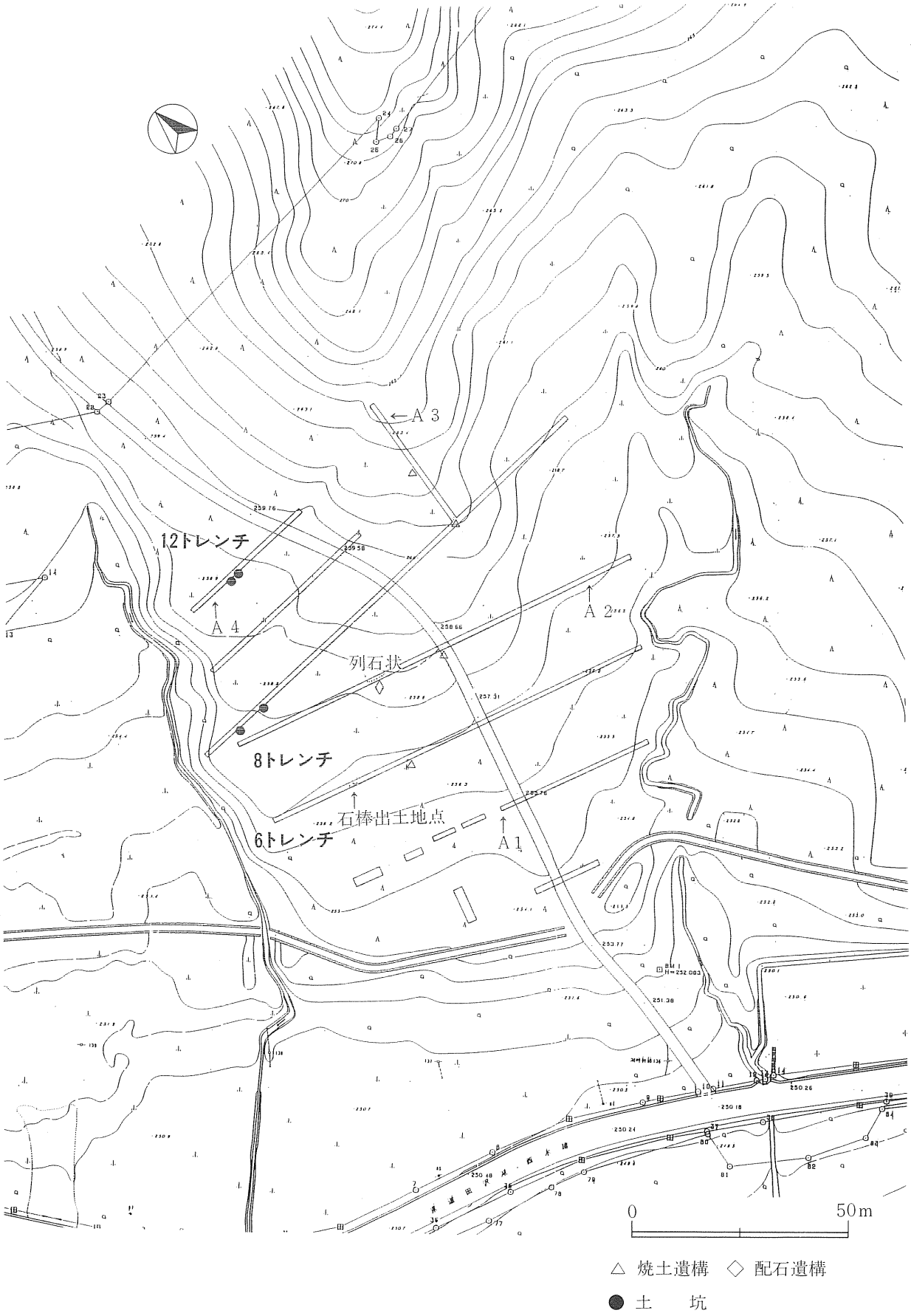
(3)発掘調査時に予想される遺構・遺物

舌状の先端部において縄文時代前期の住居跡群および土坑群が、高位部では縄文時代後期の住居跡群が検出されると予想される。高位部の縁辺斜面での遺物出土量が多いことから、生活用具の廃棄場所である可能性も高い。また高位部の西側では長さ４ｍの列石が確認されたが、ボーリング探査による石のあたり具合から、直径15ｍの範囲とその周辺に石がめぐっている可能性がある。

褐色土における遺物包含の割合が高く、全域で多量の遺物が出土するものと予想される。また斜面中腹においては褐色土の上位と下位で、それぞれ縄文後期の遺物と縄文前期の遺物が、層位的に連続して出土するものと予想される。



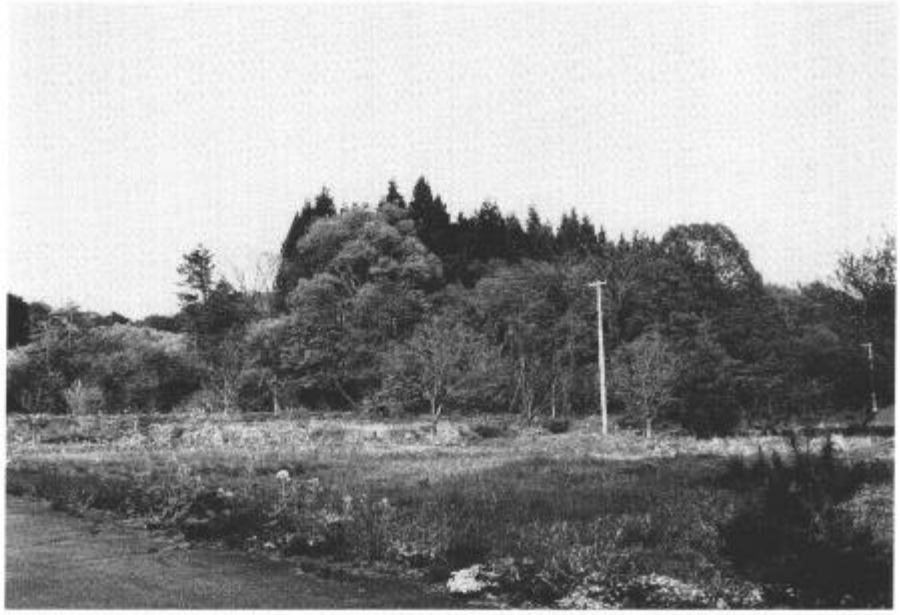
第28図　潟前遺跡　位置図



第29図　潟前遺跡　範囲確認調査結果図

※スクリーントーン部分が遺跡範囲

第30図　潟前遺跡　工事区域内遺跡範囲図



西側低地より北東に遺跡をみる

遺跡の北側から南をみる

遺物出土状況

石棒出土状況

台地中央の列石

台地北西側の石のまとまり